

令和9年度

アドミッション・ポリシー

福岡大学

FUKUOKA UNIVERSITY

CONTENTS

人文学部

文化学科	2
歴史学科	4
日本語日本文学科	6
教育・臨床心理学科	8
英語学科	10
ドイツ語学科	12
フランス語学科	14
東アジア地域言語学科	16

法学部

法律学科	18
経営法学科	20

経済学部

経済学科	22
産業経済学科	24

商学部

商学科	26
経営学科	28
貿易学科	30

商学部第二部

商学科	32
-----	----

理学部

応用数学科	34
社会数理・情報インスティテュート	36
物理科学科	38
化学科	40
地球圏科学科	42

工学部

機械工学科	44
電気工学科	46
電子情報工学科	48
化学システム工学科	50
社会デザイン工学科	52
建築学科	54

医学部

医学科	56
看護学科	58

薬学部

薬学科	60
-----	----

スポーツ科学部

スポーツ科学科	62
健康運動科学科	64



養成する人材像・教育課程の特色

多様な価値観が共存し、社会の複雑化が進む現代にあって、文化の多様性を良く理解し、広い視野と柔軟な発想力を身につけ活用する能力をもつ人を育てることがわれわれの目標です。そのため、基本的な学習態度を習得し、実り豊かな対話を行う力が身につくよう、1年次に基礎演習、2年次以後は文化学演習という少人数ゼミがおかれています。同時に、学生が、自分の志向に合わせて、多様な文化に関心を持ち、多角的・総合的に理解できるよう、哲学・宗教学・芸術学・社会学・心理学・地理学・文化人類学の各専門科目が置かれています。文化学科は、卒業生が文化の多様性を理解し固定観念にとらわれずに社会で活躍できるような教育を目指しています。

A 知識・理解

高等学校の教育内容を幅広く学修しており、文化の多様性を学ぶに十分な基礎学力を有している人

文化学科で学ぶ際に必要な前提の知識として、高等学校までに学習する教科・科目に関する基本的な知識があげられます。特に、多様な文化の現れを理解し、自分の言葉で表現する能力の基礎となる作文力や自分の意見をはっきり伝える力は入学するまでよく鍛えておいてください。また多様な文化の現れを正しく認識するためには、「観察力・洞察力」も必要です。その基礎を高校時代に育てておくためには、高校での学習に留まらず、日常生活で興味を持った事象についても積極的に調べて考えてみる習慣をつけておいてください。入学試験に課されない科目であっても幅広く学んでいることを望んでいます。

B 技能

学習や課外活動から得た経験を踏まえて、自らの視点で物事を順序立てて説明できる人

文化というものは、人と人との交流から生まれ、人間の社会で育っていくものです。それを学び理解するには、確かな根拠に基づいて自分の考えをわかりやすく論理的に説明することや多様な意見を取りまとめる力が求められます。それゆえ、母語としての日本語の読解力と表現力を高め、言葉に対する感覚を磨くことが必要です。高等学校での国語を中心とする学習はもちろん、日頃から、新聞の社説や論説など身近なところにある論理的文章を読み、自身の意見を整理したうえで、それを論理的に主張できるよう、心がけてください。また、友人や先生、家族との対話を大切にしてください。

求める人材像 (求める能力)

C 態度・志向性

本学科で学べる多様な文化の興味深さと有用性を理解し、その過程で得る知識や技能を社会のために積極的に活用したいと考えている人

テレビやラジオだけでなく、インターネットやSNSなど、現在、わたしたちの身の回りにはさまざまな情報があふれていますが、そうした大量の情報を良く吟味し正しく理解しなくては、他の人びとの生活や社会にさまざまな害を与えかねない時代となっています。文化学科では、社会に対する責任を自覚し、倫理観をもって、文化の多様さを理解した上で、社会に貢献しようとする強い意志をもった人を歓迎します。このような倫理観や使命感は、社会に出てから働いていくうえで欠かせない自己研鑽をつむ基盤ともなります。

D その他の能力・資質

自己研鑽によって英語の資格を取得した人やスポーツ活動などで顕著な成績をおさめた人

現在の日本はグローバル化が進展しており、福岡でもさまざまな国からの訪問者を見かけることが珍しくなくなりました。そんな時代において、英語で他者とコミュニケーションをとることも日常的なものとなっています。さらに、入学後は英語で文献を読解することなども要求されます。それゆえ、話す・聞く・書く・読むといった英語の4技能を総合的に活用できることを高く評価しています。他方で、文化活動はわれわれの生活や日常に根付いた存在でもあります。それゆえ、学級や学年を離れてさまざまな人々と活動を共にする課外活動に積極的に参加し、活躍した人についても、評価しています。

入学者選抜のねらい

文化学科は、学びや諸活動の中で挑戦し続ける意欲あふれる人材や、文化の多様性に興味を持ち、文化のさまざまな現れを深く学びたいという人材を国内外から広く受け入れます。

そのために、これまでに培われた基礎学力、活動や経験を通じて身に付けた能力、資質、学ぶ意欲などを、多面的・総合的に評価する多様な入学試験を実施します。

入学試験での評価

入試制度	選考方法	配点	評価項目				合否判定の方法	
			A	B	C	D		
総合型選抜	アスリート特別	提出書類	総評	●	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(競技成績に関する基準あり・全体の学習成績の状況3.0以上・英語の評定の平均または国語の学習成績の状況3.5以上・専願制・自己推薦・クラブ部長等推薦) [一次選考]提出書類(調査書・自己推薦書・推薦状・競技歴証明資料)により総合的に選考する。 [二次選考]小論文・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・小論文・評価項目に基づいて行う。
		小論文	総評		●			
		面接	総評		●	●	●	
学校推薦型選抜	A方式	教科・科目	100	●				<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(専願制・学校長推薦) 個別試験(2科目)の得点・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行い、段階評価したうえ点数化する。
		面接	20		●	●	●	
一般選抜	系統別日程	教科・科目	400	●				<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(3科目)の得点により、選考する。 英語・国語の得点を1.5倍する。[傾斜配点]
	前期日程	教科・科目	300	●				<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(3科目)の得点により、選考する。
	前期日程・共通テスト併用型	教科・科目	400	●				<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(前期日程2科目)と大学入学共通テスト(2科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。
		(英語資格)	★	●			●	
	共通テスト利用型Ⅰ期	教科・科目	600	●				<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト(4科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。
		(英語資格)	★	●			●	
共通テスト利用型Ⅱ期	教科・科目	600	●				<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト(3科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。 	
	(英語資格)	★	●			●		
後期日程	教科・科目	200	●				<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(2科目)の得点により、選考する。 	
特別選抜	帰国生徒	教科・科目	100	●				<ul style="list-style-type: none"> 日本の国籍を有する者又は日本国の永住許可を得ている者のうち、外国の学校で学んだ者を対象とする。 個別試験(2科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。 小論文は、自己の意見を明確に文章で表現できているかを評価する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。
		小論文	100		●			
		面接	総評		●	●		
	社会人	教科・科目	100	●				<ul style="list-style-type: none"> 社会人としての活動や経験を有した者を対象とする。 個別試験(2科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。 小論文は、自己の意見を明確に文章で表現できているかを評価する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。
		小論文	100		●			
		面接	総評		●	●		
学部留学生(後期日程)	教科・科目	100	●				<ul style="list-style-type: none"> 外国の国籍のみを有し、日本国内外を問わず12年の課程を修了(見込み)の者またはこれに準ずる者を対象とする。ただし、日本の高校を卒業した者は、学校教育法に基づく小学校・中学校・中等教育学校・高等学校の在籍期間が通算3年以内である者。 日本留学試験・個別試験(1科目)の得点・提出書類・面接(作文含む)により総合的に選考する。 面接(作文含む)は、提出書類・評価項目に基づいて行う。また、基礎学力や日本語運用能力を確認するための口頭試問を含む。 	
	面接	総評	●	●	●			
編・転・学士	教科・共通教育科目	200	●				<ul style="list-style-type: none"> 短期大学卒業(見込み)の者、専修学校の専門課程修了(見込み)の者、他大学に継続して2年以上在学したことがある(見込み)の者、学士の学位を有する(見込み)の者を対象とする。 編・転入試は、個別試験(2科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。学士入試は、面接のほかに筆記試験を課すことがある。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。 	
	面接	総評		●	●			

評価項目

A: 知識・理解 / B: 技能 / C: 態度・志向性 / D: その他の能力・資質
 ●: 重点を置いて評価している / 総評: 点数化はしないが、段階評価し、総合的に評価している



養成する人材像・教育課程の特色

古代以来、文明のクロスロードとして豊かな歴史をはぐくんできた九州の地域性に根ざしつつ、九州から日本史・世界史を見直す地域的な視点と、アジア、ヨーロッパ、アメリカなど世界を見据える国際的な視点とを併せ持つ教育と研究の推進を理念とします。歴史学科では、少人数教育を徹底しておこない、導入教育において大学生としての基本的能力を養い、さらに専門教育では、日本史、東洋史、西洋史、考古学の各分野において高い専門性と複眼的な幅広い視野をもつ人材の養成を目指します。

A 知識・理解

高等学校の教育内容を幅広く学修しており、歴史学を学ぶに十分な基礎学力を有している人

歴史学科で歴史を学んでいく際に必要となるのは、歴史に関する知識ばかりではありません。高等学校における日本史や世界史の基礎知識は前提となりますが、本学科の授業には、英語などの外国語で書かれた史料や文献の講読があるため、英語や国語の基礎知識が不可欠です。また、歴史学や考古学の史・資料を分析の対象とする際には、歴史の知識や語学力に加え、その他の様々な知識も必要となりますので、入学試験に課されない科目をも含めた幅広い学びと深い理解を望んでいます。

B 技能

問題点を発見し、それを他者に分かりやすく説明することが出来る人

歴史学科では、少人数のゼミナール形式による授業が学びの中心となります。ここでは、参加する学生が自ら調査・研究した事柄を発表し、それを参加者全員で検討・議論して考察を深めていきます。その際には、調べた内容について簡潔に要点をまとめる能力、他者に分かりやすく説明する能力、さらに問題点を発見・発掘して提起する能力などが必要となります。これらの技能は、一朝一夕には身につかないため、日頃から読書やクラブ活動、ボランティア活動などを通して視野を広げ、他者との直接的対話によってコミュニケーションをとることが大切です。

求める人材像 (求める能力)

C 態度・志向性

歴史学の高度な専門知識や幅広い教養を生かして社会で活躍したいと考える人

歴史学科では、日本史、東洋史、西洋史、考古学の各分野において高い専門性を身に付け、教員や博物館学芸員・文化財保護調査員など、学んだことを生かした職業で活躍したいと希望する人材を求めます。あわせて、専門分野の枠を超えて、幅広い知識と教養、広い視野を兼ね備えた、国際社会で活躍したいと希望する人材を求めます。

D その他の能力・資質

スポーツなどの課外活動で優秀な成績をおさめた人や英語の資格を取得した人

歴史学科では、少人数のゼミナール形式による授業において各人の能動的・積極的な取り組みが必須となります。問題点の発掘、調査・研究、発表、議論などで発揮されるであろう、スポーツその他の課外活動を通じて培った積極性やたゆまぬ努力を歴史学科では高く評価します。また、英語などの外国語で書かれた史料や文献の講読は、歴史学研究の大前提となりますので、英語の4技能(話す・聞く・書く・読む)を活用できる人を大いに歓迎します。

入学者選抜のねらい

歴史学科は、大学で学んだことを生かした職業で活躍したいと希望する意欲あふれる人材を国内外から広く受け入れます。そのために、これまでに習得した基礎学力、諸活動や経験を通じて培った能力などを多面的かつ総合的に評価する多様な入学試験を実施します。

入学試験での評価

入試制度	選考方法	配点	評価項目				合否判定の方法	
			A	B	C	D		
総合型選抜	アスリート特別	提出書類	総評	●	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(競技成績に関する基準あり・全体の学習成績の状況3.0以上・日本史探究、世界史探究のいずれかの評定の平均4.0以上・専願制・自己推薦・クラブ部長等推薦) [一次選考] 提出書類(調査書・自己推薦書・推薦状・競技歴証明資料)により総合的に選考する。 [二次選考] 小論文・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・小論文・評価項目に基づいて行う。
		小論文	総評		●			
		面接	総評		●	●	●	
学校推薦型選抜	A方式	教科・科目	100	●				<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(専願制・学校長推薦) 個別試験(2科目)の得点・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行い、段階評価したうえで点数化する。
		面接	20		●	●	●	
一般選抜	系統別日程	教科・科目	400	●				<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(3科目)の得点により、選考する。 選択科目の得点を2倍する。[傾斜配点]
	前期日程	教科・科目	300	●				
	前期日程・共通テスト併用型	教科・科目	400	●				<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(前期日程2科目)と大学入学共通テスト(2科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。
		(英語資格)	★	●			●	
	共通テスト利用型Ⅰ期	教科・科目	600	●				<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト(4科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。
		(英語資格)	★	●			●	
共通テスト利用型Ⅱ期	教科・科目	600	●				<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト(3科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。 	
	(英語資格)	★	●			●		
後期日程	教科・科目	200	●				<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(2科目)の得点により、選考する。 	
特別選抜	帰国生徒	教科・科目	100	●				<ul style="list-style-type: none"> 日本の国籍を有する者又は日本国の永住許可を得ている者のうち、外国の学校で学んだ者を対象とする。 個別試験(2科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。 小論文は、歴史に関する基礎知識とともに総合的学力を評価する。 面接は、提出書類や評価項目に基づいて行う。
		小論文	100	●	●			
		面接	総評		●	●		
	社会人	教科・科目	100	●				<ul style="list-style-type: none"> 社会人としての活動や経験を有した者を対象とする。 個別試験(2科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。 小論文は、歴史に関する基礎知識とともに総合的学力を評価する。 面接は、提出書類や評価項目に基づいて行う。
		小論文	100	●	●			
		面接	総評		●	●		
学部留学生(後期日程)	教科・科目	100	●				<ul style="list-style-type: none"> 外国の国籍のみを有し、日本国内外を問わず12年の課程を修了(見込み)の者またはこれに準ずる者を対象とする。ただし、日本の高校を卒業した者は、学校教育法に基づく小学校・中学校・中等教育学校・高等学校の在籍期間が通算3年以内である者。 日本留学試験・個別試験(1科目)の得点・提出書類・面接(作文含む)により総合的に選考する。 面接(作文含む)は、提出書類・評価項目に基づいて行う。また、基礎学力や日本語運用能力を確認するための口頭試問を含む。 	
	面接	総評	●	●	●			
編・転・学士	教科・共通教育科目	200	●				<ul style="list-style-type: none"> 短期大学卒業(見込み)の者、専修学校の専門課程修了(見込み)の者、他大学に継続して2年以上在学したことがある(見込み)の者、学士の学位を有する(見込み)の者を対象とする。 編・転入試は、個別試験(2科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。学士入試は、面接のほかに筆記試験を課すことがある。 面接は、提出書類や評価項目に基づいて行う。 	
	面接	総評		●	●			

評価項目

A: 知識・理解 / B: 技能 / C: 態度・志向性 / D: その他の能力・資質

●: 重点を置いて評価している / 総評: 点数化はしないが、段階評価し、総合的に評価している



養成する人材像・教育課程の特色

日本語日本文学科は、日本の文化や社会の根幹である日本語と、その結実としての日本文学を広く深く学びます。「日本語」「日本文学」という学科名称は、高校まで学んだ「国語」の内容を客観的に見つめなおし、学問を国際的な視点から捉えようとするものです。本学科では古典文学の素養を高める基礎教育に力を入れつつ、古代語から現代語までの日本語学、古典文学から現代文学までの日本文学、および外国文学と日本文学の比較文学を総合的に学ぶことで豊かな教養と深い洞察力を備えた人材を養成します。それによって日本語の高度なコミュニケーション能力を身に付けた広い視野を持つ人間を育み、国際化社会で活躍し得る人材、専門的知識によって地域社会に貢献し得る人材を養成することを目的としています。

A

知識・理解

高等学校の教育内容を幅広く学修し、日本語学・日本文学を学ぶに十分な基礎学力を有している人

本学科で学ぶ際に必要となる前提的な知識は、高等学校までに学習する各教科・科目に関する基本的な知識です。特に日本語学や日本文学を学ぶ上で、国語力は重要な基礎となります。古典・現代文を問わず幅広く読書しておくことが国語力の支えになります。また「世界の中の日本」を意識して学ぶためには英語能力も欠かせません。文学を学ぶには地理や歴史・政治・経済等の社会科目の知識はもちろん、芸術や理科の知識も様々なジャンルの文章理解のための基礎となります。日本語を客観的に分析するには数学で身につける論理的思考能力も必要です。バランスの取れた人材になるために、入学試験に課されない科目も幅広く学んでいることが望まれます。

B

技能

学習や課外活動、幅広い読書経験をもとに、正確に物事を考え自らの言葉で表現できる人

日本語学・日本文学の研究は、まずは自分たちが日々使っている「言葉」と正面から向き合うことから始まります。日本語を客観的に分析することにしても、文学作品を深く理解することにしても、そのベースは自らの日本語力です。日本語力は読解力にしても表現力にしても、現実の生活経験や幅広い読書体験をもとに「自らの言葉」として身につけていくものです。読解力が身につけば的確に物事を考えられるようになりますし、自らの言葉を身につければ自分の伝えたいことを的確に言葉にすることができるようになります。特に表現力を身につけるには、机上の学習だけでなく人前で発言したり議論したりする練習も必要になります。

求める人材像 (求める能力)

C

態度・志向性

自らの日本語能力と日本文学の素養をさらに向上させ、積極的に生かしていこうとする人

日本人であれば日本語を使えるのは当然のように思われますが、日本語を「使いこなす」レベルになるのは簡単なことではありません。また言葉は場面により、相手により、文章のタイプにより、様々な使い分けや配慮も必要です。そういう難しいことに尻込みせず、興味を持って自らの日本語力を日々向上させていこうとする人こそ本学科で求める人材です。さらに様々な形の読書体験を積んで日本文学の素養を向上させ、その能力を生活や人間関係、さらには仕事に何らかの形で積極的に生かしていこうとする人を歓迎します。日本語・日本文学は、教育などの専門的な仕事のほかにも様々な形で現実社会と関係があるのです。

D

その他の能力・資質

自己研鑽により、英語の資格を取得した人やスポーツ活動・競技会等で顕著な成績をおさめた人

本学科が「日本語日本文学」という学科名になっているのは、外国語と対比させて日本語について客観的に考え、日本文学を外国文学との関係の中で学ぶという意味があります。そのため、英語について話す・聞く・書く・読むという4技能を身につけ、活用できることを高く評価します。他方で、日本語・日本文学を学ぶには柔軟で細やかなコミュニケーション能力がその基礎となります。様々な人たちと活動を共にする課外活動に積極的に参加し、活躍した人についても、コミュニケーション能力の点から評価しています。

入学者選抜のねらい

日本語日本文学科は、様々な時代の文学作品や日本語の多様な姿に関心を持って広く深く学ぼうとする意欲あふれる人材や、多様な背景を持ち、さまざまな能力を有する人材を国内外から広く受け入れます。

そのために、これまでに培われた基礎学力、活動や経験を通じて身に付けた能力、資質、学ぶ意欲などを、多面的・総合的に評価する多様な入学試験を実施します。

入学試験での評価

入試制度	選考方法	配点	評価項目				合否判定の方法	
			A	B	C	D		
総合型選抜	アスリート特別	提出書類	総評	●	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(競技成績に関する基準あり・全体の学習成績の状況3.0以上・国語の学習成績の状況4.0以上・専願制・自己推薦・クラブ部長等推薦) [一次選考] 提出書類(調査書・自己推薦書・推薦状・競技歴証明資料)により総合的に選考する。 [二次選考] 小論文・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・小論文・評価項目に基づいて行う。
		小論文	総評		●			
		面接	総評		●	●	●	
学校推薦型選抜	A方式	教科・科目	100	●				<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(専願制・学校長推薦) 個別試験(2科目)の得点・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行い、段階評価したうえで点数化する。
		面接	20		●	●	●	
一般選抜	系統別日程	教科・科目	400	●				<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(3科目)の得点により、選考する。 国語の得点を2倍する。[傾斜配点]
	前期日程	教科・科目	300	●				<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(3科目)の得点により、選考する。
	前期日程・共通テスト併用型	教科・科目	400	●				<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(前期日程2科目)と大学入学共通テスト(2科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。
		(英語資格)	★	●			●	
	共通テスト利用型Ⅰ期	教科・科目	600	●				<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト(4科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。
		(英語資格)	★	●			●	
	共通テスト利用型Ⅱ期	教科・科目	600	●				<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト(3科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。
(英語資格)		★	●			●		
後期日程	教科・科目	200	●				<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(2科目)の得点により、選考する。 国語の得点を1.2倍、英語または数学の得点を0.8倍する。[傾斜配点] 	
特別選抜	帰国生徒	教科・科目	100	●				<ul style="list-style-type: none"> 日本の国籍を有する者又は日本国の永住許可を得ている者のうち、外国の学校で学んだ者を対象とする。 個別試験(2科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。 小論文は、日本語・日本文学の素養と興味のありかたを評価する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。
		小論文	100		●			
		面接	総評		●	●		
	社会人	教科・科目	100	●				<ul style="list-style-type: none"> 社会人としての活動や経験を有した者を対象とする。 個別試験(2科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。 小論文は、日本語・日本文学の素養と興味のありかたを評価する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。
		小論文	100		●			
		面接	総評		●	●		
学部留学生(前期日程)	教科・科目	650	●				<ul style="list-style-type: none"> 外国の国籍のみを有し、日本国内外を問わず12年の課程を修了(見込み)の者またはこれに準ずる者を対象とする。ただし、日本の高校を卒業した者は、学校教育法に基づく小学校・中学校・中等教育学校・高等学校の在籍期間が通算3年以内である者。 教科・科目については日本留学試験(2科目)の得点、提出書類については指定する英語外部試験の結果を含み、総合的に選考する。 	
	提出書類	総評	●	●	●	●		
学部留学生(後期日程)	教科・科目	100	●				<ul style="list-style-type: none"> 外国の国籍のみを有し、日本国内外を問わず12年の課程を修了(見込み)の者またはこれに準ずる者を対象とする。ただし、日本の高校を卒業した者は、学校教育法に基づく小学校・中学校・中等教育学校・高等学校の在籍期間が通算3年以内である者。 日本留学試験・個別試験(1科目)の得点・提出書類・面接(作文含む)により総合的に選考する。 面接(作文含む)は、提出書類・評価項目に基づいて行う。また、基礎学力や日本語運用能力を確認するための口頭試問を含む。 	
	面接	総評	●	●	●			
編・転・学士	教科・共通教育科目	200	●				<ul style="list-style-type: none"> 短期大学卒業(見込み)の者、専修学校の専門課程修了(見込み)の者、他大学に継続して2年以上在学したことがある(見込み)の者、学士の学位を有する(見込み)の者を対象とする。 編・転入試は、個別試験(2科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。学士入試は、面接のほかに筆記試験を課すことがある。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。また、日本語学・日本文学を学ぶうえで必要な基礎的知識や国語力を確認するための口頭試問を含む。 	
	面接	総評	●	●	●			

評価項目

A: 知識・理解 / B: 技能 / C: 態度・志向性 / D: その他の能力・資質

●: 重点を置いて評価している / 総評: 点数化はしないが、段階評価し、総合的に評価している



養成する人材像・教育課程の特色

教育と臨床心理の2つの分野を統合的に学ぶことで、人への支援や援助、人間形成とそのケアに貢献することができる人間を育むことが目標です。そのために、メンタルヘルスやストレスマネジメント、自己理解や生涯学習、キャリア発達などについて、教育学と臨床心理学の両方の知識や技法を学んでいきます。2年次からは、「学校教員」、「公認心理師」、「キャリアデザイン」の3つの履修モデルにわかれて、将来の進路をみすえて、より専門的かつ実践的な理論と技能を重点的に学んでいきます。それぞれのモデルに応じて、学校現場、病院や福祉施設等の臨床心理の現場、一般企業やNPO等でのインターンシップ実習が用意されています。教育学と臨床心理学の知識や技法を用いて、総合的、実践的な力量を発揮しつつ、実社会の多様な場面で活躍できる人材の養成をめざします。

A

知識・理解

教育学と臨床心理学の2つの分野を学ぶのに十分な基礎学力を有している人

教育学と臨床心理学の2つの分野を学ぶ際に前提となる知識として、高等学校までに学習する教科・科目に関する基本的な知識に加えて、私たちが暮らす社会全般に関する基礎的な知識があげられます。人間の心や行動、社会的現象を分析・説明するためには、多角的に物事を見て、考え、それを言語化できる力が不可欠です。その基礎として、国語や地理・歴史・公民等の学習に取り組み、言葉や社会に対する理解を深めてください。また、入試に課されない科目であっても、幅広く学んでいることを望みます。

B

技能

人と社会に向きあい、課題を発見し、解決にむけて他者と協力できる人

教育や臨床心理の知識を生かす現場では、チームとして仕事することが求められます。そこでは、自己研鑽を積んだ専門家同士が、相手の意見に耳を傾け、自分の考えを明確に表現しつつ、協力して最善の解決策を見出します。その基礎となるのが、多角的に物事や状況を読み解く力、他者の意見を聞く力、自分の意見を表現する力です。そのためには、人や社会の問題に関心を持ち、日頃から新聞やニュースに接し、友人や先生や家族との意見交換の機会を大切に、学校の委員会活動や部活動などに積極的に取り組むよう心がけてください。

求める人材像 (求める能力)

C

態度・志向性

人と社会に興味をもち、新しい学びや出会いに積極的な人

これからの社会を生きる私たちは、多様な人びとの考えを柔軟に受け入れられるかが問われます。教育と臨床心理の知識を生かす現場では、「その人らしさ」を尊重し、どうすれば、「その人らしさ」を生かすことができるのかを考えることが求められます。こうした態度を身に付けるためには、自分の考え方の偏りや特徴を客観的に把握することが大切です。高校時代から人と社会に興味を持ち、いろいろな人の意見や考えに触れてください。

D

その他の能力・資質

自ら目標を立てて、英語の資格を習得した人や課外活動などで顕著な成果を挙げた人

教育や臨床心理の知識を生かす現場では、グローバル化が進展しており、他者と外国語によるコミュニケーションが求められる時代が到来します。それゆえ、たとえば、話す・聞く・書く・読むといった英語の4技能を総合的に活用できることを高く評価します。また、仕事をしていく中では、生涯にわたる自己研鑽が求められますので、自分で目標を立て、スポーツ活動や課外活動等で顕著な成果を挙げた受験生を高く評価します。

入学者選抜のねらい

本学科の目標は、教育と臨床心理の2つの分野を統合的に学ぶことで、人への支援や援助、人間形成とそのケアに貢献することができる人間を育むことにあります。そのためには、常に人と社会に興味をもち、多角的に物事を見て、考え、それを言語化できることが求められます。入学試験では、基礎学力、活動や経験を通じて身に付けた能力、資質、学ぶ意欲などを、多面的・総合的に評価します。

入学試験での評価

入試制度	選考方法	配点	評価項目				合否判定の方法	
			A	B	C	D		
総合型選抜	アスリート特別	提出書類	総評	●	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(競技成績に関する基準あり・全体の学習成績の状況3.0以上・国語または数学の学習成績の状況4.0以上・専願制・自己推薦・クラブ部長等推薦) [一次選考] 提出書類(調査書・自己推薦書・推薦状・競技歴証明資料)により総合的に選考する。 [二次選考] 小論文・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・小論文・評価項目に基づいて行う。
		小論文	総評		●			
		面接	総評		●	●	●	
学校推薦型選抜	A方式	教科・科目	100	●				<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(専願制・学校長推薦) 個別試験(2科目)の得点・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行い、段階評価したうえで点数化する。
		面接	20		●	●	●	
一般選抜	系統別日程	教科・科目	400	●				<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(3科目)の得点により、選考する。 英語・国語の得点を1.5倍する。[傾斜配点]
		前期日程	教科・科目	300	●			
	前期日程・共通テスト併用型	教科・科目	400	●				<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(前期日程2科目)と大学入学共通テスト(2科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。
		(英語資格)	★	●			●	
	共通テスト利用型Ⅰ期	教科・科目	600	●				<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト(4科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。
		(英語資格)	★	●			●	
共通テスト利用型Ⅱ期	教科・科目	600	●				<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト(3科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。 	
	(英語資格)	★	●			●		
後期日程	教科・科目	200	●				<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(2科目)の得点により、選考する。 	
特別選抜	学部留学生(後期日程)	教科・科目	100	●				<ul style="list-style-type: none"> 外国の国籍のみを有し、日本国内外を問わず12年の課程を修了(見込み)の者またはこれに準ずる者を対象とする。ただし、日本の高校を卒業した者は、学校教育法に基づく小学校・中学校・中等教育学校・高等学校の在籍期間が通算3年以内である者。 日本留学試験・個別試験(1科目)の得点・提出書類・面接(作文含む)により総合的に選考する。 面接(作文含む)は、提出書類・評価項目に基づいて行う。また、基礎学力や日本語運用能力を確認するための口頭試問を含む。
		面接	総評	●	●	●		
	編・転・学士	教科・科目	100	●				
共通教育科目(小論文)		100		●				
面接		総評		●	●			

評価項目

A: 知識・理解 / B: 技能 / C: 態度・志向性 / D: その他の能力・資質

●: 重点を置いて評価している / 総評: 点数化はしないが、段階評価し、総合的に評価している



養成する人材像・教育課程の特色

広い教養と深い専門知識を身に付けグローバル社会に貢献できる国際人を育てることが我々の目標です。そのため国際社会に積極的に参加することができる英語運用能力を身につけ、高度なコミュニケーション能力が得られるようにカリキュラムを組んでいます。具体的な専門分野としては英語圏の文化・文学、英語・英語教育、グローバル・コミュニケーションが挙げられます。各専門分野での学びを通して異文化を理解し、情報を収集・分析・考察し、その結果を発信する力をつけることができます。また、学生のキャリア形成に役立つ授業も提供しています(グローバル・キャリア科目群)。このようなカリキュラムにより国際社会、地域社会における諸問題の解決に向けて他者と協力しながら貢献できる人材の養成を目指します。

A 知識・理解

高等学校の教育内容を身につけており、さらに英語や関連分野の学習を深めてゆくのに十分な基礎学力を有している人

英語学科では、高度な英語運用能力を身につけるとともに、英語と関連分野の学術的専門知識を学びます。高等学校までに学ぶ日本語や英語の知識、そして授業や課外活動で身につけるコミュニケーション能力は、大学での学びの大切な基盤となります。国語や英語以外の授業での学びも、社会についての基礎知識を形成するために重要です。これらの基礎がしっかり身につけている人ほどスムーズに、実践的な英語力、そしてグローバル社会の一員として活躍するために不可欠な知識やマインドセットを身につけることができます。大学入学前の日々の学びを大切にしてください。

B 技能

学習や課外活動から得た経験を踏まえて、自らの視点で物事を順序立てて説明することができる人

学びには情報を受け入れるだけでなく、それを分析・考察し、他者に伝えることも必要です。情報の信頼性を吟味し、確かな根拠に基づいて自分の考えをわかりやすく論理的に説明するためには、まず母語の読解力と表現力を高めることや言葉に対する感覚を磨くことが大切です。高等学校での国語を中心とする学習はもちろん、日頃から、新聞の社説や論説など身近なところにある論理的な文章を読みましよう。そして社会の様々な事柄について、自身の意見を整理し、論理的に発信できるよう、心がけてください。また、友人や先生、家族との対話を大切にしてください。

求める人材像 (求める能力)

C 態度・志向性

広い教養と深い専門知識を身に付けるための学びに主体的に取り組み、将来国際社会、地域社会に貢献したいと考えている人

グローバル化された現代社会において、我々は国内のことだけを考慮して暮らしていくことはできません。我々の生活は密接に他国と結びついています。国内外に存在する様々な問題に関心を持ちましよう。そのような問題の解決に貢献できる人材になるには、自国と他国の文化に関心を持ち、他者を尊重する姿勢を持つことが大事です。異文化を学んで視野を広げ、教養と専門知識を用いて問題の解決方法を模索し、他者と協力して国際社会・地域社会に貢献しようという強い使命感を持った人を歓迎します。

D その他の能力・資質

自己研鑽により、英語の資格を取得した人やスポーツをはじめとする課外活動などで顕著な成績をおさめた人

グローバル化の時代にあっても、コミュニケーションの手段として英語の優位性は揺らいでいません。国際社会の一員にふさわしい英語運用能力を身につけるための努力とその成果を高く評価します。また、スポーツなどの活動で培った積極性、協調性やたゆまず努力する姿勢も、コミュニケーションをとる上で大事な要素と考え、高く評価します。

入学者選抜のねらい

英語学科は、高等学校でしっかりと学び、さらに英語やその関連分野を広く深く学びたいという強い気持ちを持った人材、英語を使って情報を収集・分析・考察し、それを基に自分の考えを構築して発信できることを目指す人材、そして他者と協力して国際社会・地域社会に貢献しようとする人材を受け入れます。そのため、これまで培われた基礎学力、活動や経験を通じて身に付けた能力、資質、学ぶ意欲などを、多面的・総合的に評価する多様な入学試験を実施します。

入学試験での評価

入試制度	選考方法	配点	評価項目				合否判定の方法	
			A	B	C	D		
総合型選抜	アスリート特別	提出書類	総評	●	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(競技成績に関する基準あり・全体の学習成績の状況3.0以上・英語の評定の平均4.0以上・専願制・自己推薦・クラブ部長等推薦) [一次選考] 提出書類(調査書・自己推薦書・推薦状・競技歴証明資料)により総合的に選考する。 [二次選考] 小論文・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・小論文・評価項目に基づいて行う。
		小論文	総評		●			
		面接	総評		●	●	●	
学校推薦型選抜	A方式	教科・科目	100	●				<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(専願制・学校長推薦) 個別試験(2科目)の得点・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行い、段階評価したうえで点数化する。
		面接	20		●	●	●	
一般選抜	系統別日程	教科・科目	400	●				<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(3科目)の得点により、選考する。 英語の得点を2倍する。[傾斜配点]
	前期日程	教科・科目	300	●				<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(3科目)の得点により、選考する。
	前期日程・共通テスト併用型	教科・科目	400	●				<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(前期日程2科目)と大学入学共通テスト(2科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。
		(英語資格)	★	●			●	
	共通テスト利用型Ⅰ期	教科・科目	600	●				<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト(4科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。
		(英語資格)	★	●			●	
	共通テスト利用型Ⅱ期	教科・科目	600	●				<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト(3科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。
(英語資格)		★	●			●		
後期日程	教科・科目	200	●				<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(2科目)の得点により、選考する。 英語の得点を1.2倍、国語または数学の得点を0.8倍する。[傾斜配点] 	
特別選抜	帰国生徒	教科・科目	100	●				<ul style="list-style-type: none"> 日本の国籍を有する者又は日本国の永住許可を得ている者のうち、外国の学校で学んだ者を対象とする。 個別試験(2科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。 小論文は、自己の意見を明確に文章にて表現できているかを評価する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。
		小論文	100		●			
		面接	総評		●	●		
	社会人	教科・科目	100	●				<ul style="list-style-type: none"> 社会人としての活動や経験を有した者を対象とする。 個別試験(2科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。 小論文は、自己の意見を明確に文章にて表現できているかを評価する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。
		小論文	100		●			
		面接	総評		●	●		
	学部留学生(後期日程)	教科・科目	100	●				<ul style="list-style-type: none"> 外国の国籍のみを有し、日本国内外を問わず12年の課程を修了(見込み)の者またはこれに準ずる者を対象とする。ただし、日本の高校を卒業した者は、学校教育法に基づく小学校・中学校・中等教育学校・高等学校の在籍期間が通算3年以内である者。 日本留学試験・個別試験(1科目)の得点・提出書類・面接(作文含む)により総合的に選考する。 面接(作文含む)は、提出書類・評価項目に基づいて行う。また、基礎学力や日本語運用能力を確認するための口頭試問を含む。
		面接	総評	●	●	●		
	編・転・学士	教科・共通教育科目	200	●				<ul style="list-style-type: none"> 短期大学卒業(見込み)の者、専修学校の専門課程修了(見込み)の者、他大学に継続して2年以上在学したことがある(見込み)の者、学士の学位を有する(見込み)の者を対象とする。 編・転入試は、個別試験(2科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。学士入試は、面接のほかに筆記試験を課すことがある。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。
面接		総評		●	●			

評価項目

A: 知識・理解 / B: 技能 / C: 態度・志向性 / D: その他の能力・資質

●: 重点を置いて評価している / 総評: 点数化はしないが、段階評価し、総合的に評価している



養成する人材像・教育課程の特色

文化の差異に柔軟に対応し、外国人とも積極的に関わり、グローバル化する社会で活躍する人材を育てることがわれわれの目標です。その土台を作るため、1年次においては初修の言語であるドイツ語の文法や会話の基礎を着実に身につけることのできるカリキュラムを組んでいます。また、2年次からは学生が個性に合わせて選択可能な2つのコースを用意しています。①ドイツ語運用に関する4技能5領域の養成に大きな比重を置いて、実践的で高度なドイツ語力の習得を目指すドイツ語コミュニケーションコース、②ドイツに留まらずヨーロッパ全体に目を向けた社会・文化研究に関心を持ち、多様な文化を比較した上で得られる自由な発想を発信する力を養うクロスカルチュラルコースです。両コース共に最新の研究成果を取り入れ、ICTも活用しつつ、社会の変化や情報技術の進化に対応する教育を目指しています。

A 知識・理解

高等学校の教育内容を幅広く学習し、ドイツ語圏の文化を学ぶに十分な基礎学力を有している人

ドイツ語学科で学ぶ際に必要となる前提的な知識として、高等学校までに学習する教科・科目に関する基本的な知識が挙げられます。特に、ドイツ語圏の文化全般を学ぶうえで重要なツールとなる英語や、外国文化を理解するための基盤となる日本語の力を高めて、日本文化に対する理解を深めておいてください。また、ドイツ語圏の文化を深く理解するためには、歴史的な視野を持つことが必要です。そのための土台となる世界史の学習にも積極的に取り組んでください。知識が偏りすぎないようにするためにも、入学試験に課されない科目であっても幅広く学んでいることを望んでいます。

B 技能

学習や課外活動から得た経験を踏まえて、自らの視点で物事を順序立てて説明することができる人

ドイツ語によるコミュニケーションでは、ドイツ文化に対する深い理解だけでなく、確かな根拠に基づいて自分の考えをわかりやすく論理的に説明することや多様な意見を総合する力が求められます。それゆえ、母語としての日本語の読解力と表現力を高めることや言葉に対する感覚を磨くことが必要です。高等学校での国語を中心とする学習はもちろん、日頃から、新聞の社説や論説など身近なところにある論理的な文章を読み、自身の意見を整理したうえで、それを論理的に主張できるよう、心がけてください。また、友人や先生、家族との対話を大切にしてください。

求める人材像 (求める能力)

C 態度・志向性

ドイツ文化に関する高度な専門知識を身に付け、グローバルな社会で活躍する社会人になることへの夢を持ち、専門知識を社会のために積極的に活用したいと考えている人

通信、移動技術の飛躍的な発展に伴い、私たちの生活は驚くほど便利で豊かなものになり、外国文化に触れる機会もますます多くなっています。その反面、異なる文化間の摩擦や衝突が世界中で問題となっています。異文化コミュニケーションが失敗すれば、人々の生命や環境さえ破壊してしまう恐れがあります。それゆえ、ドイツ語学科では、専門知識にとどまらず、異文化への柔軟な視点を持ち、倫理観や社会へ貢献しようという強い使命感を持った人を歓迎します。このような倫理観や使命感は、社会人として働いていくうえで欠かせない自己研鑽を積む上での基盤ともなります。

D その他の能力・資質

自己研鑽により、英語の資格を取得した人やスポーツ活動・競技会等で顕著な成績をおさめた人

グローバル化が進展するこの社会にあって、他者と英語によるコミュニケーションをとることも当たり前となっています。さらに、入学後は英語で文献を読解することなども必要となる場合があります。それゆえ、話す・聞く・書く・読むといった英語の4技能を総合的に活用できることを、高く評価しています。他方で、外国の文化を学び異文化交流に貢献するためには、積極性、協調性が重要な資質になります。学級や学年を離れて様々な人たちと活動を共にする課外活動に積極的に参加し、活躍した人についても、評価しています。

入学者選抜のねらい

ドイツ語学科は、ドイツ語圏の文化に興味を持って学ぼうとする意欲あふれる人材や、多様な背景を持ち、さまざまな能力を有する人材を国内外から広く受け入れます。

そのために、これまでに培われた基礎学力、活動や経験を通じて身に付けた能力、資質、学ぶ意欲などを、多面的・総合的に評価する多様な入学試験を実施します。

入学試験での評価

入試制度	選考方法	配点	評価項目				合否判定の方法	
			A	B	C	D		
総合型選抜	アスリート特別	提出書類	総評	●	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(競技成績に関する基準あり・全体の学習成績の状況3.0以上・外国語の学習成績の状況3.5以上・専願制・自己推薦・クラブ部長等推薦) [一次選考] 提出書類(調査書・自己推薦書・推薦状・競技歴証明資料)により総合的に選考する。 [二次選考] 小論文・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・小論文・評価項目に基づいて行う。
		小論文	総評		●			
		面接	総評		●	●	●	
学校推薦型選抜	A方式	教科・科目	100	●				<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(専願制・学校長推薦) 個別試験(2科目)の得点・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行い、段階評価したうえで点数化する。
		面接	20		●	●	●	
一般選抜	系統別日程	教科・科目	400	●				<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(3科目)の得点により、選考する。 英語・国語の得点を1.5倍する。[傾斜配点]
	前期日程	教科・科目	300	●				<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(3科目)の得点により、選考する。
	前期日程・共通テスト併用型	教科・科目	400	●				<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(前期日程2科目)と大学入学共通テスト(2科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。
		(英語資格)	★	●			●	
	共通テスト利用型Ⅰ期	教科・科目	600	●				<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト(4科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。
		(英語資格)	★	●			●	
	共通テスト利用型Ⅱ期	教科・科目	600	●				<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト(3科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。
(英語資格)		★	●			●		
後期日程	教科・科目	200	●				<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(2科目)の得点により、選考する。 	
特別選抜	帰国生徒	教科・科目	100	●				<ul style="list-style-type: none"> 日本の国籍を有する者又は日本国の永住許可を得ている者のうち、外国の学校で学んだ者を対象とする。 個別試験(2科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。 小論文は、論理的思考力を評価する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。
		小論文	100		●			
		面接	総評		●	●		
	社会人	教科・科目	100	●				<ul style="list-style-type: none"> 社会人としての活動や経験を有した者を対象とする。 個別試験(2科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。 小論文は、論理的思考力を評価する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。
		小論文	100		●			
		面接	総評		●	●		
学部留学生(前期日程)	教科・科目	650	●				<ul style="list-style-type: none"> 外国の国籍のみを有し、日本国内外を問わず12年の課程を修了(見込み)の者またはこれに準ずる者を対象とする。ただし、日本の高校を卒業した者は、学校教育法に基づく小学校・中学校・中等教育学校・高等学校の在籍期間が通算3年以内である者。 教科・科目については日本留学試験(2科目)の得点、提出書類については指定する英語外部試験の結果を含み、総合的に選考する。 	
	提出書類	総評	●	●	●	●		
学部留学生(後期日程)	教科・科目	100	●				<ul style="list-style-type: none"> 外国の国籍のみを有し、日本国内外を問わず12年の課程を修了(見込み)の者またはこれに準ずる者を対象とする。ただし、日本の高校を卒業した者は、学校教育法に基づく小学校・中学校・中等教育学校・高等学校の在籍期間が通算3年以内である者。 日本留学試験・個別試験(1科目)の得点・提出書類・面接(作文含む)により総合的に選考する。 面接(作文含む)は、提出書類・評価項目に基づいて行う。また、基礎学力や日本語運用能力を確認するための口頭試験を含む。 	
	面接	総評	●	●	●			
編・転・学士	教科・共通教育科目	200	●				<ul style="list-style-type: none"> 短期大学卒業(見込み)の者、専修学校の専門課程修了(見込み)の者、他大学に継続して2年以上在学したことがある(見込み)の者、学士の学位を有する(見込み)の者を対象とする。 編・転入試は、個別試験(2科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。学士入試は、面接のほかに筆記試験を課すことがある。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。 	
	面接	総評		●	●			

評価項目

A: 知識・理解 / B: 技能 / C: 態度・志向性 / D: その他の能力・資質

●: 重点を置いて評価している / 総評: 点数化はしないが、段階評価し、総合的に評価している



人文学部 フランス語学科

【学位(教育)プログラム名：フランス語圏言語文化学】

養成する人材像・教育課程の特色

文化の差異に柔軟に対応し、外国人とも積極的に関わり、グローバル化する社会で活躍する人材を育てることがわれわれの目標です。そのための基礎学力や高度な専門能力が身に付くよう、フランス語の四技能を段階的に習得するとともに、演習科目・講義科目を通じてフランス文化に対する理解を深め、自分で考える力を養います。2年次からは、学生の個性に合わせて選択できる2つのコースを用意しています。①フランス語学習に重点をおいたコミュニケーションコース、②外国と自国の社会・文化への考察をより多く取り入れたクロスカルチュラルコースです。両コース共に、外国語でのコミュニケーション力を培い、国際交流の場面での理解力・発信力を高めるとともに、社会の変化や情報技術の進化に対応する力を養うことを目指しています。

A 知識・理解

高等学校の教育内容を幅広く学習し、フランス語圏文化を学ぶに十分な基礎学力を有している人

フランス語学科で学ぶ際に必要となる前提的な知識として、高等学校までに学習する教科・科目に関する基本的な知識が挙げられます。特に、フランス語圏の文化全般を学ぶうえで重要なツールとなる英語や、外国文化を理解するための基盤となる日本語の力を高めて、日本文化に対する理解を深めておいてください。また、フランス語圏の文化を深く理解するためには、歴史的な視野を持つことが必要です。そのための土台となる世界史の学習にも積極的に取り組んでください。知識が偏りすぎないようにするためにも、入学試験に課されない科目であっても幅広く学んでいることを望んでいます。

B 技能

学習や課外活動から得た経験を踏まえて、自らの視点で物事を順序立てて説明することができる人

フランス語によるコミュニケーションでは、フランス文化に対する深い理解だけでなく、確かな根拠に基づいて自分の考えをわかりやすく論理的に説明することや多様な意見を総合する力が求められます。それゆえ、母語としての日本語の読解力と表現力を高めることや言葉に対する感覚を磨くことが必要です。高等学校での国語を中心とする学習はもちろん、日頃から、新聞の社説や論説など身近なところにある論理的な文章を読み、自身の意見を整理したうえで、それを論理的に主張できるよう、心がけてください。また、友人や先生、家族との対話を大切にしてください。

求める人材像 (求める能力)

C 態度・志向性

フランス文化に関する高度な専門知識を身に付け、グローバルな社会で活躍する社会人になることへの夢を持ち、専門知識を社会のために積極的に活用したいと考えている人

通信、移動技術の飛躍的な発展に伴い、私たちの生活は驚くほど便利で豊かなものになり、外国文化に触れる機会もますます多くなっています。その反面、相異なる文化間の摩擦や衝突が世界中で問題となっています。異文化コミュニケーションが失敗すれば、人々の生命や環境さえ破壊してしまう恐れがあります。それゆえ、フランス語学科では、専門知識にとどまらず、異文化への柔軟な視点を持ち、倫理観や社会へ貢献しようという強い使命感を持った人を歓迎します。このような倫理観や使命感は、社会人として働いていくうえで欠かせない自己研鑽を積む上での基盤ともなります。

D その他の能力・資質

自己研鑽により、英語の資格を取得した人やスポーツ活動・競技会等で顕著な成績をおさめた人

グローバル化が進展するこの社会にあって、他者と英語によるコミュニケーションをとることも当たり前となっています。さらに、入学後は英語で文献を読解することなども必要となる場合があります。それゆえ、話す・聞く・書く・読むといった英語の4技能を総合的に活用できることを、高く評価しています。他方で、外国の文化を学び異文化交流に貢献するためには、積極性、協調性が重要な資質になります。学級や学年を離れて様々な人々と活動を共にする課外活動に積極的に参加し、活躍した人についても、評価しています。

入学者選抜のねらい

フランス語学科は、フランス語圏文化に興味を持って学ぼうとする意欲あふれる人材や、多様な背景を持ち、さまざまな能力を有する人材を国内外から広く受け入れます。

そのために、これまでに培われた基礎学力、活動や経験を通じて身に付けた能力、資質、学ぶ意欲などを、多面的・総合的に評価する多様な入学試験を実施します。

入学試験での評価

入試制度	選考方法	配点	評価項目				合否判定の方法	
			A	B	C	D		
総合型選抜	アスリート特別	提出書類	総評	●	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(競技成績に関する基準あり・全体の学習成績の状況3.0以上・外国語の学習成績の状況3.5以上・専願制・自己推薦・クラブ部長等推薦) [一次選考] 提出書類(調査書・自己推薦書・推薦状・競技歴証明資料)により総合的に選考する。 [二次選考] 小論文・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・小論文・評価項目に基づいて行う。
		小論文	総評		●			
		面接	総評		●	●	●	
学校推薦型選抜	A方式	教科・科目	100	●				<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(専願制・学校長推薦) 個別試験(2科目)の得点・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行い、段階評価したうえ点数化する。
		面接	20		●	●	●	
一般選抜	系統別日程	教科・科目	400	●				<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(3科目)の得点により、選考する。 英語・国語の得点を1.5倍する。[傾斜配点]
	前期日程	教科・科目	300	●				<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(3科目)の得点により、選考する。
	前期日程・共通テスト併用型	教科・科目	400	●				<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(前期日程2科目)と大学入学共通テスト(2科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。
		(英語資格)	★	●			●	
	共通テスト利用型Ⅰ期	教科・科目	600	●				<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト(4科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。
		(英語資格)	★	●			●	
	共通テスト利用型Ⅱ期	教科・科目	600	●				<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト(3科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。
(英語資格)		★	●			●		
後期日程	教科・科目	200	●				<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(2科目)の得点により、選考する。 	
特別選抜	帰国生徒	教科・科目	100	●				<ul style="list-style-type: none"> 日本の国籍を有する者又は日本国の永住許可を得ている者のうち、外国の学校で学んだ者を対象とする。 個別試験(2科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。 小論文は、論理的思考力を評価する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。
		小論文	100		●			
		面接	総評		●	●		
	社会人	教科・科目	100	●				<ul style="list-style-type: none"> 社会人としての活動や経験を有した者を対象とする。 個別試験(2科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。 小論文は、論理的思考力を評価する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。
		小論文	100		●			
		面接	総評		●	●		
	学部留学生(前期日程)	教科・科目	650	●				<ul style="list-style-type: none"> 外国の国籍のみを有し、日本国内外を問わず12年の課程を修了(見込み)の者またはこれに準ずる者を対象とする。ただし、日本の高校を卒業した者は、学校教育法に基づく小学校・中学校・中等教育学校・高等学校の在籍期間が通算3年以内である者。 教科・科目については日本留学試験(2科目)の得点・提出書類については指定する英語外部試験の結果を含み、総合的に選考する。
		提出書類	総評	●	●	●	●	
	学部留学生(後期日程)	教科・科目	100	●				<ul style="list-style-type: none"> 外国の国籍のみを有し、日本国内外を問わず12年の課程を修了(見込み)の者またはこれに準ずる者を対象とする。ただし、日本の高校を卒業した者は、学校教育法に基づく小学校・中学校・中等教育学校・高等学校の在籍期間が通算3年以内である者。 日本留学試験・個別試験(1科目)の得点・提出書類・面接(作文含む)により総合的に選考する。 面接(作文含む)は、提出書類・評価項目に基づいて行う。また、基礎学力や日本語運用能力を確認するための口頭試問を含む。
面接		総評	●	●	●			
編・転・学士	教科・共通教育科目	200	●				<ul style="list-style-type: none"> 短期大学卒業(見込み)の者、専修学校の専門課程修了(見込み)の者、他大学に継続して2年以上在学したことがある(見込み)の者、学士の学位を有する(見込み)の者を対象とする。 編・転入試は、個別試験(2科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。学士入試は、面接のほかに筆記試験を課すことがある。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。 	
	面接	総評		●	●			

評価項目

A: 知識・理解 / B: 技能 / C: 態度・志向性 / D: その他の能力・資質

●: 重点を置いて評価している / 総評: 点数化はしないが、段階評価し、総合的に評価している



養成する人材像・教育課程の特色

本学が位置する地域社会やそこに暮らす人々のニーズにこたえ、東アジア地域で主に活躍できる語学力と地域への洞察力を持った市民を育てることがわれわれの目標です。そのための基礎学力や高度な研究能力が身に付くよう、学生の志向に合わせた二つのコースを用意しています。①中国の言語文化・地域事情を学ぶための中国コース、②韓国の言語文化・地域事情を学ぶ韓国コースです。どちらのコースも当該地域の語学の運用力や地域研究の方法をしっかりと学び、地域と連携しながら、地域社会の変化や国際交流を進展させていこうとする人材、および卒業後もその態度を維持し続けられる人材の養成を目指しています。

A 知識・理解

高等学校の教育内容を幅広く学修しており、中国や韓国を学ぶに十分な基礎学力を有している人

本学科で学ぶ際に必要となる前提的な知識は、高等学校までに学習する各教科・科目に関する基本的な知識です。特に、語学を学ぶ上で、国語力や英語力は外国語習得の基礎となります。また地域研究では、地理や歴史・政治・経済等の社会科目は地域の事情を知る上で基礎的な知識となります。その地域で起こる様々な文化事象を対象にしますので、芸術や理科といった科目を通して現象を観察する視点も身につけておいてください。なお、バランスの取れた人材になるために、入学試験に課されない科目であっても幅広く学んでいることが望まれます。

B 技能

自らの視点で物事を考え説明することができる人

外国語は実際の運用経験を経て自信がつかます。また地域研究は、現場に立って考える必要があります。その時、自分の考えをその地域の言葉でわかりやすく論理的に説明できること、また多様な意見を聞きまとめる力が求められます。その基礎は、母語としての日本語の聞き取り能力と読解力そして表現力です。高等学校での国語や英語を中心とする言葉の学習はもちろん、日頃から論理的な文章に親しみ、自身の意見を整理し、それを説得的に語るができるよう心がけましょう。人前で発言できるトレーニングもしておきましょう。

求める人材像 (求める能力)

C 態度・志向性

東アジア地域で活躍する国際市民になることをめざし、その力を地域社会のために積極的に活用したいと考えている人

情報伝達の飛躍的な発展で、私たちの交流は便利で速くなりましたが、その反面、間違った情報により国家や地域間の誤解も生じやすくなりました。これは私たちの暮らす東アジア地域でも言えることです。身近な、それゆえに影響も大きな互いの正確な理解は、現地の人々と実際に言葉を交わし、その様子を知ることから始まります。本学科は、専門知識にとどまらず、異文化が共生できる方法を考えたり地域社会間の交流へ貢献したいという強い使命感を持った人を歓迎します。このような志向は地域社会に生きる市民として社会の発展を目指す上での基盤となります。

D その他の能力・資質

主体的な活動により、英語や中国語・朝鮮語等の検定に合格した人やスポーツ活動・競技会等で顕著な成績をおさめた人、または国際交流に積極的に参加した人

英語は国際的に必要とされる言語ですが、各地域ではグローバル化において多言語化、多文化化が進んでいます。それゆえ、英語力(話す・聞く・書く・読むの4技能)だけでなく、他の言語文化への理解も必要なのです。本学科では、中国語や朝鮮語を学びます。英語ばかりでなく中国語や朝鮮語の既習者も歓迎します。また、スポーツや各種競技会での活躍や国際交流事業への参加などは、地域交流に関わる上で有効な経験でもあります。それゆえ、学級や学年を離れて様々な人たちと活動を共にする課外活動に積極的に参加し活躍した人についても、評価します。

入学者選抜のねらい

東アジア地域言語学科は、この地域に興味を持って学ぼうとする意欲あふれる人材や、多様な背景を持ち、さまざまな能力を有する人材を国内外から広く受け入れます。

そのために、これまでに培われた基礎学力、活動や経験を通じて身に付けた能力、資質、学ぶ意欲などを、多面的・総合的に評価する多様な入学試験を実施します。

入学試験での評価

入試制度	選考方法	配点	評価項目				合否判定の方法	
			A	B	C	D		
総合型選抜	アスリート特別	提出書類	総評	●	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(競技成績に関する基準あり・全体の学習成績の状況が3.0以上・外国語の学習成績の状況が3.5以上・専願制・自己推薦・クラブ部長等推薦) [一次選考]提出書類(調査書・自己推薦書・推薦状・競技歴証明資料)により総合的に選考する。 [二次選考]小論文・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・小論文・評価項目に基づいて行う。
		小論文	総評		●			
		面接	総評		●	●	●	
学校推薦型選抜	A方式	教科・科目	100	●				<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(専願制・学校長推薦) 個別試験(2科目)の得点・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行い、段階評価したうえで点数化する。
		面接	20		●	●	●	
一般選抜	系統別日程	教科・科目	400	●				<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(3科目)の得点により、選考する。 英語・国語の得点を1.5倍する。[傾斜配点]
	前期日程	教科・科目	300	●				<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(3科目)の得点により、選考する。
	前期日程・共通テスト併用型	教科・科目	400	●				<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(前期日程2科目)と大学入学共通テスト(2科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。
		(英語資格)	★	●			●	
	共通テスト利用型Ⅰ期	教科・科目	600	●				<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト(4科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。
		(英語資格)	★	●			●	
共通テスト利用型Ⅱ期	教科・科目	600	●				<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト(3科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。 	
	(英語資格)	★	●			●		
後期日程	教科・科目	200	●				<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(2科目)の得点により、選考する。 	
特別選抜	帰国生徒	教科・科目	100	●				<ul style="list-style-type: none"> 日本の国籍を有する者又は日本国の永住許可を得ている者のうち、外国の学校で学んだ者を対象とする。 個別試験(2科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。 小論文は、地域理解への意欲を評価する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。
		小論文	100		●			
		面接	総評		●	●		
	社会人	教科・科目	100	●				<ul style="list-style-type: none"> 社会人としての活動や経験を有した者を対象とする。 個別試験(2科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。 小論文は、地域貢献への意欲を評価する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。
		小論文	100		●			
		面接	総評		●	●		
	学部留学生(後期日程)	教科・科目	100	●				<ul style="list-style-type: none"> 外国の国籍のみを有し、日本国内外を問わず12年の課程を修了(見込み)の者またはこれに準ずる者を対象とする。ただし、日本の高校を卒業した者は、学校教育法に基づく小学校・中学校・中等教育学校・高等学校の在籍期間が通算3年以内である者。 日本留学試験・個別試験(1科目)の得点・提出書類・面接(作文含む)により総合的に選考する。 面接(作文含む)は、提出書類・評価項目に基づいて行う。また、基礎学力や日本語運用能力を確認するための口頭試問を含む。
		面接	総評	●	●	●		
	編・転・学士	教科・共通教育科目	200	●				<ul style="list-style-type: none"> 短期大学卒業(見込み)の者、専修学校の専門課程修了(見込み)の者、他大学に継続して2年以上在学したことがある(見込み)の者、学士の学位を有する(見込み)の者を対象とする。 編・転入試は、個別試験(2科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。学士入試は、面接のほかに筆記試験を課すことがある。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。本学科で学ぶ上で必要な基礎知識や国語力を確認するための口頭試問を含む。
面接		総評	●	●	●			

評価項目

A: 知識・理解 / B: 技能 / C: 態度・志向性 / D: その他の能力・資質

●: 重点を置いて評価している / 総評: 点数化はしないが、段階評価し、総合的に評価している



養成する人材像・教育課程の特色

弁護士などの法律専門家、公務員、企業や地域社会で中心となって活躍する人材を養成することが、われわれの目標です。法律学や政治学を学ぶための基礎を身につけた上で、将来の目標に向けて必要な専門科目を効率的に履修することができるようにするため、三つのコースを用意しています(2年次にコースを選択します)。**①法律系資格の取得・法科大学院などの大学院への進学・一般企業への就職**などを目的し、基本的な法律科目である憲法・民法・刑法などの六法科目を中心に、法律を総合的に学習する「法律総合コース」、**②公務員・公共団体職員・外交官**などを目的し、憲法・行政法・国際法など、公法科目を中心に学習する「公共法務コース」、**③公務員・政策スタッフ・マスコミ・社会福祉団体職員・NPO**などを目的し、政治系・政策系・福祉系科目を中心に学習する「総合政策コース」があります。

A

知識・理解

高等学校の教育内容を幅広く学修しており、法律学や政治学を学ぶのに十分な基礎学力(読み書きの力を含む)を有している人

法律学や政治学の勉強では、社会で生じているさまざまな問題を理解することが求められます。そのため、高等学校までに学ぶ幅広い知識が前提知識として必要になります。また、法律学や政治学を学ぶ際には、法律・判例・契約書・文献を読み解き、文章で表現することが求められます。そのため、文章を読む力や書く力が重要です。この力は、講義科目での小テストや定期テストで不可欠となるほか、講義科目や演習科目で求められることがあるレポート作成などの際にも不可欠です。読み書きの力を十分に身につけておいてください。

B

技能

学んだ知識をもとに、問題解決のあり方を示すことができる人

法律学や政治学の勉強では、学んだ知識を活用し、法的思考力(リーガルマインド)や政策的思考力を身につけて、問題解決のあり方を示すことが求められます。日頃から、社会で生じているさまざまな問題に関心を持ってください。そして、新聞・ニュース・インターネットなどを通してそれらの内容を理解し、自分で考え、自分の意見をわかりやすく、論理的に伝える練習をしておいてください。このような心がけをもっていることが必要です。

求める人材像 (求める能力)

C

態度・志向性

社会で生じているさまざまな問題を積極的に解決しようとする姿勢や、積極的に社会に貢献しようとする姿勢を持つ人

法学部の演習科目では、学生による報告発表・共同研究・討論など、学生が主体的に参加する授業が少人数で行われます。また、講義科目でも、受け身の授業ではなく、質疑応答・レポートの作成など、学生が自ら考え、参加する授業が行われます。どの学問にも当てはまることですが、受け身ではなく、主体的に取り組もうとする姿勢や他の学生と積極的に協力して学ぶ態度がなければなりません。特に、法律学・政治学の勉強では、社会で生じているさまざま問題について調べて、その解決のあり方を考えてみたり、社会に貢献しようとする積極的な姿勢が必要になります。

D

その他の能力・資質

英語の資格を取得した人や、スポーツ活動などで顕著な成績をおさめた人

英語を読む・聞く・話す・書くことができることで、外国の法制度や外国の政治についての理解を深めることができるようになります。そのため、読む・聞く・話す・書くといった英語の4技能を総合的に活用できることを評価しています。

また、法律学・政治学の勉強では、広い視野を持ち、さまざまな角度から考えることが必要になります。スポーツ活動などの課外活動で顕著な成績をおさめた人も評価し、課外活動で得た経験も生かして、問題解決のあり方を示してほしいと思っています。

入学者選抜のねらい

法学部での勉強では、広い視野を持ち、さまざまな角度から考えることが必要になります。そのため、法学部では、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜のほか、特別選抜として、帰国生徒選抜、社会人選抜、学部留学生選抜、編・転・学士選抜などの多様な入学者選抜を実施し、さまざまな能力を持つ人材を国内外から広く受け入れています。

入学試験での評価

入試制度	選考方法	配点	評価項目				合否判定の方法	
			A	B	C	D		
総合型選抜	総合型	提出書類	50	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(専願制・自己推薦) [一次選考]提出書類(志望理由書・自己推薦書・調査書)、小論文、グループディスカッションにより総合的に選考する。 志望理由書では、福岡大学法学部で学びたいという強い意欲が説得的に説明できているかを評価する。自己推薦書では、自己分析し、個性・特性等を説得的に説明できているかを評価する。調査書では、高校での学業成績を評価する。 小論文では、文章を読む力や書く力といった基礎学力や、論理的思考力等を評価する。 グループディスカッションでは、他人の意見を適切に理解する力や自己の意見を論理的に述べる力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度(主体的に学習に取り組む意欲、他者への思いやり等の豊かな心、チームワーク、リーダーシップ)を評価する。 [二次選考]面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。 	
		小論文	80	●	●			
		グループディスカッション	80		●	●		
		面接	総評		●	●		
	アスリート特別	提出書類	総評	●	●	●		<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(競技成績に関する基準あり・全体の学習成績の状況3.0以上・国語の学習成績の状況3.5以上・専願制・自己推薦・クラブ部長等推薦) [一次選考]提出書類(調査書・自己推薦書・推薦状・競技歴証明資料)により選考する。 [二次選考]小論文・面接により総合的に選考する。 小論文では、文章を読む力や書く力といった基礎学力や、論理的思考力等を評価する。 面接は、提出書類・小論文・評価項目に基づいて行う。
		小論文	総評	●	●			
		面接	総評		●	●		
学校推薦型選抜	A方式	教科・科目	100	●		<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(全体の学習成績の状況3.5以上・専願制・学校長推薦) 個別試験(2科目)の得点・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行い、段階評価したうえで点数化する。 		
		面接	40		●		●	
一般選抜	系統別日程	教科・科目	400	●		<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(3科目)の得点により、選考する。 英語・国語の得点を1.5倍する。[傾斜配点] 		
	前期日程	教科・科目	300	●				
	前期日程・共通テスト併用型	教科・科目	400	●			<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(前期日程2科目)と大学入学共通テスト(2科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。 	
		(英語資格)	★	●				●
	共通テスト利用型Ⅰ期	教科・科目	600	●			<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト(4科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。 	
		(英語資格)	★	●				●
	共通テスト利用型Ⅱ期	教科・科目	600	●			<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト(3科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。 	
(英語資格)		★	●		●			
後期日程	教科・科目	200	●		<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(2科目)の得点により、選考する。 			
特別選抜	帰国生徒	教科・科目	100	●		<ul style="list-style-type: none"> 日本の国籍を有する者又は日本国の永住許可を得ている者のうち、外国の学校で学んだ者を対象とする。 個別試験(2科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。 小論文では、文章を読む力や書く力といった基礎学力や、論理的思考力等を評価する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。 		
		小論文	100	●	●			
		面接	総評		●		●	
	社会人	教科・科目	100	●		<ul style="list-style-type: none"> 社会人としての活動や経験を有した者を対象とする。 個別試験(2科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。 小論文では、文章を読む力や書く力といった基礎学力や、論理的思考力等を評価する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。 		
		小論文	100	●	●			
		面接	総評		●		●	
	学部留学生(後期日程)	教科・科目	100	●		<ul style="list-style-type: none"> 外国の国籍のみを有し、日本国内外を問わず12年の課程を修了(見込み)の者またはこれに準ずる者を対象とする。ただし、日本の高校を卒業した者は、学校教育法に基づく小学校・中学校・中等教育学校・高等学校の在籍期間が通算3年以内である者。 日本留学試験・個別試験(1科目)の得点・提出書類・面接(作文含む)により総合的に選考する。 面接(作文含む)は提出書類・評価項目に基づいて行う。また、学力把握や日本語運用能力を確認するための口頭試問を含む。 		
		面接	総評	●	●		●	
	編・転・学士	教科・共通教育科目	200	●		<ul style="list-style-type: none"> 短期大学卒業(見込み)の者、専修学校の専門課程修了(見込み)の者、他大学に継続して2年以上在学したことがある(見込み)の者、学士の学位を有する(見込み)の者を対象とする。 編・転入試は、個別試験(2科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。学士入試は、面接のほかに筆記試験を課すことがある。また、学力把握や日本語運用能力を確認するための口頭試問を含む。 		
		面接	総評		●		●	

評価項目

A: 知識・理解 / B: 技能 / C: 態度・志向性 / D: その他の能力・資質

●: 重点を置いて評価している / 総評: 点数化はしないが、段階評価し、総合的に評価している



養成する人材像・教育課程の特色

企業法務に精通したビジネスパーソン、起業家・会社経営者、国際社会で中心となって活躍する人材を養成することが、われわれの目標です。経営法学(ビジネス・ロー)を学ぶための基礎を身につけた上で、将来の目標に向けて必要な専門科目を効率的に履修することができるようにするため、二つのコースを用意しています(2年次にコースを選択します)。①民間企業など産業界で活躍したい人や起業・会社経営などをを目指す人のために、会社法などの企業法科目や経済法、知的財産法、税法などの企業法務に密接に関連する科目を学ぶ「企業法コース」、②貿易・国際取引、旅行・観光業、国際機関など国際社会で活躍したい人のために、国際法科目と外国法科目を中心に学ぶ「国際コース」があります。

A

知識・理解

高等学校の教育内容を幅広く学修しており、経営法学を学ぶのに十分な基礎学力(読み書きの力を含む)を有している人

経営法学の勉強では、社会で生じているさまざまな問題を理解することが求められます。そのため、高等学校までに学ぶ幅広い知識が前提知識として必要になります。また、法律学や政治学を学ぶ際には、法律・判例・契約書・文献を読み解き、文章で表現することが求められます。そのため、文章を読む力や書く力が必要です。この力は、講義科目での小テストや定期テストで不可欠となるほか、講義科目や演習科目で求められることがあるレポート作成などの際にも不可欠です。読み書きの力を十分に身につけてください。外国の法律や国際関係・国際取引に関わる問題を学ぶ際には、英文を読む力や書く力があると、いっそう望ましいでしょう。

B

技能

学んだ知識をもとに、問題解決のあり方を示すことができる人

経営法学の勉強では、学んだ知識を活用し、法的思考力(リーガルマインド)と国際的視野を身につけて、問題解決のあり方を示すことが求められます。日頃から、社会で生じているさまざまな問題に関心を持ってください。そして、新聞・ニュース・インターネットなどを通してそれらの内容を理解し、自分で考え、自分の意見をわかりやすく、論理的に伝えるように練習しておいてください。このような心がけをもっていることが必要です。

求める人材像
(求める能力)

C

態度・志向性

自ら立案した企画の実現に向けて積極的に取り組もうとする姿勢や、世界の状況に積極的に対応しようとする姿勢を持つ人

法学部の演習科目では、学生による報告発表・共同研究・討論など、学生が主体的に参加する授業が少人数で行われます。また、講義科目でも、受け身の授業ではなく、質疑応答・レポートの作成など、学生が自ら考え、参加する授業が行われます。どの学問にも当てはまることですが、受け身ではなく、主体的に取り組もうとする姿勢や他の学生と積極的に協力して学ぶ態度がなければなりません。特に、経営法学の勉強では、企画を自ら立案し、その実現に向けて取り組もうとしたり、グローバル化する世界の状況に対応しようとする積極的な姿勢が必要になります。

D

その他の能力・資質

英語の資格を取得した人や、スポーツ活動などで顕著な成績をおさめた人

英語を読む・聞く・話す・書くことができることで、外国の法制度や国際関係・国際取引についての理解を深めることができるようになります。そのため、読む・聞く・話す・書くといった英語の4技能を総合的に活用できることを評価しています。

また、経営法学の勉強では、広い視野を持ち、さまざまな角度から考えることが必要になります。スポーツ活動などの課外活動で顕著な成績をおさめた人も評価し、課外活動で得た経験も生かして、問題解決のあり方を示してほしいと思っています。

入学者選抜のねらい

法学部での勉強では、広い視野を持ち、さまざまな角度から考えることが必要になります。そのため、法学部では、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜のほか、特別選抜として、帰国生徒選抜、社会人選抜、学部留学生選抜、編・転・学士選抜などの多様な入学者選抜を実施し、さまざまな能力を持つ人材を国内外から広く受け入れています。

入学試験での評価

入試制度	選考方法	配点	評価項目				合否判定の方法	
			A	B	C	D		
総合型選抜	総合型	提出書類	50	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(専願制・自己推薦) [一次選考]提出書類(志望理由書・自己推薦書・調査書)、小論文、グループディスカッションにより総合的に選考する。 志望理由書では、福岡大学法学部で学びたいという強い意欲が説得的に説明できているかを評価する。自己推薦書では、自己分析し、個性・特性等を説得的に説明できているかを評価する。調査書では、高校での学業成績を評価する。 小論文では、文章を読む力や書く力といった基礎学力や、論理的思考力等を評価する。 グループディスカッションでは、他人の意見を適切に理解する力や自己の意見を論理的に述べる力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度(主体的に学習に取り組む意欲、他者への思いやり等の豊かな心、チームワーク、リーダーシップ)を評価する。 [二次選考]面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。 	
		小論文	80	●	●			
		グループディスカッション	80		●	●		
		面接	総評		●	●		
	アスリート特別	提出書類	総評	●	●	●		<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(競技成績に関する基準あり・全体の学習成績の状況3.0以上・国語の学習成績の状況3.5以上・専願制・自己推薦・クラブ部長等推薦) [一次選考]提出書類(調査書・自己推薦書・推薦状・競技歴証明資料)により選考する。 [二次選考]小論文・面接により総合的に選考する。 小論文では、文章を読む力や書く力といった基礎学力や、論理的思考力等を評価する。 面接は、提出書類・小論文・評価項目に基づいて行う。
		小論文	総評	●	●			
		面接	総評		●	●		
学校推薦型選抜	A方式	教科・科目	100	●		<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(全体の学習成績の状況3.5以上・専願制・学校長推薦) 個別試験(2科目)の得点・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行い、段階評価したうえで点数化する。 		
		面接	40		●		●	
一般選抜	系統別日程	教科・科目	400	●		<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(3科目)の得点により、選考する。 国語・選択科目の得点を1.5倍する。[傾斜配点] 		
	前期日程	教科・科目	300	●				
	前期日程・共通テスト併用型	教科・科目	400	●			<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(前期日程2科目)と大学入学共通テスト(2科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。 	
		(英語資格)	★	●				●
	共通テスト利用型Ⅰ期	教科・科目	600	●			<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト(4科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。 	
		(英語資格)	★	●				●
	共通テスト利用型Ⅱ期	教科・科目	600	●			<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト(3科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。 	
(英語資格)		★	●		●			
後期日程	教科・科目	200	●		<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(2科目)の得点により、選考する。 			
特別選抜	帰国生徒	教科・科目	100	●		<ul style="list-style-type: none"> 日本の国籍を有する者又は日本国の永住許可を得ている者のうち、外国の学校で学んだ者を対象とする。 個別試験(2科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。 小論文では、文章を読む力や書く力といった基礎学力や、論理的思考力等を評価する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。 		
		小論文	100	●	●			
		面接	総評		●		●	
	社会人	教科・科目	100	●		<ul style="list-style-type: none"> 社会人としての活動や経験を有した者を対象とする。 個別試験(2科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。 小論文では、文章を読む力や書く力といった基礎学力や、論理的思考力等を評価する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。 		
		小論文	100	●	●			
		面接	総評		●		●	
	学部留学生(後期日程)	教科・科目	100	●		<ul style="list-style-type: none"> 外国の国籍のみを有し、日本国内外を問わず12年の課程を修了(見込み)の者またはこれに準ずる者を対象とする。ただし、日本の高校を卒業した者は、学校教育法に基づく小学校・中学校・中等教育学校・高等学校の在籍期間が通算3年以内である者。 日本留学試験・個別試験(1科目)の得点・提出書類・面接(作文含む)により総合的に選考する。 面接(作文含む)は、提出書類・評価項目に基づいて行う。また、学力把握や日本語運用能力を確認するための口頭試問を含む。 		
		面接	総評	●	●		●	
	編・転・学士	教科・共通教育科目	200	●		<ul style="list-style-type: none"> 短期大学卒業(見込み)の者、専修学校の専門課程修了(見込み)の者、他大学に継続して2年以上在学したことがある(見込み)の者、学士の学位を有する(見込み)の者を対象とする。 編・転入試は、個別試験(2科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。学士入試は、面接のほかに筆記試験を課すことがある。また、学力把握や日本語運用能力を確認するための口頭試問を含む。 		
面接		総評		●	●			

評価項目

A: 知識・理解 / B: 技能 / C: 態度・志向性 / D: その他の能力・資質

●: 重点を置いて評価している / 総評: 点数化はしないが、段階評価し、総合的に評価している



養成する人材像・教育課程の特色

養成する人物像は、伝統的な経済学の知識とその関連諸学の修得により、国内外における諸問題の原因を究明し、解決策を立案できる人材です。

この目標のために、科目群(ユニット)を設置することで、経済学学修の領域全般を横断的に網羅する10ユニットから学生が自らの興味に従って五つ以上のユニットを選択できるようにしています。

学生の皆さんは、専門的な学びと幅広い学びを両立させつつ、自らが探究すべき課題を発見してその解決に主体的に取り組み、経済の基本的な仕組みを理解して制度や歴史についても豊富な知識を得ることができます。このようなユニット制に、経済学科の教育課程の特色があります。

A 知識・理解

高等学校の教育内容を幅広く学習しており、経済学および関連諸学を学ぶに十分な基礎学力を有している人

経済学科で学ぶ際の前提として、高等学校までに学習する教科・科目に関する基本的な理解が挙げられます。特に、経済学を学ぶうえで、「物事を筋道立てて考える能力」は重要です。経済学を学ぶ際の基礎となり、またそうした論理能力に関わる教科・科目(英語、国語、社会科学全般、数学など)については、入学するまでに理解を深めておいて下さい。また、経済現象を正しく認識するためには、「観察力・洞察力」も必要です。こうした能力の土台となる実験や観察の要素が多い教科・科目にも、積極的に取り組んでください。バランスの取れた専門家となるために、入学試験に課されない教科・科目であっても幅広く学んでいることを望んでいます。

B 技能

学習や課外活動から得た経験に基づきながら、自らの意見を持ち、それを論理的に説明できる人

現代社会は、様々な分野の人々が色々な形で結びつき協力することで、発展を続けています。こうした協業において、確かな根拠に基づいて自分の考えをわかりやすく論理的に説明する力や、多様で異なる意見を一つに取りまとめる力などが求められます。それゆえ、日本語の表現力を高めることや、言葉に対する感覚を磨くことが必要です。高等学校での国語を中心とする学習はもちろん、日頃から、新聞の社説や論説など身近なところにある論理的な文章を読み、自身の意見を整理したうえで、それを論理的に主張できるよう心がけてください。また、友人や先生、家族との対話を大切にしてください。

求める人材像 (求める能力)

C 態度・志向性

国内外における経済的諸問題に興味を持ち、経済学科で得た専門知識を社会のために活用したいと考えている人

多方面における知識や技術の発展に伴い、私たちの生活は便利で豊かなものになっています。同時に、こうした知識や技術は、その使い方を誤ると人々の生活や自然環境まで破壊してしまう危険性を持っています。このことは、様々な経済政策の基礎となる「経済学」という学問を学ぶ者も、しっかりと自覚すべきことです。経済学科は、専門知識の修得にとどまらず、倫理観や社会へ貢献しようという強い使命感を持った人を歓迎します。このような倫理観や使命感は、専門家として働いていくうえで欠かせない自己研鑽を積む上での基盤ともなります。

D その他の能力・資質

自己研鑽により、英語の資格を取得した人やスポーツ活動・競技会等で顕著な成績をおさめた人

グローバル化の進展は、現代社会の最も大きな特徴の一つです。いつ、どこにおいても、他者と英語によるコミュニケーションをとることが当たり前となりつつあります。入学後の学習においても、英語を活用して文献を読解することなどが必要となります。このため、読む・聞く・話す・書くといった英語の4技能を総合的に活用できることを高く評価しています。また、経済学は人々の生活や文化に関連した学問です。このため、様々な人々と活動を共にする課外活動に積極的に参加し、活躍をした人に対しても一定の評価をしています。

入学者選抜のねらい

経済学科は、学びや諸活動の中で挑戦し続ける意欲あふれる人材や、多様な背景を持ち、さまざまな能力を有する人材を国内外から広く受け入れます。そのために、これまでに培われた基礎学力、活動や経験を通じて身に付けた能力、資質、学ぶ意欲などを、多面的・総合的に評価する多様な入学試験を実施します。

入学試験での評価

入試制度	選考方法	配点	評価項目				合否判定の方法		
			A	B	C	D			
総合型選抜	総合型	小論文	総評		●			<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(専願制・自己推薦) [一次選考] 提出書類(自己推薦書・調査書)、小論文により総合的に選考する。 [二次選考] 面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。自分の意見・主張を論理的に説明できる能力、自己研鑽への情熱や社会性などを評価する。 	
		提出書類	総評	●					
		面接	総評		●	●			
	アスリート特別	提出書類	総評	●	●	●	●		<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(競技成績に関する基準あり・全体の学習成績の状況3.0以上・英語の評定の平均3.5以上・専願制・自己推薦・クラブ部長等推薦) [一次選考] 提出書類(調査書・自己推薦書・推薦状・競技歴証明資料)により選考する。 [二次選考] 小論文・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・小論文・評価項目に基づいて行う。面接では、自分の意見・主張を論理的に説明できる能力、自己研鑽への情熱や社会性などを評価する。
		小論文	総評		●				
	面接	総評		●	●	●			
学校推薦型選抜	A方式	教科・科目	100	●				<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(専願制・学校長推薦) 個別試験(2科目)の得点・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行い、段階評価したうえで点数化する。面接では、自分の意見・主張を論理的に説明できる能力、自己研鑽への情熱や社会性などを評価する。 	
		面接	20		●	●	●		
一般選抜	系統別日程	教科・科目	400	●				<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(3科目)の得点により、選考する。 英語・選択科目の得点を1.5倍する。[傾斜配点] 	
	前期日程	教科・科目	300	●					
	前期日程・共通テスト併用型	教科・科目	400	●					<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(前期日程2科目)と大学入学共通テスト(2科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。
		(英語資格)	★	●			●		
	共通テスト利用型Ⅰ期	教科・科目	600	●					<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト(4科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。
		(英語資格)	★	●			●		
	共通テスト利用型Ⅱ期	教科・科目	600	●					<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト(3科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。
		(英語資格)	★	●			●		
共通テスト利用型Ⅲ期	教科・科目	300	●				<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト(3科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。 		
	(英語資格)	★	●			●			
後期日程	教科・科目	200	●						
特別選抜	帰国生徒	教科・科目	100	●				<ul style="list-style-type: none"> 日本の国籍を有する者又は日本国の永住許可を得ている者のうち、外国の学校で学んだ者を対象とする。 個別試験(2科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。 小論文では、自分の意見・主張を論理的に説明できる能力などを評価する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。面接では、自分の意見・主張を論理的に説明できる能力、自己研鑽への情熱や社会性などを評価する。 	
		小論文	100		●				
		面接	総評		●	●			
	社会人	小論文	100		●			<ul style="list-style-type: none"> 社会人としての活動や経験を有した者を対象とする。 個別試験(1科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。 小論文では、自分の意見・主張を論理的に説明できる能力などを評価する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。面接では、自分の意見・主張を論理的に説明できる能力、自己研鑽への情熱や社会性などを評価する。 	
		面接	総評		●	●			
	学部留学生(前期日程)	教科・科目	850	●				<ul style="list-style-type: none"> 外国の国籍のみを有し、日本国内外を問わず12年の課程を修了(見込み)の者またはこれに準ずる者を対象とする。ただし、日本の高校を卒業した者は、学校教育法に基づく小学校・中学校・中等教育学校・高等学校の在籍期間が通算3年以内である者。 教科・科目については日本留学試験(3科目)の得点、提出書類については指定する英語外部試験の結果を含み、総合的に選考する。 	
		提出書類	総評	●	●	●	●		
	学部留学生(後期日程)	教科・科目	100	●				<ul style="list-style-type: none"> 外国の国籍のみを有し、日本国内外を問わず12年の課程を修了(見込み)の者またはこれに準ずる者を対象とする。ただし、日本の高校を卒業した者は、学校教育法に基づく小学校・中学校・中等教育学校・高等学校の在籍期間が通算3年以内である者。 日本留学試験・個別試験(1科目)の得点・提出書類・面接(作文含む)により総合的に選考する。 面接(作文含む)は、提出書類・評価項目に基づいて行う。面接(作文含む)では、自分の意見・主張を論理的に説明できる能力、自己研鑽への情熱や社会性などを評価する。また、基礎学力や日本語運用能力を確認するための口頭試問を含む。 	
		面接	総評		●	●			
	編・転・学士	教科・共通教育科目	200	●				<ul style="list-style-type: none"> 短期大学卒業(見込み)の者、専修学校の専門課程修了(見込み)の者、他大学に継続して2年以上在学したことがある(見込み)の者、学士の学位を有する(見込み)の者を対象とする。 編・転入試は、個別試験(2科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。学士入試は、面接のほかに筆記試験を課すことがある。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。面接では、自分の意見・主張を論理的に説明できる能力、自己研鑽への情熱や社会性などを評価する。 	
書類審査・面接		100		●	●				

評価項目

A: 知識・理解 / B: 技能 / C: 態度・志向性 / D: その他の能力・資質

●: 重点を置いて評価している / 総評: 点数化はしないが、段階評価し、総合的に評価している



養成する人材像・教育課程の特色

養成する人物像は、経済学を中心とした学際的実学教育により、地域経済や企業経営における問題の発見と原因究明を行い、その解決策を立案し実行できる人材です。

この目標のために、科目群(ユニット)を設置することで、経済学とその応用分野の領域全般を横断的に網羅する10ユニットから学生が自らの興味に従って五つ以上のユニットを選択できるようにしています。産業経済学科の主要なユニットは「事業創造」と「地域科学」の二つで、このうち一つのユニットは修了することが求められます。

学生の皆さんは、専門的な学びと幅広い学びを両立させつつ、自らが探究すべき課題を発見してその解決に主体的に取り組み、現代経済とその分析について基本的な知識を得た上で、その知識を企業経営や地域経済の課題解決に実践的に生かしていく能力を獲得することができます。このようなユニット制に、産業経済学科の教育課程の特色があります。

A

知識・理解

高等学校の教育内容を幅広く学習しており、経済学および関連諸学を学ぶに十分な基礎学力を有している人

産業経済学科で学ぶ際の前提として、高等学校までに学習する教科・科目に関する基本的な理解が挙げられます。特に、経済学および関連諸学を学ぶうえで、「物事を筋道立てて考える能力」は重要です。経済学を学ぶ際の基礎となり、またそうした論理能力に関わる教科・科目(英語、国語、社会科全般、数学など)については、入学するまでに理解を深めておいて下さい。また、地域や企業が抱える課題を正しく認識するためには、「観察力・洞察力」も必要です。こうした能力の土台となる実験や観察の要素が多い教科・科目にも、積極的に取り組んでください。バランスの取れた専門家となるために、入学試験に課されない教科・科目であっても幅広く学んでいることを望んでいます。

B

技能

学習や課外活動から得た経験に基づきながら、自らの意見を持ち、それを論理的に説明できる人

現代社会は、様々な分野の人々が色々な形で結びつき協力することで、発展を続けています。こうした協業において、確かな根拠に基づいて自分の考えをわかりやすく論理的に説明する力や、多様で異なる意見を一つに取りまとめる力などが求められます。それゆえ、日本語の表現力を高めることや、言葉に対する感覚を磨くことが必要です。高等学校での国語を中心とする学習はもちろん、日頃から、新聞の社説や論説など身近なところにある論理的な文章を読み、自身の意見を整理したうえで、それを論理的に主張できるよう心がけてください。また、友人や先生、家族との対話を大切にしてください。

求める人材像
(求める能力)

C

態度・志向性

地域経済や企業経営における諸問題に興味を持ち、産業経済学科で得た専門知識を社会のために活用したいと考えている人

多方面における知識や技術の発展に伴い、私たちの生活は便利で豊かなものになっています。同時に、こうした知識や技術は、その使い方を誤ると人々の生活や自然環境まで破壊してしまう危険性を持っています。このことは、様々な経済政策の基礎となる「経済学」やその他の関連諸学を学ぶ者も、しっかりと自覚すべきことです。産業経済学科は、実践的問題解決能力の修得にとどまらず、将来に挑戦する積極性、倫理観や社会へ貢献しようという強い使命感を持った人を歓迎します。このような倫理観や使命感は、専門家として働いていくうえで欠かせない自己研鑽を積む上での基盤ともなります。

D

その他の能力・資質

自己研鑽により、英語の資格を取得した人やスポーツ活動・競技会等で顕著な成績をおさめた人

グローバル化の進展は、現代社会の最も大きな特徴の一つです。いつ、どこにおいても、他者と英語によるコミュニケーションをとることが当たり前となります。入学後の学習においても、英語を活用して文献を読解することなどが必要となります。このため、読む・聞く・話す・書くといった英語の4技能を総合的に活用できることを高く評価しています。また、経済学は人々の生活や文化に関連した学問です。このため、様々な人々と活動を共にする課外活動に積極的に参加し、活躍した人に対しても一定の評価をしています。

入学者選抜のねらい

産業経済学科は、学びや諸活動の中で挑戦し続けることのできる、有能で意欲あふれる人材を国内外から広く受け入れます。

そのために、これまでに培われた基礎学力、活動や経験を通じて身に付けた能力、資質、学ぶ意欲など、様々な観点から評価できるよう、多様な入学試験を実施します。

入学試験での評価

入試制度	選考方法	配点	評価項目				合否判定の方法		
			A	B	C	D			
総合型選抜	総合型	小論文	総評		●			<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(専願制・自己推薦) [一次選考] 提出書類(自己推薦書・調査書)、小論文により総合的に選考する。 [二次選考] 面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。自分の意見・主張を論理的に説明できる能力、自己研鑽への情熱や社会性などを評価する。 	
		提出書類	総評	●					
		面接	総評		●	●			
	アスリート特別	提出書類	総評	●	●	●	●		<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(競技成績に関する基準あり・全体の学習成績の状況3.0以上・英語の評定の平均または数学の学習成績の状況3.5以上・専願制・自己推薦・クラブ部長等推薦) [一次選考] 提出書類(調査書・自己推薦書・推薦状・競技歴証明資料)により選考する。 [二次選考] 小論文・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・小論文・評価項目に基づいて行う。面接では、自分の意見・主張を論理的に説明できる能力、自己研鑽への情熱や社会性などを評価する。
		小論文	総評		●				
	面接	総評		●	●	●			
学校推薦型選抜	A方式	教科・科目	100	●				<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(専願制・学校長推薦) 個別試験(2科目)の得点・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行い、段階評価したうえで点数化する。面接では、自分の意見・主張を論理的に説明できる能力、自己研鑽への情熱や社会性などを評価する。 	
		面接	20		●	●	●		
一般選抜	系統別日程	教科・科目	400	●				<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(3科目)の得点により、選考する。 英語・選択科目の得点を1.5倍する。[傾斜配点] 	
	前期日程	教科・科目	300	●					
	前期日程・共通テスト併用型	教科・科目	400	●				<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(前期日程2科目)と大学入学共通テスト(2科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。 	
		(英語資格)	★	●			●		
	共通テスト利用型Ⅰ期	教科・科目	600	●				<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト(4科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。 	
		(英語資格)	★	●			●		
	共通テスト利用型Ⅱ期	教科・科目	600	●				<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト(3科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。 	
		(英語資格)	★	●			●		
共通テスト利用型Ⅲ期	教科・科目	300	●				<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト(3科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。 		
	(英語資格)	★	●			●			
後期日程	教科・科目	200	●				<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(2科目)の得点により、選考する。 		
特別選抜	帰国生徒	教科・科目	100	●				<ul style="list-style-type: none"> 日本の国籍を有する者又は日本国の永住許可を得ている者のうち、外国の学校で学んだ者を対象とする。 個別試験(2科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。 小論文では、自分の意見・主張を論理的に説明できる能力などを評価する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。面接では、自分の意見・主張を論理的に説明できる能力、自己研鑽への情熱や社会性などを評価する。 	
		小論文	100		●				
		面接	総評		●	●			
	社会人	小論文	100		●			<ul style="list-style-type: none"> 社会人としての活動や経験を有した者を対象とする。 個別試験(1科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。 小論文では、自分の意見・主張を論理的に説明できる能力などを評価する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。面接では、自分の意見・主張を論理的に説明できる能力、自己研鑽への情熱や社会性などを評価する。 	
		面接	総評		●	●			
	学部留学生(前期日程)	教科・科目	850	●				<ul style="list-style-type: none"> 外国の国籍のみを有し、日本国内外を問わず12年の課程を修了(見込み)の者またはこれに準ずる者を対象とする。ただし、日本の高校を卒業した者は、学校教育法に基づく小学校・中学校・中等教育学校・高等学校の在籍期間が通算3年以内である者。 教科・科目については日本留学試験(3科目)の得点、提出書類については指定する英語外部試験の結果を含み、総合的に選考する。 	
		提出書類	総評	●	●	●	●		
	学部留学生(後期日程)	教科・科目	100	●				<ul style="list-style-type: none"> 外国の国籍のみを有し、日本国内外を問わず12年の課程を修了(見込み)の者またはこれに準ずる者を対象とする。ただし、日本の高校を卒業した者は、学校教育法に基づく小学校・中学校・中等教育学校・高等学校の在籍期間が通算3年以内である者。 日本留学試験・個別試験(1科目)の得点・提出書類・面接(作文含む)により総合的に選考する。 面接(作文含む)は、提出書類・評価項目に基づいて行う。面接(作文含む)では、自分の意見・主張を論理的に説明できる能力、自己研鑽への情熱や社会性などを評価する。また、基礎学力や日本語運用能力を確認するための口頭試問を含む。 	
		面接	総評		●	●			
	編・転・学士	教科・共通教育科目	100	●				<ul style="list-style-type: none"> 短期大学卒業(見込み)の者、専修学校の専門課程修了(見込み)の者、他大学に継続して2年以上在学したことがある(見込み)の者、学士の学位を有する(見込み)の者を対象とする。 編・転入試験は、個別試験(1科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。学士入試は、面接のほかに筆記試験を課すことがある。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。面接では、自分の意見・主張を論理的に説明できる能力、自己研鑽への情熱や社会性などを評価する。 	
書類審査・面接		100		●	●				

評価項目

A: 知識・理解 / B: 技能 / C: 態度・志向性 / D: その他の能力・資質

●: 重点を置いて評価している / 総評: 点数化はしないが、段階評価し、総合的に評価している



養成する人材像・教育課程の特色

商学科は、流通・マーケティング、情報・サービス、交通、金融・保険、商業史の広範な分野の理論を学ぶことを通して、時代の変化を多面的な視点から考察し、実務における基礎力を身に付けることで、社会や地域に貢献できる人材を養成することを目指しています。そのために、流通・マーケティング、情報・サービス、交通、金融・保険、商業史の分野ごとに入門科目を設けています。また、1年次生全員が受講できる基礎ゼミナールを用意しています。大学生としての第一歩となる足場を1年次に固めた後は、自分なりの興味・関心に応じて、専門科目、特別講義や小人数の専門ゼミナールを受講し、プロジェクト・課外活動に参加することで、「時代の変化を多面的な視点から考察する力」や「実務に対応できる基礎力」が修得できます。

A 知識・理解

高等学校の教育内容を幅広く学習しており、それらを社会や地域との関係を軸に考え解釈することに興味がある人

流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識は人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識が基礎になっています。それは商学が、理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況を説明し、企業、産業、地域が取り組むべき課題や、企業、産業、地域が発展する方向について説明する学問領域だからです。また、社会や地域の現実の動きに対する興味や関心が商学には不可欠です。入試科目に囚われない幅広い知識欲や何かを理解したいと思う意志をもつ人を歓迎します。

B 技能

自分の興味・関心を起点に情報や他者の意見を集め、それらを素材に論理的に考え自分の意見を表現することができる人

商学科では、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見し解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案すること、他者と連携しチーム活動においてリーダーシップを発揮すること、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し課題解決に必要な知見を抽出することが求められます。これらの活動の根っこにあるのは、自分の興味・関心を起点に、情報や他者の意見を集め、それらを素材に論理的に考え主張する力です。日頃から、「なぜだろう?」「どうして?」と自問し、本や文章からポイントを読み取る力を鍛錬してください。他者の話にじっくり耳を傾けることも大切です。

求める人材像 (求める能力)

C 態度・志向性

社会の一員であることに自覚的で、社会や地域に貢献したいと思う使命感をもった人

商学科では、社会の一員として、社会や地域の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっていること、社会や地域の発展に貢献するために自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けること、主体的・協動的に他者を巻き込む行動をとることが求められます。商学科は、そのような高い志を持った積極的な人を歓迎します。

D その他の能力・資質

自己研鑽により、英語をはじめ各種の資格・検定試験に合格した人

商学を学ぶ上で大切なのは、地域や社会に対する自分なりの興味・関心です。そのため、社会や地域との接点をもっているか否かが評価の1つになります。課外活動、資格の取得、ボランティア活動、留学など社会や地域との接点を自主的、積極的に求める活動を評価します。

入学者選抜のねらい

商学科は、学びや諸活動の中で挑戦し続ける意欲あふれる人材や、多様な背景を持ち、さまざまな能力を有する人材を国内外から広く受け入れます。そのために、これまでに培われた基礎学力、活動や経験を通じて身に付けた能力、資質、学ぶ意欲などを、多面的・総合的に評価する多様な入学試験を実施します。

入学試験での評価

入試制度	選考方法	配点	評価項目				合否判定の方法	
			A	B	C	D		
総合型選抜	総合型	提出書類	総評	●			●	<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(専願制・自己推薦) [一次選考] 提出書類 (資格取得証明書、活動歴報告書、自己推薦書、調査書) により総合的に選考する。 [二次選考] 面接・小論文により総合的に選考する。 小論文は、趣旨を的確に理解できているか、文章を論理的に展開できているかを評価する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。
		小論文	総評		●			
		面接	総評		●	●		
	アスリート特別	提出書類	総評	●	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(競技成績に関する基準あり・全体の学習成績の状況3.0以上・国語の学習成績の状況3.5以上・専願制・自己推薦・クラブ部長等推薦) [一次選考] 提出書類 (調査書・自己推薦書・推薦状・競技歴証明資料) により選考する。 [二次選考] 小論文・面接により総合的に選考する。 小論文は、趣旨を的確に理解できているか、文章を論理的に展開できているかを評価する。 面接は、提出書類・小論文・評価項目に基づいて行う。
		小論文	総評		●			
		面接	総評		●	●		
学校推薦型選抜	A方式	教科・科目	100	●				<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(専願制・学校長推薦) 個別試験(2科目)の得点・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行い、段階評価したうえで点数化する。
		面接	20		●	●	●	
一般選抜	系統別日程	教科・科目	400	●				<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(3科目)の得点により、選考する。 英語・選択科目の得点を1.5倍する。[傾斜配点]
	前期日程	教科・科目	300	●				<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(3科目)の得点により、選考する。
	前期日程・共通テスト併用型	教科・科目	400	●				<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(前期日程2科目)と大学入学共通テスト(2科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。
		(英語資格)	★	●			●	
	共通テスト利用型Ⅰ期	教科・科目	400	●				<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト(4科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。
		(英語資格)	★	●			●	
	共通テスト利用型Ⅱ期	教科・科目	600	●				<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト(3科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。
(英語資格)		★	●			●		
後期日程	教科・科目	200	●				<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(2科目)の得点により、選考する。 	
特別選抜	帰国生徒	教科・科目	100	●				<ul style="list-style-type: none"> 日本の国籍を有する者又は日本国の永住許可を得ている者のうち、外国の学校で学んだ者を対象とする。 個別試験(2科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。 小論文は、社会・経済事象に関して自己の意見を明確に文章で表現できているかを評価する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。
		小論文	100		●			
		面接	総評		●	●		
	社会人	小論文	100		●			<ul style="list-style-type: none"> 社会人としての活動や経験を有した者を対象とする。 小論文・提出書類・面接により総合的に選考する。 小論文は、社会・経済事象に関して自己の意見を明確に文章で表現できているかを評価する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。
		面接	総評		●	●		
	学部留学生(後期日程)	面接	総評	●	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> 外国の国籍のみを有し、日本国内外を問わず12年の課程を修了(見込み)の者またはこれに準ずる者を対象とする。ただし、日本の高校を卒業した者は、学校教育法に基づく小学校・中学校・中等教育学校・高等学校の在籍期間が通算3年以内である者。 日本留学試験・提出書類・面接(作文含む)により総合的に選考する。 面接(作文含む)は、提出書類・評価項目に基づいて行う。また、基礎学力や日本語運用能力を確認するための口頭試験を含む。
編・転・学士	教科・共通教育科目	200	●				<ul style="list-style-type: none"> 短期大学卒業(見込み)の者、専修学校の専門課程修了(見込み)の者、他大学に継続して2年以上在学したことがある(見込み)の者、学士の学位を有する(見込み)の者を対象とする。 編・転入試験は、個別試験(2科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。学士入試は、面接のほかに小論文を課すことがある。 小論文は、社会・経済事象に関して自己の意見を明確に文章で表現できているかを評価する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。 	
	面接	総評		●	●			

評価項目

A: 知識・理解 / B: 技能 / C: 態度・志向性 / D: その他の能力・資質

●: 重点を置いて評価している / 総評: 点数化はしないが、段階評価し、総合的に評価している



養成する人材像・教育課程の特色

経営学科は、企業をはじめとする各種組織のマネジメントリーダーまたは職業会計人として、強い責任感を有し、問題発見および問題解決の能力を持ち、協働して社会に貢献できる人材を養成することを目的としています。そのため、経営学科では、経営学と会計学に関する科目を多く設置しています。いずれの学問領域も1年次から入門科目を置き、段階的かつ体系的に学ぶことができるようにしています。また、グループワークやコミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を高められるように、1年次から4年次まで小人数クラスのゼミナールを配置しています。

A

知識・理解

高等学校の教育内容を幅広く学習しており、社会・経済事象に強い関心をもっている人

経営学科では、経営学および会計学を中心に学びますが、その際、高等学校までに学習する幅広い知識が基礎知識として役立ちます。まず、学修のための基礎的能力として、文章の読解力および論理的思考力を養う科目である国語、英語、数学を深く学んでいることが不可欠です。さらに、経営学科の研究領域の対象となる社会・経済事象に関連する社会科の科目（現代社会、地理、世界史、日本史、政治・経済等）に関心を持ち、学んでいることが望まれます。また、商業系の学校やコースでは、商業、マーケティング、簿記・会計などの基礎知識を身につけていることが求められます。

B

技能

学習や課外活動での経験によって、他者とのコミュニケーションがとれる人

経営学科は、各種組織のマネジメントリーダーまたは職業会計人となる人材の養成を目的としています。ここでは、他者と協働して課題発見・解決する能力が求められます。その際に不可欠なのは、他者とのコミュニケーション能力です。自らの考えを相手にできる限り正確に伝え、相手の考えをできる限り正確に理解する能力を高等学校における授業および課外活動で高めて下さい。

求める人材像
(求める能力)

C

態度・志向性

マネジメントリーダーまたは職業会計人となる気概をもち、他者と協働して社会に貢献したいと考えている人

組織において、マネジメントリーダーになるのも職業会計人になるのも容易にできることではありません。したがって、まずはなろうとする強い意気込みが求められます。同時に、単に知識や技術だけでなく、責任感をもち、他者を思いやり、他者と協力して課題を解決することが組織、ひいては社会で求められます。経営学科は、そのような気概をもち人間性豊かな人を求めています。

D

その他の能力・資質

自己研鑽により、英語をはじめ各種の資格・検定試験に合格した人

近年、グローバル化の進展により、マネジメントリーダーにせよ職業会計人にせよ、その活動範囲は国内のみならず海外にも及んでいます。そこではしばしば英語によるコミュニケーションが求められます。したがって、経営学科では、英語の4技能（読む・聞く・話す・書く）を高く評価しています。また、経営学科では、向上心、向学心をもって高校在学中に様々な資格・検定試験に挑戦し、成果を出した人も高く評価しています。

入学者選抜のねらい

経営学科は、高い目標をもち、それを達成するために努力を惜しまない人材をはじめ、多様な価値観、能力を有する人材を国内外から広く受け入れます。そのために、これまでに培われた基礎知識、活動や経験を通じて身に付けた技能、資質、志向性などを、多面的・総合的に評価する多様な入学試験を実施します。

入学試験での評価

入試制度	選考方法	配点	評価項目				合否判定の方法		
			A	B	C	D			
総合型選抜	総合型	提出書類	総評	●			●	<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(専願制・自己推薦) [一次選考]提出書類(資格取得証明書、活動歴報告書、自己推薦書、調査書)により総合的に選考する。 [二次選考]面接・小論文により総合的に選考する。 小論文は、趣旨を的確に理解できているか、文章を論理的に展開できているかを評価する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。 	
		小論文	総評	●	●				
		面接	総評		●	●	●		
	アスリート特別	提出書類	総評	●	●	●			<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(競技成績に関する基準あり・全体の学習成績の状況3.0以上・国語の学習成績の状況3.5以上・専願制・自己推薦・クラブ部長等推薦) [一次選考]提出書類(調査書・自己推薦書・推薦状・競技歴証明資料)により選考する。 [二次選考]小論文・面接により総合的に選考する。 小論文は、趣旨を的確に理解できているか、文章を論理的に展開できているかを評価する。 面接は、提出書類・小論文・評価項目に基づいて行う。
		小論文	総評	●	●				
		面接	総評		●	●	●		
学校推薦型選抜	A方式	教科・科目	100	●			<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(専願制・学校長推薦) 個別試験(2科目)の得点・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行い、段階評価したうえで点数化する。 		
		面接	20		●	●		●	
一般選抜	系統別日程	教科・科目	400	●			<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(3科目)の得点により、選考する。 国語・選択科目の得点を1.5倍する。[傾斜配点] 		
	前期日程	教科・科目	300	●					
	前期日程・共通テスト併用型	教科・科目	400	●				<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(前期日程2科目)と大学入学共通テスト(2科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。 	
		(英語資格)	★	●	●	●			●
	共通テスト利用型Ⅰ期	教科・科目	400	●				<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト(4科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。 	
		(英語資格)	★	●	●	●			●
	共通テスト利用型Ⅱ期	教科・科目	600	●				<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト(3科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。 	
(英語資格)		★	●	●	●	●			
後期日程	教科・科目	200	●			<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(2科目)の得点により、選考する。 			
特別選抜	帰国生徒	教科・科目	100	●			<ul style="list-style-type: none"> 日本の国籍を有する者又は日本国の永住許可を得ている者のうち、外国の学校で学んだ者を対象とする。 個別試験(2科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。 小論文は、社会・経済事象に関して自己の意見を明確に文章にて表現できているかを評価する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。 		
		小論文	100	●	●				
		面接	総評		●	●		●	
	社会人	小論文	100	●	●			<ul style="list-style-type: none"> 社会人としての活動や経験を有した者を対象とする。 小論文・提出書類・面接により総合的に選考する。 小論文は、社会・経済事象に関して自己の意見を明確に文章にて表現できているかを評価する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。 	
		面接	総評		●	●			●
	学部留学生(後期日程)	面接	総評	●	●	●		●	<ul style="list-style-type: none"> 外国の国籍のみを有し、日本国内外を問わず12年の課程を修了(見込み)の者またはこれに準ずる者を対象とする。ただし、日本の高校を卒業した者は、学校教育法に基づく小学校・中学校・中等教育学校・高等学校の在籍期間が通算3年以内である者。 日本留学試験・提出書類・面接(作文含む)により総合的に選考する。 面接(作文含む)は、提出書類・評価項目に基づいて行う。また、基礎学力や日本語運用能力を確認するための口頭試験を含む。
編・転・学士	教科・共通教育科目	200	●			<ul style="list-style-type: none"> 短期大学卒業(見込み)の者、専修学校の専門課程修了(見込み)の者、他大学に継続して2年以上在学したことがある(見込み)の者、学士の学位を有する(見込み)の者を対象とする。 編・転入試は、個別試験(2科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。学士入試は、面接のほかに小論文を課すことがある。 小論文は、社会・経済事象に関して自己の意見を明確に文章にて表現できているかを評価する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。 			
	面接	総評		●	●		●		

評価項目

- A: 知識・理解 / B: 技能 / C: 態度・志向性 / D: その他の能力・資質
 ●: 重点を置いて評価している / 総評: 点数化はしないが、段階評価し、総合的に評価している



養成する人材像・教育課程の特色

貿易学科は、世界情勢の変化に適応し、これを先取りできるビジネスマインドを持った国際教養人を養成することを目的としています。すなわち、様々な個人、団体、組織による国際的な経済活動およびグローバルな展開を理解する能力を持ち、地域と世界をつなぐ能力を持った人材を養成することを目的としています。そのため、貿易学科では貿易実務・ビジネス英語、国際ビジネス、貿易論、国際金融、各国経済・地域に関する科目を多く設置しています。また、商学、経営学、会計学などの基本科目を配置し、商学・ビジネスの基礎を学習できるよう配慮しています。いずれの分野も1年次から入門科目を置き、段階的かつ体系的に学ぶことができます。さらに、文献・ビジネス情報の理解力およびプレゼンテーション能力などを高められるように、1年次から4年次まで小人数クラスのゼミナールを配置しています。

A 知識・理解

高等学校の教育内容を幅広く学習しており、商学・国際貿易を学ぶに十分な基礎学力を有している人

貿易実務、国際ビジネス、貿易論、国際金融、各国経済・地域をはじめとする国際貿易の知識は人文科学および社会科学についての基本的な知識が基礎になっています。また、今日の国際取引では人を介したコミュニケーションおよび文書において国際共通語である英語が使用されます。それゆえに貿易学科は英語の基礎学力を重視します。貿易学科では、企業・産業・地域などについて商学・経営学などの科目から学びますが、多くの専門分野は人、企業、産業などのグローバルな活動に関わるものなので、多様な関心から広く海外に目を向け、貪欲に学習する意欲を持った人を歓迎します。なお、高等学校の社会科の科目は特定の科目だけの学習に偏る傾向がみられますが、できるだけ多くの科目を学習することが大切です。

B 技能

学習や課外活動での経験によって、他者とのコミュニケーションがとれる人

貿易学科で学ぶ領域は商学・経営学・国際貿易の基礎から貿易実務・ビジネス英語、国際ビジネス、貿易論、国際金融、各国経済・地域および国際協力に至るまで広範に及びます。これらの領域に関わる専門科目を学ぶ上で、日本および海外の経済やビジネスだけでなく人々の暮らしや考え方、異文化・多文化の存在について高等学校までに様々な形で(たとえば、家業の手伝い、父母の経験を聞くこと、国内のボランティア活動、海外での研修および居住経験など)自ら触れることが大切です。そして、そこで必要なことは他者と進んでコミュニケーションがとれること、議論できる能力をもつことです。

求める人材像 (求める能力)

C 態度・志向性

国際感覚を持ったビジネスリーダーを目指し、地域と世界をつなぐことによって社会に貢献したいと考えている人

貿易学科は、日本が貿易や投資の拡大を通じて国際社会の一員として頭角を現した時期に、国際化を担う人材を育成するために創設されました。今日、国際化、グローバル化という言葉は日常茶飯事のごとくよく使われますが、日本はいま人口減少、経済の低成長、および国際的諸課題など多くの課題に直面しています。これらの課題を真剣に考え、海外を含め自ら進んで海外の人々とのコミュニケーション能力を高めることに熱意を有する人を求めます。そのためにも足元の日本だけでなく近隣のアジア諸国さらには広く世界で日々生起する出来事にたいして新聞ほか各種情報をしっかり読み込み、理解する姿勢を望みます。

D その他の能力・資質

自己研鑽により、英語をはじめ各種の資格・検定試験に合格した人

各種の英語検定資格、簿記会計資格および情報処理検定などを取得した人は貿易学科の学習を進めるうえでスムーズに、少し余裕をもって取り組むことができます。また、スポーツ活動などで顕著な成績をおさめた人、さらに生徒会活動やさまざまなボランティア活動への参加経験などがある人は、学科の活発で明るい雰囲気より高め、学生間および教員とのコミュニケーションを豊かにしてくれると確信します。

入学者選抜のねらい

貿易学科は、多様な背景を持ち、様々な能力を有し、ビジネスマインドを持った国際教養人をめざす人を国内外から広く受け入れます。そのために、これまでに培われた基礎学力、活動や経験を通じて身に付けた能力、資質、学ぶ意欲などを、多面的・総合的に評価する多様な入学試験を実施します。

入学試験での評価

入試制度	選考方法	配点	評価項目				合否判定の方法		
			A	B	C	D			
総合型選抜	総合型	提出書類	総評	●			●	<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(専願制・自己推薦) [一次選考] 提出書類 (資格取得証明書、活動歴報告書、自己推薦書、調査書) により総合的に選考する。 [二次選考] 面接・小論文により総合的に選考する。 小論文は、趣旨を的確に理解できているか、文章を論理的に展開できているかを評価する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。 	
		小論文	総評		●				
		面接	総評		●	●			
	アスリート特別	提出書類	総評	●	●	●	●		<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(競技成績に関する基準あり・全体の学習成績の状況3.0以上・国語の学習成績の状況3.5以上・専願制・自己推薦・クラブ部長等推薦) [一次選考] 提出書類 (調査書・自己推薦書・推薦状・競技歴証明資料) により選考する。 [二次選考] 小論文・面接により総合的に選考する。 小論文は、趣旨を的確に理解できているか、文章を論理的に展開できているかを評価する。 面接は、提出書類・小論文・評価項目に基づいて行う。
		小論文	総評		●				
		面接	総評		●	●			
学校推薦型選抜	A方式	教科・科目	100	●			<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(専願制・学校長推薦) 個別試験(2科目)の得点・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行い、段階評価したうえで点数化する。 		
		面接	20		●	●		●	
一般選抜	系統別日程	教科・科目	400	●			<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(3科目)の得点により、選考する。 英語・選択科目の得点を1.5倍する。[傾斜配点] 		
	前期日程	教科・科目	300	●			<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(3科目)の得点により、選考する。 		
	前期日程・共通テスト併用型	教科・科目	400	●			<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(前期日程2科目)と大学入学共通テスト(2科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。 		
		(英語資格)	★	●	●	●		●	
	共通テスト利用型Ⅰ期	教科・科目	400	●			<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト(4科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。 		
		(英語資格)	★	●	●	●		●	
	共通テスト利用型Ⅱ期	教科・科目	600	●			<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト(3科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。 		
(英語資格)		★	●	●	●	●			
後期日程	教科・科目	200	●			<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(2科目)の得点により、選考する。 			
特別選抜	帰国生徒	教科・科目	100	●			<ul style="list-style-type: none"> 日本の国籍を有する者又は日本国の永住許可を得ている者のうち、外国の学校で学んだ者を対象とする。 個別試験(2科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。 小論文は、社会・経済事象に関して自己の意見を明確に文章にて表現できているかを評価する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。 		
		小論文	100		●				
		面接	総評		●	●			
	社会人	小論文	100		●			<ul style="list-style-type: none"> 社会人としての活動や経験を有した者を対象とする。 小論文・提出書類・面接により総合的に選考する。 小論文は、社会・経済事象に関して自己の意見を明確に文章にて表現できているかを評価する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。 	
		面接	総評		●	●			
	学部留学生(後期日程)	面接	総評	●	●	●		<ul style="list-style-type: none"> 外国の国籍のみを有し、日本国内外を問わず12年の課程を修了(見込み)の者またはこれに準ずる者を対象とする。ただし、日本の高校を卒業した者は、学校教育法に基づく小学校・中学校・中等教育学校・高等学校の在籍期間が通算3年以内である者。 日本留学試験・提出書類・面接(作文含む)により総合的に選考する。 面接(作文含む)は、提出書類・評価項目に基づいて行う。また、基礎学力や日本語運用能力を確認するための口頭試験を含む。 	
編・転・学士	教科・共通教育科目	200	●			<ul style="list-style-type: none"> 短期大学卒業(見込み)の者、専修学校の専門課程修了(見込み)の者、他大学に継続して2年以上在学したことがある(見込み)の者、学士の学位を有する(見込み)の者を対象とする。 編・転入試は、個別試験(2科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。学士入試は、面接のほかに小論文を課すことがある。 小論文は、社会・経済事象に関して自己の意見を明確に文章にて表現できているかを評価する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。 			
	面接	総評		●	●				

評価項目

- A: 知識・理解 / B: 技能 / C: 態度・志向性 / D: その他の能力・資質
 ●: 重点を置いて評価している / 総評: 点数化はしないが、段階評価し、総合的に評価している



商学部第二部 商学科

【学位(教育)プログラム名：商学(第二部)】

養成する人材像・教育課程の特色

商学部第二部商学科は、商学の広範な内容について学ぶことを通して、地域経済を動かすリーダーシップを備えた人材を養成することを目的としています。そのため、商学部第二部商学科では、「情報」「商業(流通・金融・保険・交通・歴史)」「経営」「会計」「国際」の領域に関する科目を多く設置しています。いずれの学問領域も1年次から入門科目を置き、段階的かつ体系的に学ぶことができるようにしています。また、コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を高めると共に、専門領域の学習をより深めるために小人数クラスのゼミナールを1年次より配置しています。

A

知識・理解

高等学校の教育内容を幅広く学習しており、商学を学ぶに十分な基礎学力を有している人

流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学について基本的な知識を身につけるためには、高等学校の教育内容を幅広く学習していることが求められます。商学を学ぶ上で必要な社会科科目(現代社会、地理、日本史、世界史、政治・経済)はもとより、数学や現代文なども論理的思考力や理解力を身につける上で学んでいることが望ましい科目です。その上で、商学部第二部において修得した商学の知識を用いて企業や地域がおかれている経済的・社会的状況のみならず、企業や地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することに高い関心と意欲をもってることが求められます。

B

技能

学習や課外活動から得た経験やデータについて論理的に説明しようとする習慣を身につけている人

高等学校における学習や課題活動から得た経験やデータを理解するために、論理的に思考し説明しようとする習慣を身につけており、商学部第二部において学んだ知識を用いて企業および地域社会における問題を自ら発見し、それと関連する情報を蒐集するとともに、解決策を論理的に組み立てて提案できるようになることや、周囲の人と協働して問題解決にあたるためのコミュニケーション能力を活用できるようになることに高い関心と意欲をもってしている人を求めます。

求める人材像
(求める能力)

C

態度・志向性

経済社会の現実の諸問題の解決能力を身につけ、将来、地域経済のリーダーとなる意欲に溢れる人

高等学校における学習や課外活動に積極的に取り組む姿勢を身につけており、商学部第二部において学んだ知識を自らで発展させる主体的な姿勢をもち、周囲の人と協働して企業および地域社会の発展に積極的に取り組む強い責任感と高い志をもってしている人を求めます。

D

その他の能力・資質

自己研鑽により、英語をはじめ各種の資格・検定試験に合格した人およびキャリア・アップを目指す社会人

現在はグローバル経済と情報化がますます進展していく中で、高い英語の運用能力や、ビジネスに関する高い専門的知識を身につけている人材に対する需要はこれまで以上に求められると考えられます。英語の各種検定試験・資格(英検、TOEIC、TOEFL等)の取得をめざしている人や、社会・経済関係の各種資格・検定試験(公認会計士、税理士、日商簿記等)をめざしている人、さらには、社会人としてキャリア・アップをめざしている人を求めます。

入学者選抜のねらい

商学部第二部は、経済社会の現実の諸問題に関心をもち、将来、地域経済のリーダーとして活躍する意欲に溢れる人材を広く受け入れます。そのために、高等学校の教育内容で培われた基礎学力、課外活動から得た経験やデータを論理的に説明する習慣、資質、学習意欲などを、多面的・総合的に評価する多様な入学試験を実施します。

入学試験での評価

入試制度	選考方法	配点	評価項目				合否判定の方法		
			A	B	C	D			
総合型選抜	総合型	提出書類	総評	●			●	<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(専願制・自己推薦) [一次選考] 提出書類(資格取得証明書、活動歴報告書、自己推薦書、調査書)により総合的に選考する。 [二次選考] 面接・小論文により総合的に選考する。 小論文は、趣旨を的確に理解できているか、文章を論理的に展開できているかを評価する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。 	
		小論文	総評	●	●				
		面接	総評		●	●			
	アスリート特別	提出書類	総評	●	●	●	●		<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(競技成績に関する基準あり・全体の学習成績の状況3.0以上・国語の学習成績の状況3.5以上・専願制・自己推薦・クラブ部長等推薦) [一次選考] 提出書類(調査書・自己推薦書・推薦状・競技歴証明資料)により選考する。 [二次選考] 小論文・面接により総合的に選考する。 小論文は、趣旨を的確に理解できているか、文章を論理的に展開できているかを評価する。 面接は、提出書類・小論文・評価項目に基づいて行う。
		小論文	総評		●				
		面接	総評		●	●			
学校推薦型選抜	A方式	教科・科目	100	●			<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(学校長推薦) 個別試験(2科目)の得点・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行い、段階評価したうえで点数化する。 		
		面接	20		●	●		●	
一般選抜	系統別日程	教科・科目	400	●			<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(3科目)の得点により、選考する。 国語・選択科目の得点を1.5倍する。[傾斜配点] 		
	前期日程	教科・科目	300	●					
	共通テスト利用型Ⅰ期	教科・科目	400	●				<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト(4科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。 	
		(英語資格)	★	●		●			
	共通テスト利用型Ⅱ期	教科・科目	600	●				<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト(3科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。 	
		(英語資格)	★	●		●			
後期日程	教科・科目	200	●						
特別選抜	帰国生徒	教科・科目	100	●			<ul style="list-style-type: none"> 日本の国籍を有する者又は日本国の永住許可を得ている者のうち、外国の学校で学んだ者を対象とする。 個別試験(2科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。 小論文は、社会・経済事象に関して自己の意見を明確に文章で表現できているかを評価する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。 		
		小論文	100		●				
		面接	総評		●	●			
	社会人	小論文	100		●		<ul style="list-style-type: none"> 社会人としての活動や経験を有した者を対象とする。 小論文・提出書類・面接により総合的に選考する。 小論文は、社会・経済事象に関して自己の意見を明確に文章にて表現できているかを評価する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。 		
		面接	総評		●	●			
	編・転・学士	教科・共通教育科目	100	●			<ul style="list-style-type: none"> 短期大学卒業(見込み)の者、専修学校の専門課程修了(見込み)の者、他大学に継続して2年以上在学したことがある(見込み)の者、学士の学位を有する(見込み)の者を対象とする。 編・転入試は、個別試験(1科目)の得点・小論文・提出書類・面接により総合的に選考する。学士入試は、面接のほかに小論文を課すことがある。 小論文は、社会・経済事象に関して自己の意見を明確に文章で表現できているかを評価する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。 		
		小論文	100		●				
		面接	総評		●	●			

評価項目

A: 知識・理解 / B: 技能 / C: 態度・志向性 / D: その他の能力・資質

●: 重点を置いて評価している / 総評: 点数化はしないが、段階評価し、総合的に評価している



養成する人材像・教育課程の特色

応用数学科は、探究心、向上心を持ち、数学の学修を通じて養われた柔軟な発想力、豊かな創造力のもと、社会で直面する諸問題を解決する力を備え、社会の健全な発展に寄与する人材を養成することを目的とします。そのために、数学・情報数理の専門知識、さらには数学のみならず、自然科学・人文科学・社会科学・語学の幅広い教養が身に付くように、カリキュラムが編成されています。講義はもちろん、数多く設置された演習・実習、あるいは3年次後期より始まるゼミナールを通じて、数学・情報数理の理論と応用を学び、計算や定理の証明を丹念に行い、粘り強く、必要に応じて視点を変えて考え抜くことにより、論理的な分析力、思考力を養うことを目指します。

A

知識・理解

応用数学科で学んでいく上で必要な、高等学校における数学の十分な基礎学力がある人

応用数学科で学んでいく上で、高等学校における「数学Ⅰ」、「数学A」、「数学Ⅱ」、「数学B」（確率分布と統計的な推測の単元は除く）、「数学Ⅲ」の知識があり、十分に理解していることが必要です。数学ではいろいろな公式が出てきますが、これらは丸覚えするのではなく、必ず導き方を理解するように努めて下さい。また、たとえば教科書では「図形の性質」で出てくる問題を「ベクトル」で解いてみる、というふうに、教科書の単元の間をつなぐ意識をもち、1つの問題のいろいろな解き方を考えてみて下さい。もちろん、数学以外の入試科目についても、積極的に取り組んで下さい。

B

技能

自分の考え、知識を筋道立てて、論理的に説明することができる人

数学は定義（数学の約束）に基づいて、論理的に議論を積み重ねていく学問です。たとえば大学の入学試験の問題でも、少し難しめのものになれば、ああなって、こうなって、こうなる、というふうに、いくつかの段階を踏んで解いていくことになります。会話でコミュニケーションを取るときも、常に話の内容を論理的に構成するように心がけて下さい。

求める人材像 (求める能力)

C

態度・志向性

数学に対する探究心・向上心・好奇心を持ち、主体的に学習する意欲を持っている人

大学に入学すると最初は、数学を学んでいく上での基礎的な内容の講義がほとんどですが、学年が上がっていくにつれて、専門的な数学の科目が増えてきます。これらの内容は、代数、幾何、解析、情報数理などそれぞれの専門分野に限っても、広く、深く、そのため、講義ですべての内容をカバーすることは不可能です。3年次後期より始まるゼミナールでは、講義で学んだことを取っ掛かりとして、講義の先にある内容を、主体的に学習していくことになります。数学に限らず様々な場面において、主体的に学ぶ姿勢を持つように心がけて下さい。

D

その他の能力・資質

数学を通じてコミュニケーションが取れる人

みなさんの中には中学・高校で、数学が苦手な人に、わからないところを教えてあげた経験を持っている人も多いと思います。誰かに教えることで自身の理解が深まる、ということもあります。応用数学科では、講義・演習を通じて、グループで教えあって、1学年48名の学生が、仲良く、主体的に勉強する雰囲気作りを目指しています。なお、英語のコミュニケーション能力も求められていることから、前期日程・共通テスト併用型、共通テスト利用型（Ⅰ期、Ⅱ期）では、英語の資格・検定試験活用制度があります。

入学者選抜のねらい

応用数学科は、数学や情報数理を学ぶ意欲にあふれる人材を、国内外から広く受け入れます。そのために、これまでに培われた基礎学力を評価する多様な入学試験を実施します。

入学試験での評価

入試制度	選考方法	配点	評価項目				合否判定の方法		
			A	B	C	D			
総合型選抜	総合型	提出書類	総評	●	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(数学の学習成績の状況3.8以上・専願制・自己推薦) [一次選考]提出動画および提出書類(志望理由書・自己推薦書・調査書)により総合的に選考する。動画の課題は入試要項に掲載する。 [二次選考]面接(口頭試問を含む)により総合的に選考する。 面接では、課題(提出動画)および関連する高校数学の基礎的な内容についての理解度を確認するために口頭試問を行う。 	
		提出動画	総評	●	●				
		面接	総評	●	●	●	●		
	アスリート特別	提出書類	総評	●	●	●	●		<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(競技成績に関する基準あり・全体の学習成績の状況3.0以上・英語、数学、理科を履修し、英語の評定の平均および数学、理科の学習成績の状況が3.5以上・専願制・自己推薦・クラブ部長等推薦) [一次選考]提出書類(調査書・自己推薦書・推薦状・競技歴証明資料)により総合的に選考する。 [二次選考]小論文・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・小論文・評価項目に基づいて行う。
		小論文	総評		●				
		面接	総評		●	●			
学校推薦型選抜	A方式	教科・科目	100	●			<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(専願制・学校長推薦) 個別試験(2科目)の得点・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行い、段階評価したうえで点数化する。 		
		面接	20		●	●		●	
一般選抜	系統別日程	教科・科目	400	●			<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(3科目)の得点により、選考する。 数学の得点を2倍する。[傾斜配点] 		
	前期日程	教科・科目	300	●			<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(3科目)の得点により、選考する。 数学の得点を1.3倍、理科の得点を0.7倍する。[傾斜配点] 		
	前期日程・共通テスト併用型	教科・科目	400	●			<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(前期日程2科目)と大学入学共通テスト(2科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。 		
		(英語資格)	★	●		●			
	共通テスト利用型Ⅰ期	教科・科目	650	●			<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト(7科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。 		
		(英語資格)	★	●		●			
	共通テスト利用型Ⅱ期	教科・科目	500	●			<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト(4科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。 		
(英語資格)		★	●		●				
後期日程	教科・科目	200	●			<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(2科目)の得点により、選考する。 			
帰国生徒	教科・科目	200	●			<ul style="list-style-type: none"> 日本の国籍を有する者又は日本国の永住許可を得ている者のうち、外国の学校で学んだ者を対象とする。 個別試験(2科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。 			
	面接	総評		●	●				
特別選抜	学部留学生(前期日程)	教科・科目	750	●			<ul style="list-style-type: none"> 外国の国籍のみを有し、日本国内外を問わず12年の課程を修了(見込み)の者またはこれに準ずる者を対象とする。ただし、日本の高校を卒業した者は、学校教育法に基づく小学校・中学校・中等教育学校・高等学校の在籍期間が通算3年以内である者。 教科・科目については日本留学試験(3科目)の得点、提出書類については指定する英語外部試験の結果を含み、総合的に選考する。 外国の国籍のみを有し、日本国内外を問わず12年の課程を修了(見込み)の者またはこれに準ずる者を対象とする。ただし、日本の高校を卒業した者は、学校教育法に基づく小学校・中学校・中等教育学校・高等学校の在籍期間が通算3年以内である者。 日本留学試験・個別試験(1科目)の得点・提出書類・面接(作文含む)により総合的に選考する。 面接(作文含む)は、提出書類・評価項目に基づいて行う。また、基礎学力や日本語運用能力を確認するための口頭試問を含む。 短期大学卒業(見込み)の者、専修学校の専門課程修了(見込み)の者、他大学に継続して2年以上在学したことがある(見込み)の者、学士の学位を有する(見込み)の者を対象とする。 編・転入試験は、個別試験(3科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。学士入試は、面接のほかに筆記試験を課すことがある。 小論文は、自己の意見を明確に文章で表現できているかを評価する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。また、数学の理解度を確認するための口頭試問を含む。 		
		提出書類	総評	●	●	●		●	
	学部留学生(後期日程)	教科・科目	100	●				<ul style="list-style-type: none"> 外国の国籍のみを有し、日本国内外を問わず12年の課程を修了(見込み)の者またはこれに準ずる者を対象とする。ただし、日本の高校を卒業した者は、学校教育法に基づく小学校・中学校・中等教育学校・高等学校の在籍期間が通算3年以内である者。 日本留学試験・個別試験(1科目)の得点・提出書類・面接(作文含む)により総合的に選考する。 面接(作文含む)は、提出書類・評価項目に基づいて行う。また、基礎学力や日本語運用能力を確認するための口頭試問を含む。 	
		面接	総評	●	●	●			
	編・転・学士	教科・共通教育科目	200	●				<ul style="list-style-type: none"> 短期大学卒業(見込み)の者、専修学校の専門課程修了(見込み)の者、他大学に継続して2年以上在学したことがある(見込み)の者、学士の学位を有する(見込み)の者を対象とする。 編・転入試験は、個別試験(3科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。学士入試は、面接のほかに筆記試験を課すことがある。 小論文は、自己の意見を明確に文章で表現できているかを評価する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。また、数学の理解度を確認するための口頭試問を含む。 	
		小論文	100		●				
面接		総評	●	●	●				

評価項目

A: 知識・理解 / B: 技能 / C: 態度・志向性 / D: その他の能力・資質

●: 重点を置いて評価している / 総評: 点数化はしないが、段階評価し、総合的に評価している



理学部

社会数理・情報インスティテュート

【学位(教育)プログラム名：社会数理・情報】

養成する人材像・教育課程の特色

社会の問題の解決や分析に数理モデルを幅広く活用する能力をもち、社会や情報のシステム構築を通して活躍する人材を育てることを目指します。そのため、初年次から「基礎となる数学」と「数理モデルの構築や分析の方法」、「情報の理論や技術」を並行して学びます。活用する目的を意識して数学を学び、専門分野では身に付けた数学が効果的に活用される体系的な教育を用意しています。3年次からの2年間には、「総合力を身に付ける」ゼミナールを設け、それまでに身に付けた力を生かし、問題の解決や分析を目指した数理モデルの活用や効果的な方法を実現するための情報システムの構築を行う実践的なカリキュラムです。

A

知識・理解

高等学校の教育内容を幅広く学修し、数学やその他の得意とする分野の基礎学力に優れた人

このカリキュラムで身に付ける数理モデルや情報技術を中心とする実践的な能力は、幅広い分野で役立つものです。それを学ぶためには高校までの数学が基礎になりますが、身に付けた実践的な能力を生かすには、数学以外の様々な分野にも興味や関心が広がっていることが望まれます。今は、数学とは関係がないように感じる分野であっても、得意な分野を育てていけば、分析できる問題意識に出会うことにつながります。

B

技能

身近な友達と協力しながら考えを深めたり、分担して作業をしたりすることが積極的にできる人

社会数理・情報インスティテュートの個性は、1学年17名という少人数で学ぶ環境に支えられています。ディスカッションを通じて理解を深めるときや初めて経験する技術を学ぶときには、これまでの学校生活を通じて身に付けた友達と協力して学ぶ力が求められます。また、実習やゼミナールではチームでの共同作業もあり、ここでもこの力が発揮されます。

求める人材像
(求める能力)

C

態度・志向性

社会で使われている様々な仕組みや情報処理のシステムに興味・関心を持ち、身に付けた専門知識を生かして社会で活躍したいと考えている人

上位年次になると、より実践的な分析やシミュレーション、システム構築に取り組みます。これらの学習をより効果的なものにするためには、社会や情報分野で実際に使われている仕組みに関心や疑問を持った経験が必要になります。学んだことを生かしていこうとする姿勢が、社会数理・情報インスティテュートでの学びの価値を高めていきます。

D

その他の能力・資質

自分の目標を持ち、その目標の実現のために計画的に取り組める人

大学での4年間で着実に成長してくれる人を求めます。いつも、今の自分にとっての課題を意識し、その課題に積極的に取り組む、これを積み重ねることで大きな成長につなげてください。また、グローバル化した現代社会では高いコミュニケーション能力が求められています。共通テスト利用型選抜等では、英語の資格も活用できます。

入学選抜のねらい

社会数理・情報インスティテュートでは、専門分野の学びに自主的にとりくみ、身に付けた知識や技能を生かして社会で活躍したいと考えている人を求めています。

そのため、入学試験では数学を中心とする幅広い基礎学力と自分の目標に積極的にとりくむ姿勢や能力を総合的に評価します。

入学試験での評価

入試制度	選考方法	配点	評価項目				合否判定の方法	
			A	B	C	D		
総合型選抜	提出書類	総評	●	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(数学の学習成績の状況3.8以上・専願制・自己推薦) [一次選考] 提出動画および提出書類(志望理由書・自己推薦書・調査書)により総合的に選考する。動画の課題は入試要項に掲載する。 [二次選考] 面接(口頭試問を含む)により総合的に選考する。 面接では、課題(提出動画)および関連する高校数学の基礎的な内容についての理解度を確認するために口頭試問を行う。 	
	提出動画	総評	●	●				
	面接	総評	●	●	●	●		
学校推薦型選抜	教科・科目	100	●				<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(専願制・学校長推薦) 個別試験(2科目)の得点・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行い、段階評価したうえで点数化する。 	
	面接	20		●	●	●		
一般選抜	系統別日程	教科・科目	400	●				<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(3科目)の得点により、選考する。 数学の得点を2倍する。[傾斜配点]
	前期日程	教科・科目	300	●				
	前期日程・共通テスト併用型	教科・科目	400	●				<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(前期日程2科目)と大学入学共通テスト(2科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。
		(英語資格)	★	●			●	
	共通テスト利用型Ⅰ期	教科・科目	650	●				<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト(7科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。
		(英語資格)	★	●			●	
共通テスト利用型Ⅱ期	教科・科目	500	●				<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト(4科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。 	
	(英語資格)	★	●			●		
後期日程	教科・科目	200	●				<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(2科目)の得点により、選考する。 	
特別選抜	帰国生徒	教科・科目	200	●				<ul style="list-style-type: none"> 日本の国籍を有する者又は日本国の永住許可を得ている者のうち、外国の学校で学んだ者を対象とする。 個別試験(2科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。
		面接	総評		●	●	●	
	編・転・学士	教科・共通教育科目	200	●				<ul style="list-style-type: none"> 短期大学卒業(見込み)の者、専修学校の専門課程修了(見込み)の者、他大学に継続して2年以上在学したことがある(見込み)の者、学士の学位を有する(見込み)の者を対象とする。 編・転入試は、個別試験(3科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。学士入試は、面接のほか筆記試験を課すことがある。 小論文は、自己の意見を明確に文章で表現できているかを評価する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。
小論文		100		●	●	●		
面接		総評		●	●	●		

評価項目

A: 知識・理解 / B: 技能 / C: 態度・志向性 / D: その他の能力・資質

●: 重点を置いて評価している / 総評: 点数化はしないが、段階評価し、総合的に評価している



養成する人材像・教育課程の特色

物理学の目的は、自然現象を観察・分析して自然界に存在する法則を見つけ出し、自然の仕組みを合理的に理解することです。物理科学科では、力学・電磁気学・熱力学・量子力学などに代表される物理学と、宇宙・物質・生命などに関連する科学とその応用分野を学び、自然現象を幅広い視野から理解する力を養います。その学修を通じて、論理力、分析力および未知の現象を解明する力を身に付け、総合的な視野から知識を活用できる能力と、豊かな人間性、社会性および国際性を兼ね備えた人材を養成することを目指しています。そのため、幅広い学問分野を学ぶとともに、物理学を基礎から専門領域まで段階的に学ぶことができる教育課程を編成し、4年間一貫した少人数教育を行っています。中学・高校「理科」、高校「情報」の教員免許を取得できます。

A 知識・理解

高等学校の教育内容を幅広く学習しており、物理学を学ぶのに十分な基礎学力を有している人

物理科学科で学ぶためには、高等学校までに学習する教科・科目に関する基本的な知識を身に付けておく必要があります。特に専門となる物理学を深く理解するため、その基礎力として高校の理科(物理)の内容を十分に理解していることが必要不可欠です。また、物理学を記述・表現するための基礎として高校の数学を理解しておくこと、社会で活躍するための力を養っていくために外国語をはじめとする他の教科・科目の基礎を身に付けておくことは重要です。広範な科学と応用分野を学び、総合的な視野から知識を活用する能力を身に付けていくため、入学試験に課されない科目であっても幅広く学んでいることを望んでいます。

B 技能

学習や経験を踏まえて、物事や現象を順序立てて説明することができる人

物理学を学び、社会で活かしていくためには様々な分野の研究者や技術者と連携、協働していくことが必要になります。そのための基本的な能力として、実験や計算の結果を整理・考察して相手が理解できるように説明し、議論する力が求められます。またその際、物事を論理的に考える力、調査や実験で得られた情報を処理する力が必要になります。高校の理科や数学の学習を通して論理的に考え、人に分かりやすく説明するよう心がけてください。また、高校の国語や英語の学習だけでなく、科学の本や新聞記事等の文章に触れて読解力と表現力を高めておくことが大切です。

求める人材像 (求める能力)

C 態度・志向性

知的好奇心を持ち、物理学の専門的知識と幅広い教養および国際性を身に付けて、社会に貢献したいと考えている人

物理学は科学技術分野の基礎であり、材料、エネルギー、環境など社会の広範な分野・領域の技術に応用・活用されています。物理科学科では、自然界や社会の様々な諸問題に関心を持ち、物理学を基礎とする科学の力で問題を解決に導く力を養います。そのため、知的好奇心にあふれ、将来物理学の知識や技術を修得して社会に貢献したいと考えている人を求めています。また、国内外の社会の諸問題に取り組むため、幅広い教養と国際性を身に付けたいと考えている人を歓迎します。

D その他の能力・資質

自己研鑽により、英語の資格を取得した人やスポーツ活動・競技会等で顕著な成績をおさめた人

グローバル化が進む社会において、他者と英語によるコミュニケーションをとることも必要になっています。また入学後は英語の書籍や文献を読む機会が多くなり、英語での発表に挑戦することもあります。それゆえ、読む・聞く・話す・書くといった英語の4技能を総合的に活用できることを、高く評価しています。また、学級や学年を離れて様々な人たちと活動を共にする課外活動に積極的に参加し、活躍した人についても、評価しています。

入学者選抜のねらい

物理科学科は、物理学や自然に強い関心を持ち、学びや諸活動に積極的に取り組み続ける意欲あふれる人材を求め、多様な背景をもち、様々な能力を有する人材を国内外から広く受け入れます。

そのために、それまでに培われた基礎学力、活動や経験を通じて身に付けた能力、資質、学ぶ意欲などを、多面的・総合的に評価する多様な入学試験を実施します。

入学試験での評価

入試制度	選考方法	配点	評価項目				合否判定の方法	
			A	B	C	D		
総合型選抜	総合型	提出書類	総評	●	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(物理の評定の平均、課外活動や探究活動の成果等に関する出願要件などあり・専願制・自己推薦) [一次選考]提出書類(志望理由書・自己推薦書・調査書)により総合的に選考する。 [二次選考]プレゼンテーションおよび面接(口頭試問を含む)により総合的に選考する。 面接では、プレゼンテーションの内容や基礎学力を確認するために口頭試問を行う。
		プレゼンテーション	総評	●	●			
		面接	総評	●	●	●	●	
	アスリート特別	提出書類	総評	●	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(競技成績に関する基準あり・全体の学習成績の状況3.0以上・英語、数学、理科を履修し、英語の評定の平均および数学、理科の学習成績の状況が3.5以上・専願制・自己推薦・クラブ部長等推薦) [一次選考]提出書類(調査書・自己推薦書・推薦状・競技歴証明資料)により総合的に選考する。 [二次選考]小論文・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・小論文・評価項目に基づいて行う。
		小論文	総評		●			
		面接	総評		●	●	●	
学校推薦型選抜	A方式	教科・科目	100	●			<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(専願制・学校長推薦) 個別試験(2科目)の得点・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行い、段階評価したうえで点数化する。 	
		面接	20		●	●		●
一般選抜	系統別日程	教科・科目	400	●			<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(3科目)の得点により、選考する。 理科の得点を2倍する。[傾斜配点] 	
	前期日程	教科・科目	300	●			<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(3科目)の得点により、選考する。 2/3は、理科の得点を2倍、英語と数学の得点を0.5倍する。[傾斜配点] 2/4及び2/11は、3科目各100点満点で選考する。 	
	前期日程・共通テスト併用型	教科・科目	400	●			<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(前期日程2科目)と大学入学共通テスト(2科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。 	
		(英語資格)	★	●		●		
	共通テスト利用型Ⅰ期	教科・科目	500	●			<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト(5科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。 	
		(英語資格)	★	●		●		
	共通テスト利用型Ⅱ期	教科・科目	500	●			<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト(4科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。 	
(英語資格)		★	●		●			
後期日程	教科・科目	200	●			<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(2科目)の得点により、選考する。 		
特別選抜	帰国生徒	教科・科目	200	●			<ul style="list-style-type: none"> 日本の国籍を有する者又は日本国の永住許可を得ている者のうち、外国の学校で学んだ者を対象とする。 個別試験(2科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。 	
		面接	総評		●	●		●
	学部留学生(前期日程)	教科・科目	750	●			<ul style="list-style-type: none"> 外国の国籍のみを有し、日本国内外を問わず12年の課程を修了(見込み)の者またはこれに準ずる者を対象とする。ただし、日本の高校を卒業した者は、学校教育法に基づく小学校・中学校・中等教育学校・高等学校の在籍期間が通算3年以内である者。 教科・科目については日本留学試験(3科目)の得点、提出書類については指定する英語外部試験の結果を含み、総合的に選考する。 	
		提出書類	総評	●	●	●		●
	学部留学生(後期日程)	教科・科目	100	●			<ul style="list-style-type: none"> 外国の国籍のみを有し、日本国内外を問わず12年の課程を修了(見込み)の者またはこれに準ずる者を対象とする。ただし、日本の高校を卒業した者は、学校教育法に基づく小学校・中学校・中等教育学校・高等学校の在籍期間が通算3年以内である者。 日本留学試験・個別試験(1科目)の得点・提出書類・面接(作文含む)により総合的に選考する。 面接(作文含む)は、提出書類・評価項目に基づいて行う。また、基礎学力や日本語運用能力を確認するための口頭試問を含む。 	
		面接	総評	●	●	●		●
編・転・学士	教科・共通教育科目	300	●			<ul style="list-style-type: none"> 短期大学卒業(見込み)の者、専修学校の専門課程修了(見込み)の者、他大学に継続して2年以上在学したことがある(見込み)の者、学士の学位を有する(見込み)の者を対象とする。 編・転入は、個別試験(3科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。学士入試は、面接のほかに筆記試験を課すことがある。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。 		
	面接	総評		●	●			

評価項目

- A: 知識・理解 / B: 技能 / C: 態度・志向性 / D: その他の能力・資質
 ●: 重点を置いて評価している / 総評: 点数化はしないが、段階評価し、総合的に評価している



養成する人材像・教育課程の特色

社会や人々の期待にこたえて、様々な課題に積極的に取り組み、化学で社会をデザインできる人を育てることがわれわれの目標です。そのため化学の専門家として活躍できるスペシャリスト教育と社会構造の変化に適応する力を持つジェネラリスト教育の両立を行っています。化学の基礎分野を軸にした最先端の専門知識とともに、能動学習や協調学習を通じて社会で役立つ問題解決能力や表現力を身につけて欲しいと考えています。

A 知識・理解

高等学校の教育内容を幅広く学習しており、化学を学ぶのに十分な基礎学力を有している人

大学の化学を学ぶ際には、高等学校までに学習する教科・科目に関する基本的な知識をもっている必要があります。化学だけでなく、化学現象を説明するために必要な数学や実験結果を定量的に解釈するための簡単な物理学をよく理解しておいてください。大学では化学現象を原子・分子構造に基づいて理解する方法を学ぶので「観察力や洞察力」も必要です。その素養となる国語・社会の基本的な知識を身につけていることが望まれます。また、先端的な化学研究を行うためには、基礎的な英語の素養も必要です。

B 技能

実験の結果を的確に解釈し、知識をもとに物事を論理的に説明することができる人

化学を社会の様々なところで実践的に用いるには、化学の基礎知識を実験や解析に応用し、実験から得られた結果を論理的に考察し、順序立てて説明する力が求められます。国語を中心とした学習で読解力や文章力を高めることに加え、日ごろから科学に関する本や新聞の記事などの文章に触れ、自身の意見を整理したうえで論理的に説明できる力をもっていることが求められます。また、大学では英語で化学に関する情報を収集するために、英語の長文読解力が必要です。

求める人材像 (求める能力)

C 態度・志向性

日常生活や社会で起こる現象を、化学と結びつけて思考できる人

科学技術の発展によって私たちの日常生活は豊かになりました。たとえばスマートフォンのディスプレイに使われる素材や医薬品の生産技術、あるいは自然エネルギー開発や環境保全など、社会で起こる多くの事柄が化学と深くかかわっています。それらに関心をもつことは、大学での化学的知識を深めるためだけでなく、将来的に化学を用いて社会に貢献するときに大いに役立ちます。平易な言葉で化学と実社会を橋渡しできるように、各種メディアで発信される話題に関心をもっていることが望まれます。化学の専門家として社会に貢献したいという意欲をもっていることを期待します。

D その他の能力・資質

自己研鑽により、英語の資格を取得した人やスポーツ活動・社会貢献で顕著な成績を収めた人

現代社会の問題は複雑なものが多く、社会で活躍できる人材になるには、集団の中で個人の役割を理解し、自主的かつ協調性をもって行動することが大事です。そのためには、集団のなかの他者と意見を交換しながら、協力して課題に取り組んだ経験が役に立ちます。学級や学年を離れて様々な人たちと活動を共にする部活動や課外活動に積極的に取り組んでいる人や、英語の読む・書く・話す・聞くという技能をもち意見交換のできる人も評価します。

入学選抜のねらい

化学科は、自然に関心を持ち、学びや諸活動の中で挑戦し続ける意欲あふれる人物や、多様な背景を持ち、さまざまな能力を有する人物を国内外から広く受け入れます。

そのために、これまでに培われた基礎学力、活動や経験を通じて身につけた能力、資質、学ぶ意欲などを、多面的・総合的に評価する多様な入学試験を実施します。

入学試験での評価

入試制度	選考方法	配点	評価項目				合否判定の方法	
			A	B	C	D		
総合型選抜	総合型	提出書類	総評	●	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(化学の評定の平均、課外活動や探究活動の成果等に関する出願要件などあり・専願制・自己推薦) [一次選考]提出書類(志望理由書・自己推薦書・調査書)により総合的に選考する。 [二次選考]セミナー(確認テストを含む)および面接(口頭試問を含む)により総合的に選考する。 面接では、セミナーの振り返りや基礎学力を確認するために口頭試問を行う。
		セミナー	総評	●	●			
		面接	総評	●	●	●	●	
	アスリート特別	提出書類	総評	●	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(競技成績に関する基準あり・全体の学習成績の状況3.0以上・英語、数学、理科を履修し、英語の評定の平均および数学、理科の学習成績の状況が3.5以上・専願制・自己推薦・クラブ部長等推薦) [一次選考]提出書類(調査書・自己推薦書・推薦状・競技歴証明資料)により総合的に選考する。 [二次選考]小論文・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・小論文・評価項目に基づいて行う。
		小論文	総評		●			
		面接	総評		●	●	●	
学校推薦型選抜	A方式	教科・科目	100	●			<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(専願制・学校長推薦) 個別試験(2科目)の得点・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行い、段階評価したうえで点数化する。 	
		面接	20		●	●		●
一般選抜	系統別日程	教科・科目	400	●			<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(3科目)の得点により、選考する。 理科の得点を2倍する。[傾斜配点] 	
	前期日程	教科・科目	300	●			<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(3科目)の得点により、選考する。 2/3は、理科の得点を2倍、英語と数学の得点を0.5倍する。[傾斜配点] 2/4及び2/11は、3科目各100点満点で選考する。 	
	前期日程・共通テスト併用型	教科・科目	400	●			<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(前期日程2科目)と大学入学共通テスト(2科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。 	
		(英語資格)	★	●		●		
	共通テスト利用型Ⅰ期	教科・科目	600	●			<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト(5科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。 	
		(英語資格)	★	●		●		
	共通テスト利用型Ⅱ期	教科・科目	500	●			<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト(4科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。 	
(英語資格)		★	●		●			
後期日程	教科・科目	200	●			<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(2科目)の得点により、選考する。 		
特別選抜	帰国生徒	教科・科目	200	●			<ul style="list-style-type: none"> 日本の国籍を有する者又は日本国の永住許可を得ている者のうち、外国の学校で学んだ者を対象とする。 個別試験(2科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。 	
		面接	総評		●	●		●
	学部留学生(前期日程)	教科・科目	750	●			<ul style="list-style-type: none"> 外国の国籍のみを有し、日本国内外を問わず12年の課程を修了(見込み)の者またはこれに準ずる者を対象とする。ただし、日本の高校を卒業した者は、学校教育法に基づく小学校・中学校・中等教育学校・高等学校の在籍期間が通算3年以内である者。 教科・科目については日本留学試験(3科目)の得点、提出書類については指定する英語外部試験の結果を含み、総合的に選考する。 	
		提出書類	総評	●	●	●		●
	学部留学生(後期日程)	教科・科目	100	●			<ul style="list-style-type: none"> 外国の国籍のみを有し、日本国内外を問わず12年の課程を修了(見込み)の者またはこれに準ずる者を対象とする。ただし、日本の高校を卒業した者は、学校教育法に基づく小学校・中学校・中等教育学校・高等学校の在籍期間が通算3年以内である者。 日本留学試験・個別試験(1科目)の得点・提出書類・面接(作文含む)により総合的に選考する。 面接(作文含む)は、提出書類・評価項目に基づいて行う。また、基礎学力や日本語運用能力を確認するための口頭試問を含む。 	
		面接	総評	●	●	●		●
編・転・学士	教科・共通教育科目	300	●			<ul style="list-style-type: none"> 短期大学卒業(見込み)の者、専修学校の専門課程修了(見込み)の者、他大学に継続して2年以上在学したことがある(見込み)の者、学士の学位を有する(見込み)の者を対象とする。 編・転入時は、個別試験(3科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。学士入試は、面接のほかに筆記試験を課すことがある。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。 		
	面接	総評		●	●		●	

評価項目

A: 知識・理解 / B: 技能 / C: 態度・志向性 / D: その他の能力・資質
 ●: 重点を置いて評価している / 総評: 点数化はしないが、段階評価し、総合的に評価している



養成する人材像・教育課程の特色

地球圏科学科は、大気圏、水圏、岩石圏、および生物圏からなる「地球圏」で起きている様々な現象について、科学的解析能力を養い、その成り立ちから未来展望に至る幅広い視野と知識を習得し、健全な未来社会の発展に貢献できる人材の育成をめざしています。その実現のためカリキュラムツリーに示すように、1年次では「地球圏とは何か」を学ぶ導入講義科目と、その内容に密接に結びついたアクティブラーニングを中心とした演習科目を根幹とし、自然科学の基礎となる数学、物理学、化学、生物学、地学の講義科目で知識の幅を広げます。2, 3年次では引き続き自然科学の基礎となる講義科目で知識の幅を広げると共に、地球科学もしくは生物科学のいずれかを専門として選び、必修実験科目や特別研究、専門講義科目を通じて、高度で専門的な知識を修得します。4年次には大学での学びの集大成として、卒業研究で探求力、論理力、分析力、創造力、表現力、コミュニケーション能力を磨き、未知の現象を解明する力を結実させます。さらに語学や共通教育科目を通じて、グローバルに活躍できる人材の養成を目指しています。

A 知識・理解

高等学校の教育内容を幅広く学び、大学の学びに取り組める基礎学力を有する人

地球圏を構成する大気圏、水圏、岩石圏、生物圏で起きている身近な現象に興味がある人で、大学でさらに深く幅広く学ぶ意欲のある人が望まれます。そのために高等学校では理科に限らず幅広く学び、興味の裾野を広げておくことがよいと考えています。大学では自然科学の基礎を幅広く学びます。そのため理科と数学について基礎学力を有することが必要です。なお、高校で学んでいない理科の科目については、大学の基礎科目で幅広く学ぶことができます。地球の全域が学びの対象ですから、基礎的な英語力も必要です。

B 技能

理科の実験が好きで、観察した現象を科学的に順序だてて説明することができる人

地球圏で起きている多様な現象を観察し、実験・解析し、結果をわかりやすく説明する能力が、よりよい社会を実現するために必要とされています。そのため、身近な自然現象をじっくり観察したり、条件を変えるとどのような変化が起こるかを試したりすることが好きな人が望ましく、なぜそうなるのかを常に考え、現象と結果を明確に説明する能力を磨く必要があります。そのため高等学校の教育を通じて、言葉による表現力を磨くことが重要です。日ごろから新聞の論説記事などを幅広く読み、自分の意見を整理し、それを論理的に主張できる力をつけるよう心がけてください。

求める人材像 (求める能力)

C 態度・志向性

自然現象を観察し、常になぜだろうと原因追究し、得られた専門知識をよりよい未来社会実現のために活用したいと考えている人

最近の地球表層の自然現象は、時には甚大な被害をもたらし、将来の環境変化に大きな影響をもたらす可能性も指摘されています。生物の行動や反応など時間をかけて観察することが必要な現象や、過去にさかのぼって変化の軌跡をたどる必要がある現象など、粘り強く自然を観察し実験解析する態度が求められます。さらに観察や実験の過程では常に原因を追究する態度が求められます。また、大学の学びで得た専門知識を社会のために積極的に活用したいと考えている人が望ましいと考えています。理科を幅広く学べることから、中学や高校の理科教員や博物館学芸員を目指す人も適しています。

D その他の能力・資質

実験や観察を続ける忍耐力があり、地球的視野で自然現象を調べるために語学に興味がある人

地球圏で起こる現象については、野外で観察することも、過酷な環境で実験を行うこともあります。時間がかかる実験や観察には忍耐力と体力が必要です。高等学校の課外活動やスポーツ活動で顕著な成果を上げた人もその意味で評価します。また、地球圏の現象に国境はありません。地球規模の自然現象を国際協力で調査し、成果を公表することは当たり前になっています。大学では英語を中心に、海外での研究成果や観察された現象を文献で読解する語学力も必要です。課外活動で積極的にコミュニケーション能力を磨いた人や、語学を学ぶことに興味がある人も評価しています。

入学者選抜のねらい

地球圏科学科は、大気圏、水圏、岩石圏、生物圏でおこるさまざまな自然現象に興味を持ち、学びや諸活動を通じて常になぜだろうと考え、疑問に挑戦し続ける意欲あふれる人材や、表現力を含む多様な能力を有する人材を、国内外から幅広く受け入れます。

そのために、これまでに培われた基礎学力、諸活動や経験を通じて身に付けた能力、資質、学ぶ意欲などを、多面的・総合的に評価する多様な入学試験を実施します。

入学試験での評価

入試制度	選考方法	配点	評価項目				合否判定の方法	
			A	B	C	D		
総合型選抜	総合型	提出書類	総評	●	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(理科の評定の平均・学術活動、技能や資格、課外活動の成果等に関する出願要件などあり・専願制・自己推薦) [一次選考]課題レポートおよび提出書類(志望理由書・自己推薦書・調査書)により総合的に選考する。 [二次選考]課題レポートに関するプレゼンテーションおよび面接(口頭試問を含む)により総合的に選考する。 面接では、課題レポート・プレゼンテーションの内容や基礎学力を確認するために口頭試問を行う。
		プレゼンテーション	総評	●	●			
		面接	総評	●	●	●	●	
	アスリート特別	提出書類	総評	●	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(競技成績に関する基準あり・全体の学習成績の状況3.0以上・英語、数学、理科を履修し、英語の評定の平均および数学、理科の学習成績の状況が3.5以上・専願制・自己推薦・クラブ部長等推薦) [一次選考]提出書類(調査書・自己推薦書・推薦状・競技歴証明資料)により総合的に選考する。 [二次選考]小論文・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・小論文・評価項目に基づいて行う。
		小論文	総評		●			
		面接	総評		●	●	●	
学校推薦型選抜	A方式	教科・科目	100	●			<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(専願制・学校長推薦) 個別試験(2科目)の得点・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行い、段階評価したうえで点数化する。 	
		面接	20		●	●		●
一般選抜	系統別日程	教科・科目	400	●			<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(3科目)の得点により、選考する。 理科の得点を2倍する。[傾斜配点] 	
	前期日程	教科・科目	300	●			<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(3科目)の得点により、選考する。 	
	前期日程・共通テスト併用型	教科・科目	400	●			<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(前期日程2科目)と大学入学共通テスト(2科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。 	
		(英語資格)	★	●		●		
	共通テスト利用型Ⅰ期	教科・科目	650	●			<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト(7科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。 	
		(英語資格)	★	●		●		
	共通テスト利用型Ⅱ期	教科・科目	500	●			<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト(4科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。 	
(英語資格)		★	●		●			
後期日程	教科・科目	200	●			<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(2科目)の得点により、選考する。 		
特別選抜	帰国生徒	教科・科目	200	●			<ul style="list-style-type: none"> 日本の国籍を有する者又は日本国の永住許可を得ている者のうち、外国の学校で学んだ者を対象とする。 個別試験(2科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。 	
		面接	総評		●	●		●
	学部留学生(前期日程)	教科・科目	750	●			<ul style="list-style-type: none"> 外国の国籍のみを有し、日本国内外を問わず12年の課程を修了(見込み)の者またはこれに準ずる者を対象とする。ただし、日本の高校を卒業した者は、学校教育法に基づく小学校・中学校・中等教育学校・高等学校の在籍期間が通算3年以内である者。 教科・科目については日本留学試験(3科目)の得点、提出書類については指定する英語外部試験の結果を含み、総合的に選考する。 	
		提出書類	総評	●	●	●		●
	学部留学生(後期日程)	教科・科目	100	●			<ul style="list-style-type: none"> 外国の国籍のみを有し、日本国内外を問わず12年の課程を修了(見込み)の者またはこれに準ずる者を対象とする。ただし、日本の高校を卒業した者は、学校教育法に基づく小学校・中学校・中等教育学校・高等学校の在籍期間が通算3年以内である者。 日本留学試験・個別試験(1科目)の得点・提出書類・面接(作文含む)により総合的に選考する。 面接(作文含む)は、提出書類・評価項目に基づいて行う。また、基礎学力や日本語運用能力を確認するための口頭試問を含む。 	
		面接	総評	●	●	●		●
編・転・学士	教科・共通教育科目	300	●			<ul style="list-style-type: none"> 短期大学卒業(見込み)の者、専修学校の専門課程修了(見込み)の者、他大学に継続して2年以上在学したことがある(見込み)の者、学士の学位を有する(見込み)の者を対象とする。 編・転入試は、個別試験(3科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。学士入試は、面接のほかに筆記試験を課すことがある。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。 		
	面接	総評		●	●		●	

評価項目

A: 知識・理解 / B: 技能 / C: 態度・志向性 / D: その他の能力・資質
 ●: 重点を置いて評価している / 総評: 点数化はしないが、段階評価し、総合的に評価している



養成する人材像・教育課程の特色

機械工学科は、幅広い教養と高度な専門知識を備え、ものづくり(機械の創造)を通して実践的な応用力と豊かな創造力を発揮して、人類の幸福と社会の福祉に貢献できる技術者を養成することを教育研究の理念としています。そしてこの理念に基づき、確実な観察力を備え、幅広い知識により問題を的確に分析し、解決に向かって果敢に行動できる技術者を育てることを人材育成の目的としています。そのために一年次には、専門知識を学ぶために必要な基礎科目、さらに機械工学のセンスを養うための専門科目を学びます。専門科目は『材料力学』『流体力学』『熱工学』『機械設計・工作』『機械力学・制御』の主要五分野に分類され、学年が進むにつれて基礎から応用へと有機的・体系的に学んでいきます。

A 知識・理解

高等学校の教育内容を幅広く学び、十分な基礎学力を有している人

機械工学科で学ぶ際に必要となる知識として、高等学校までに学習する教科・科目に関する基本的な知識が挙げられます。特に、工学全般を学ぶ上でその言語的役割を担うとも言える数学や「運動する機械や物体を設計するための基礎」となる物理(特に力学)で学ぶ内容は入学するまでに理解しておいてください。また、それらの運動に伴う様々な現象を正しく認識するためには観察力や洞察力も必要です。その土台となる実験や観察の要素が多い教科・科目(理科)にも積極的に取り組んでください。なお、様々な分野の知識についてバランスの取れた専門家となるために、入学試験に課されない科目であっても幅広く学んでいることが望まれます。

B 技能

学習や課外活動から得た経験を踏まえて、自らの視点で物事を順序立てて説明することができる人

機械工学においては、設計、生産や管理などさまざまな分野のエンジニアとの協働によってものづくりが実現されていきます。その際、確かな根拠に基づいて自分の考えをわかりやすく論理的に説明することや多様な意見を取りまとめる力が求められます。それゆえ、母語としての日本語の読解力と表現力を高めることや言葉に対する感覚を磨くことが必要です。高等学校での国語を中心とする学習はもちろん、日頃から新聞の社説や論説など身近なところにある論理的な文章を読み、自身の意見を整理した上でそれを論理的に主張できるよう心がけてください。また、友人や先生、家族との対話を大切にしてください。

求める人材像 (求める能力)

C 態度・志向性

(C-1) 機械工学に関する高度な専門知識と倫理観を身に付けた機械技術者になることへの夢を持ち、専門知識を社会のために積極的に活用したいと考えている人

科学技術の飛躍的な発展に伴い、私たちの生活は驚くほど便利で豊かなものになっています。しかしその反面、科学技術の使い方を誤ると人々の生命や環境さえ破壊してしまう危険性を持っています。このことは機械技術者にも強くいえることです。それゆえ機械工学科では、専門知識にとどまらず倫理観や社会へ貢献しようという強い使命感を持った人を歓迎します。このような倫理観や使命感は、将来のキャリアアップのために欠かせない自己研鑽の基盤となります。

(C-2) 世の中にないものを作り出すことに興味がある人

機械工学では人々の生活を豊かにするものを創造していくことも使命としています。今現在ないものを創造するためには、現在あるものに満足できない、人と異なることをやってみようといった気持ちが大切です。さらに、未知の問題について積極的に粘り強く取り組めることが必要になります。

D その他の能力・資質

自己研鑽により、英語の資格を取得した人やスポーツ活動・競技会等で顕著な成績をおさめた人

機械技術者を取り巻く環境はグローバル化が進展しています。それゆえ、他者と英語によるコミュニケーションをとることも当たり前となっています。さらに、入学後は英語を活用して文献を読解することなども要求されます。それゆえ、読む・聞く・話す・書くといった英語の4技能を総合的に活用できることを高く評価しています。他方で、ものづくりは様々な人との協働によって実現されます。それゆえ、学級や学年が離れた様々な人たちと活動を共にする課外活動に積極的に参加し活躍した人についても評価しています。

入学者選抜のねらい

機械工学科は、学びや諸活動の中で挑戦し続ける意欲あふれる人材や、多様な背景を持ち、さまざまな能力を有する人材を国内外から広く受け入れます。そのために、これまで培われた基礎学力、活動や経験を通じて身に付けた能力、資質、学ぶ意欲などを、多面的・総合的に評価する多様な入学試験を実施します。

入学試験での評価

入試制度	選考方法	配点	評価項目					合否判定の方法	
			A	B	C-1	C-2	D		
総合型選抜	総合型	提出書類	総評	●	●	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(全体または教科の学習成績の状況・科目の評定・自己研鑽や資格取得、各種課外活動等の成果に関する出願要件などあり・専願制・自己推薦) [一次選考]提出書類(志望理由書・自己推薦書・調査書)により総合的に選考する。 [二次選考]小論文・面接(小論文に関する口頭試問含む)により総合的に選考する。
		小論文	総評	●	●				
		面接	総評	●	●	●	●	●	
	アスリート特別	提出書類	総評	●	●	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(競技成績に関する基準あり・全体の学習成績の状況3.0以上・数学、理科の履修要件あり・専願制・自己推薦・クラブ部長等推薦) [一次選考]提出書類(調査書・自己推薦書・推薦状・競技歴証明資料)により総合的に選考する。 [二次選考]小論文・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・小論文・評価項目に基づいて行う。また、基礎学力を確認するための口頭試問を含む。
		小論文	総評		●				
		面接	総評	●	●	●	●	●	
学校推薦型選抜	A方式	教科・科目	100	●				<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(専願制・学校長推薦) 個別試験(2科目)の得点・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行い、段階評価したうえ点数化する。また、基礎学力を確認するための口頭試問を含む。 	
		面接	20	●	●	●	●		●
一般選抜	系統別日程	教科・科目	400	●				<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(3科目)の得点により、選考する。 英語・数学の得点を1.5倍する。[傾斜配点] 	
	前期日程	教科・科目	300	●				<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(3科目)の得点により、選考する。 	
	前期日程・共通テスト併用型	教科・科目	400	●				<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(前期日程2科目)と大学入学共通テスト(2科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。 	
		(英語資格)	★	●			●		
	共通テスト利用型Ⅰ期	教科・科目	1000	●				<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト(8科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。 	
		(英語資格)	★	●			●		
	共通テスト利用型Ⅱ期	教科・科目	500	●				<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト(4科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。 	
(英語資格)		★	●			●			
後期日程	教科・科目	200	●				<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(2科目)の得点により、選考する。 		
特別選抜	帰国生徒	教科・科目	200	●				<ul style="list-style-type: none"> 日本の国籍を有する者又は日本国の永住許可を得ている者のうち、外国の学校で学んだ者を対象とする。 個別試験(2科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。また、基礎学力を確認するための口頭試問を含む。 	
		面接	総評	●	●	●	●		●
	社会人	教科・科目	100	●	●			<ul style="list-style-type: none"> 社会人としての活動や経験を有した者を対象とする。 個別試験(2科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。 小論文は、自己の意見を明確に文章にて表現できているかを評価する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。また、基礎学力を確認するための口頭試問を含む。 	
		小論文	100		●				
		面接	総評	●	●	●	●		●
	学部留学生(前期日程)	教科・科目	750	●				<ul style="list-style-type: none"> 外国の国籍のみを有し、日本国内外を問わず12年の課程を修了(見込み)の者またはこれに準ずる者を対象とする。ただし、日本の高校を卒業した者は、学校教育法に基づく小学校・中学校・中等教育学校・高等学校の在籍期間が通算3年以内である者。 教科・科目については日本留学試験(3科目)の得点、提出書類については指定する英語外部試験の結果を含み、総合的に選考する。 	
		提出書類	総評	●	●	●	●		●
	学部留学生(後期日程)	教科・科目	100	●				<ul style="list-style-type: none"> 外国の国籍のみを有し、日本国内外を問わず12年の課程を修了(見込み)の者またはこれに準ずる者を対象とする。ただし、日本の高校を卒業した者は、学校教育法に基づく小学校・中学校・中等教育学校・高等学校の在籍期間が通算3年以内である者。 日本留学試験・個別試験(1科目)の得点・提出書類・面接(作文含む)により総合的に選考する。 面接(作文含む)は、提出書類・評価項目に基づいて行う。また、基礎学力や日本語運用能力を確認するための口頭試問を含む。 	
		面接	総評	●	●	●	●		●
	編・転・学士	教科・共通教育科目	300	●				<ul style="list-style-type: none"> 短期大学卒業(見込み)の者、専修学校の専門課程修了(見込み)の者、他大学に継続して2年以上在学したことがある(見込み)の者、学士の学位を有する(見込み)の者を対象とする。 編・転入試験は、個別試験(3科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。学士入試は、面接のほかに筆記試験を課すことがある。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。なお、面接内容には、専門素養を含む。 	
面接		総評	●	●	●	●	●		

評価項目 A: 知識・理解 / B: 技能 / C: 態度・志向性 / D: その他の能力・資質
 ●: 重点を置いて評価している / 総評: 点数化はしないが、段階評価し、総合的に評価している



養成する人材像・教育課程の特色

人類社会は自然との調和を保ちつつ発展してゆかねばなりません。電気工学科は、電気工学を通じてこれに貢献できる人材、すなわち、電気系の広範囲にわたる知識に加えて高い応用力と実務能力を身につけ、これらの力をふるう者としての社会的責任を自覚した電気技術者を養成することを目標としています。この目標を達成するため、教育課程は、まず、人文社会科学といった一般教養を高めるとともに、数学、物理、化学などの工学系の基礎を学ぶことから始め、それから徐々にエネルギー・電気材料・情報通信・自動制御など電気工学に係る専門知識の習得へと発展していきます。最後に、卒業研究を通してこれらの知識と技術を磨き上げます。時代の変化に合わせて教育内容を見直していますので、常に最新の知識を学ぶことができます。

A 知識・理解

電気工学を学ぶに十分な基礎学力を高等学校において身に付けた人

電気工学科で学ぶためには、高等学校において十分な基礎学力を身につけておかななくてはなりません。特に、電気工学は、その基盤を物理学と数学に置いていますから、この2つの学問分野で学ぶ内容を理解しておくことは必須となります。また、入学後は英語文献を読解することが要求されることもあります。さまざまな学問分野は互いにつながって全体として大きな知の体系を作っています。人類社会と自然との調和を尊重できる幅広い視野と安定した判断力を持った電気技術者となるために、入学試験に課されない分野であっても幅広く学んでいることを望みます。

B 技能

言葉を正確に理解し、分かりやすく伝えることができる人

電気技術者として活動するに当たって、他者の意図をその言葉から正確に理解する能力、自分の意思を言葉によって他者に分かりやすく伝える能力は必須です。電気工学の専門家ではない人々に電気工学について理解してもらうように努めることは電気技術者の重要な使命の一つです。また、多数の電気技術者や別分野の技術者が関わる事業に参加して、そこで電気技術者としての能力を十全に発揮するためには、電気工学の知識を備えているだけでなく、他者を論理的に説得する能力や多様な意見をまとめていく技術が求められます。学業の場のみならず日常生活においても、言葉に対する感覚を鋭くし、正確に理解する、分かりやすく伝える能力が必要です。

求める人材像 (求める能力)

C 態度・志向性

日々能力を高めていくための情熱と積極性を持つ人

19世紀以降の電気工学に代表される工学技術の飛躍的な進歩は、人類社会に豊かさをもたらす力となりましたが、同時にこの力は自然そのものを破壊してしまいかねないほど大きなものとなりました。現代の技術者には、力をふるう者としての社会的責任を自覚し、人類社会を自然との調和を尊重しつつ発展させてゆくことへの使命感と、それを可能にする創造性、課題探究心が必要です。技術者は日々自己研鑽を積み、能力を高めていかななくてはなりません。情熱と積極性がこれを支えるでしょう。

D その他の能力・資質

英語に関する資格を取得した人や競技会等で顕著な成績をおさめた人

グローバル化が進展している工学の世界においては、技術文書が英語によることはままあることですし、他者と英語でコミュニケーションを行うことも当然のこととなっています。自己研鑽によって英語力を向上させ、資格という形で客観的にこれを証明したことは高い評価の対象となります。また他方で、技術者として社会で活躍するにあたっては、様々な人と関係を結び、協力していかななくてはなりません。したがって、学校内での人間関係を離れて様々な人々と活動を共にする課外活動に積極的に参加し、活躍した人についても評価しています。

入学者選抜のねらい

電気工学科は、電気工学に興味があり、積極的に専門知識を身につけて人類社会の発展に貢献したいという意欲を持つ人材を国内外から広く受け入れます。そのために、学ぶための基礎学力、グローバル化に対応できる語学力と言語を理解し伝える力、経験から得られた能力や学びに対する情熱などを、多面的・総合的に評価する多様な入学試験を実施します。

入学試験での評価

入試制度	選考方法	配点	評価項目				合否判定の方法	
			A	B	C	D		
総合型選抜	総合型	提出書類	総評	●	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(全体または教科の学習成績の状況・科目の評定・自己研鑽や資格取得、各種課外活動等の成果に関する出願要件などあり・専願制・自己推薦) [一次選考]提出書類(志望理由書・自己推薦書・調査書)により総合的に選考する。 [二次選考]小論文・面接(小論文に関する口頭試問含む)により総合的に選考する。
		小論文	総評	●	●			
		面接	総評	●	●	●	●	
	アスリート特別	提出書類	総評	●	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(競技成績に関する基準あり・全体の学習成績の状況3.0以上・数学、理科の履修要件あり・専願制・自己推薦・クラブ部長等推薦) [一次選考]提出書類(調査書・自己推薦書・推薦状・競技歴証明資料)により総合的に選考する。 [二次選考]小論文・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・小論文・評価項目に基づいて行う。
		小論文	総評		●			
		面接	総評		●	●	●	
学校推薦型選抜	A方式	教科・科目	100	●			<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(専願制・学校長推薦) 個別試験(2科目)の得点・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行い、段階評価したうえで点数化する。 	
		面接	20		●	●		●
一般選抜	系統別日程	教科・科目	400	●			<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(3科目)の得点により、選考する。 英語・数学の得点を1.5倍する。[傾斜配点] 	
	前期日程	教科・科目	300	●			<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(3科目)の得点により、選考する。 	
	前期日程・共通テスト併用型	教科・科目	400	●			<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(前期日程2科目)と大学入学共通テスト(2科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。 	
		(英語資格)	★	●		●		
	共通テスト利用型Ⅰ期	教科・科目	1000	●			<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト(8科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。 	
		(英語資格)	★	●		●		
	共通テスト利用型Ⅱ期	教科・科目	500	●			<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト(4科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。 	
(英語資格)		★	●		●			
後期日程	教科・科目	200	●			<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(2科目)の得点により、選考する。 		
特別選抜	帰国生徒	教科・科目	200	●			<ul style="list-style-type: none"> 日本の国籍を有する者又は日本国の永住許可を得ている者のうち、外国の学校で学んだ者を対象とする。 個別試験(2科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。 	
		面接	総評		●	●		
	学部留学生(前期日程)	教科・科目	750	●			<ul style="list-style-type: none"> 外国の国籍のみを有し、日本国内外を問わず12年の課程を修了(見込み)の者またはこれに準ずる者を対象とする。ただし、日本の高校を卒業した者は、学校教育法に基づく小学校・中学校・中等教育学校・高等学校の在籍期間が通算3年以内である者。 教科・科目については日本留学試験(3科目)の得点、提出書類については指定する英語外部試験の結果を含み、総合的に選考する。 	
		提出書類	総評	●	●	●		●
	学部留学生(後期日程)	教科・科目	100	●			<ul style="list-style-type: none"> 外国の国籍のみを有し、日本国内外を問わず12年の課程を修了(見込み)の者またはこれに準ずる者を対象とする。ただし、日本の高校を卒業した者は、学校教育法に基づく小学校・中学校・中等教育学校・高等学校の在籍期間が通算3年以内である者。 日本留学試験・個別試験(1科目)の得点・提出書類・面接(作文含む)により総合的に選考する。 面接(作文含む)は、提出書類・評価項目に基づいて行う。また、基礎学力や日本語運用能力を確認するための口頭試問を含む。 	
		面接	総評	●	●	●		
編・転・学士	教科・共通教育科目	300	●			<ul style="list-style-type: none"> 短期大学卒業(見込み)の者、専修学校の専門課程修了(見込み)の者、他大学に継続して2年以上在学したことがある(見込み)の者、学士の学位を有する(見込み)の者を対象とする。 編・転入試は、個別試験(3科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。 学士入試は、面接のほかに筆記試験を課すことがある。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。 		
	面接	総評		●	●			

評価項目

A: 知識・理解 / B: 技能 / C: 態度・志向性 / D: その他の能力・資質

●: 重点を置いて評価している / 総評: 点数化はしないが、段階評価し、総合的に評価している



養成する人材像・教育課程の特色

電子情報通信技術者の使命は、社会や人々の要求にこたえる電子情報システムの開発・構築です。この使命を果たせる技術者を育てることがわれわれの目標です。現在の電子情報システムは、電子装置からソフトウェアまで多岐にわたる要素技術で構成されており、すべての専門知識を大学4年間で修得することは困難です。そこで、電子情報システムの中核となる基礎知識や専門知識を学生の適性に合わせて選択的に学べるように、電子情報工学科では三つのコースを用意しています。電子通信コースでは、電子装置や情報通信技術の専門知識を身に付けます。情報コースでは、情報工学の専門知識を身に付けます。情報システムコースでは、情報工学の専門知識に加えて、システム開発技術についても学びます。どのコースも最新の知識を取り入れて、技術の進歩に対応した教育を目指しています。

A

知識・理解

高等学校の教育内容を幅広く学修し、工学を学ぶために必要な基礎学力を有している人

電子情報工学科で専門知識を学ぶために必要な知識としては、高等学校までに学習する教科・科目に関する基本的な知識が挙げられます。特に、工学全般を学ぶときに、形式的記述の道具として用いられる数学や回路設計などで必要となる物理で学ぶ内容は入学するまでに理解しておいてください。また、この分野に限らず世界ではグローバル化が進んでおり、多くの技術文書は英語で書かれていますから、英文を理解する能力も必要になります。また、顧客が求める電子情報システムを開発するためには、顧客の要望を正しく理解して、作ろうとしているシステムの要件を正確にまとめる日本語の能力も必要になります。理科系の科目だけでなく、英語や国語などの基礎学力も重要です。

B

技能

学習や課外活動から得た経験を踏まえて、自らの視点で物事を順序立てて説明することができる人

現在の複雑化して巨大になった電子情報システムの開発は、チームでの協働作業で行われます。また、その過程では顧客や他のチームのエンジニアと協議する場面も多く存在します。その際、確かな根拠に基づいて自分の考えをわかりやすく論理的に説明することや多様な意見を取りまとめる力が求められます。それゆえ、母語としての日本語の読解力と表現力を高めることや言葉に対する感覚を磨くことが必要です。高等学校での国語を中心とする学習はもちろん、日頃から、新聞の社説や論説など身近なところにある論理的な文章を読み、自分の意見を整理したうえで、それを論理的に主張できるような人を歓迎します。

求める人材像
(求める能力)

C

態度・志向性

電子情報システムに関する高度な専門知識と倫理観を身に付けた情報通信技術者になることを希望し、自主的・能動的に学習をする態度を身に付けている人

社会や組織の機能を情報化することにより、私たちの生活は驚くほど便利で、豊かなものになっていますが、それと同時に情報の漏洩や流出といった大きな危険性も持っています。そのため電子情報システムの構築に携わる技術者にも強い倫理観が求められます。電子情報工学科では専門知識にとどまらず、倫理観や社会へ貢献しようという強い使命感を持った人を歓迎します。また、この分野の進歩は現在でも速いスピードで続いており、新しい技術やツールが次々に現れています。新しい技術を的確に修得して活用するためには、受け身ではなく自主的・能動的に学習をし続ける態度が重要になります。

D

その他の能力・資質

自己研鑽により、英語の資格を取得した人やスポーツ活動・競技会等で顕著な成績をおさめた人

工業技術に関する世界ではグローバル化が急速に進展しています。その環境では、他者と英語によるコミュニケーションをとることも当たり前となっています。さらに、入学後は英語を活用して文献を読解することなども要求されます。そのため、読む・聞く・話す・書くといった英語の4技能を総合的に活用できることを、高く評価しています。また、電子情報システムの構築は、文化や価値観が異なる多様な人たちとの関わりの中で進められます。そのため、学級や学年を離れて様々な人たちと活動を共にする課外活動に積極的に参加し、活躍した人についても、評価しています。

入学者選抜のねらい

電子情報工学科は、学びや諸活動の中で挑戦し続ける意欲あふれる人材や、多様な背景を持ち、さまざまな能力を有する人材を国内外から広く受け入れます。そのために、これまでに培われた基礎学力、活動や経験を通じて身に付けた能力、資質、学ぶ意欲などを、多面的・総合的に評価する多様な入学試験を実施します。

入学試験での評価

入試制度	選考方法	配点	評価項目				合否判定の方法	
			A	B	C	D		
総合型選抜	総合型	提出書類	総評	●	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(全体または教科の学習成績の状況・科目の評定・自己研鑽や資格取得、各種課外活動等の成果に関する出願要件などあり・専願制・自己推薦) [一次選考]提出書類(志望理由書・自己推薦書・調査書)により総合的に選考する。 [二次選考]小論文・面接(小論文に関する口頭試問含む)により総合的に選考する。
		小論文	総評	●	●			
		面接	総評	●	●	●	●	
	アスリート特別	提出書類	総評	●	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(競技成績に関する基準あり・全体の学習成績の状況3.0以上・数学、理科の履修要件あり・専願制・自己推薦・クラブ部長等推薦) [一次選考]提出書類(調査書・自己推薦書・推薦状・競技歴証明資料)により総合的に選考する。 [二次選考]小論文・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・小論文・評価項目に基づいて行う。
		小論文	総評		●			
		面接	総評		●	●	●	
学校推薦型選抜	A方式	教科・科目	100	●			<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(専願制・学校長推薦) 個別試験(2科目)の得点・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行い、段階評価したうえで点数化する。 	
		面接	20		●	●		●
一般選抜	系統別日程	教科・科目	400	●			<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(3科目)の得点により、選考する。 英語・数学の得点を1.5倍する。[傾斜配点] 	
	前期日程	教科・科目	300	●			<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(3科目)の得点により、選考する。 	
	前期日程・共通テスト併用型	教科・科目	400	●			<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(前期日程2科目)と大学入学共通テスト(2科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。 	
		(英語資格)	★	●		●		
	共通テスト利用型Ⅰ期	教科・科目	1000	●			<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト(8科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。 	
		(英語資格)	★	●		●		
	共通テスト利用型Ⅱ期	教科・科目	500	●			<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト(4科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。 	
(英語資格)		★	●		●			
後期日程	教科・科目	200	●			<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(2科目)の得点により、選考する。 		
特別選抜	帰国生徒	教科・科目	200	●			<ul style="list-style-type: none"> 日本の国籍を有する者又は日本国の永住許可を得ている者のうち、外国の学校で学んだ者を対象とする。 個別試験(2科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。 	
		面接	総評		●	●		●
	学部留学生(前期日程)	教科・科目	750	●			<ul style="list-style-type: none"> 外国の国籍のみを有し、日本国内外を問わず12年の課程を修了(見込み)の者またはこれに準ずる者を対象とする。ただし、日本の高校を卒業した者は、学校教育法に基づく小学校・中学校・中等教育学校・高等学校の在籍期間が通算3年以内である者。 教科・科目については日本留学試験(3科目)の得点、提出書類については指定する英語外部試験の結果を含み、総合的に選考する。 	
		提出書類	総評	●	●	●		●
	学部留学生(後期日程)	教科・科目	100	●			<ul style="list-style-type: none"> 外国の国籍のみを有し、日本国内外を問わず12年の課程を修了(見込み)の者またはこれに準ずる者を対象とする。ただし、日本の高校を卒業した者は、学校教育法に基づく小学校・中学校・中等教育学校・高等学校の在籍期間が通算3年以内である者。 日本留学試験・個別試験(1科目)の得点・提出書類・面接(作文含む)により総合的に選考する。 面接(作文含む)は、提出書類・評価項目に基づいて行う。また、基礎学力や日本語運用能力を確認するための口頭試問を含む。 	
		面接	総評	●	●	●		
編・転・学士	教科・共通教育科目	300	●			<ul style="list-style-type: none"> 短期大学卒業(見込み)の者、専修学校の専門課程修了(見込み)の者、他大学に継続して2年以上在学したことがある(見込み)の者、学士の学位を有する(見込み)の者を対象とする。 編・転入試は、個別試験(3科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。 学士入試は、面接のほかに筆記試験を課すことがある。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。 		
	面接	総評		●	●		●	

評価項目 A: 知識・理解 / B: 技能 / C: 態度・志向性 / D: その他の能力・資質
 ●: 重点を置いて評価している / 総評: 点数化はしないが、段階評価し、総合的に評価している



養成する人材像・教育課程の特色

化学システム工学科は、国内外での化学技術・環境技術に関連する広い分野で活躍できる柔軟な思考力と総合力を兼ね備えた化学技術者を養成することを目標とします。そのため、化学工学、応用化学および生物工学に関する基礎学力や高度な専門能力が身に付くよう、学生の興味や関心に合わせ、2年次より、化学工業で使用する機器・装置に関する基本的な原理や技術を修得する化学工学コース、分子や結晶などの微視的な視点に基づき無機・有機・高分子などの物質・材料に関する基礎や技術を修得する応用化学コース、バイオテクノロジーやライフサイエンスに基づき生物の機能を食品・医療・環境などの分野に応用する技術を修得する生物工学コースを用意しています。いずれのコースも最新の研究成果や実践的な内容を反映させ、情報技術や社会の変化に対応した教育を目指しています。

A 知識・理解

高等学校の教育内容を幅広く学修し、工学を学ぶに十分な基礎学力を有している人

化学システム工学科で学ぶ際に必要となる知識として、高等学校までに学習する教科・科目に関する基本的な知識が挙げられます。化学の知識・理解はもちろんのこと、工学全般を学ぶ上で言語的役割を担う数学(指数関数や対数関数およびその微積分まで)や、化学物質の加熱や加圧などの操作やエネルギーの理解に必要な物理の基礎知識(特に力学・熱)は入学するまでにしっかり学習しておいて下さい。また、化学は物理や生物のどの分野とも関連しますので、理科の科目は積極的に取り組んで下さい。なお、バランスの取れた専門家となるために、入試科目に課されない科目であっても幅広く学んでいることを望んでいます。

B 技能

学習や課外活動から得た経験を踏まえて、自らの視点で物事を順序立てて説明することができる人

化学技術者は、様々な分野の研究者やエンジニアと協働して新規化学プロセスの開発やプラント建設に携わります。その際、明確な根拠に基づいて自分の考えを分かりやすく論理的に説明する能力、多様な意見を取りまとめる力が求められます。そのためには、まず日本語の読解力と表現力を高めること、言葉に対する感覚を磨くことが必要です。高等学校での国語を中心とする学習はもちろん、日頃から、新聞や書籍など身近なところにある論理的な文章を読み、自身の意見を整理したうえで、それを論理的に主張できるよう、心がけてください。また、自分自身の考えを伝えるための対話能力も必要になります。

求める人材像 (求める能力)

C 態度・志向性

化学・生物や化学工学・生物工学に関する専門知識と倫理観を身に付けた化学技術者や環境技術者を旨とする人

現在、多くの化学物質・化学材料により、私たちの生活は驚くほど便利で豊かなものになっています。その反面、化学物質の扱い方や化学技術の使い方を誤ると人々の生命や環境さえ破壊する危険性を持っています。従って、化学技術者は安全に対する強い意識と責任感、倫理観を持つ必要があります。このため、化学システム工学科では、専門知識にとどまらず、安全に対する意識や倫理観を持ち、化学技術により積極的に社会へ貢献しようという強い志を持った人を歓迎します。

D その他の能力・資質

英語の資格を取得した人、課外活動(体育・文化・ボランティア)で顕著な成果を収めた人

化学技術者の活躍の場はグローバルです。それゆえ、他者と英語によるコミュニケーションを取ることは当たり前になっています。さらに、入学後は専門的な英語文献の読解も要求されます。そのため、英語の4技能(読む・書く・聞く・話す)を総合的に活用できる人を高く評価しています。また、一つのこと集中して高い能力を身に付けた人は様々な分野でリーダーになる素養があると評価されています。このため、体育や文化、ボランティアなどの課外活動に積極的に参加し、高い成績を収めた人、著しい成果をあげた人も高く評価しています。

入学者選抜のねらい

化学システム工学科は、学びや諸活動の中で挑戦し続ける意欲あふれる人材や、多様な背景を持ち、さまざまな能力を有する人材を国内外から広く受け入れます。

そのために、これまでに培われた理科や数学を中心とする基礎学力、活動や経験を通じて身に付けた能力、資質、学ぶ意欲などを、多面的・総合的に評価する多様な入学試験を実施します。

入学試験での評価

入試制度	選考方法	配点	評価項目				合否判定の方法	
			A	B	C	D		
総合型選抜	総合型	提出書類	総評	●	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(全体または教科の学習成績の状況・科目の評定・自己研鑽や資格取得、各種課外活動等の成果に関する出願要件などあり・専願制・自己推薦) [一次選考]提出書類(志望理由書・自己推薦書・調査書)により総合的に選考する。 [二次選考]小論文・面接(小論文に関する口頭試問含む)により総合的に選考する。
		小論文	総評	●	●			
		面接	総評	●	●	●	●	
	アスリート特別	提出書類	総評	●	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(競技成績に関する基準あり・全体の学習成績の状況3.0以上・数学、理科の履修要件あり・専願制・自己推薦・クラブ部長等推薦) [一次選考]提出書類(調査書・自己推薦書・推薦状・競技歴証明資料)により総合的に選考する。 [二次選考]小論文・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・小論文・評価項目に基づいて行う。
		小論文	総評		●			
		面接	総評		●	●	●	
学校推薦型選抜	A方式	教科・科目	100	●			<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(専願制・学校長推薦) 個別試験(2科目)の得点・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行い、段階評価したうえで点数化する。 	
		面接	20		●	●		●
一般選抜	系統別日程	教科・科目	400	●			<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(3科目)の得点により、選考する。 英語・数学の得点を1.5倍する。[傾斜配点] 	
	前期日程	教科・科目	300	●			<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(3科目)の得点により、選考する。 	
	前期日程・共通テスト併用型	教科・科目	400	●			<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(前期日程2科目)と大学入学共通テスト(2科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。 	
		(英語資格)	★	●		●		
	共通テスト利用型Ⅰ期	教科・科目	1000	●			<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト(8科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。 	
		(英語資格)	★	●		●		
	共通テスト利用型Ⅱ期	教科・科目	500	●			<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト(4科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。 	
(英語資格)		★	●		●			
後期日程	教科・科目	200	●			<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(2科目)の得点により、選考する。 		
特別選抜	帰国生徒	教科・科目	200	●			<ul style="list-style-type: none"> 日本の国籍を有する者又は日本国の永住許可を得ている者のうち、外国の学校で学んだ者を対象とする。 個別試験(2科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。 	
		面接	総評		●	●		●
	学部留学生(前期日程)	教科・科目	750	●			<ul style="list-style-type: none"> 外国の国籍のみを有し、日本国内外を問わず12年の課程を修了(見込み)の者またはこれに準ずる者を対象とする。ただし、日本の高校を卒業した者は、学校教育法に基づく小学校・中学校・中等教育学校・高等学校の在籍期間が通算3年以内である者。 教科・科目については日本留学試験(3科目)の得点、提出書類については指定する英語外部試験の結果を含み、総合的に選考する。 	
		提出書類	総評	●	●	●		●
	学部留学生(後期日程)	教科・科目	100	●			<ul style="list-style-type: none"> 外国の国籍のみを有し、日本国内外を問わず12年の課程を修了(見込み)の者またはこれに準ずる者を対象とする。ただし、日本の高校を卒業した者は、学校教育法に基づく小学校・中学校・中等教育学校・高等学校の在籍期間が通算3年以内である者。 日本留学試験・個別試験(1科目)の得点・提出書類・面接(作文含む)により総合的に選考する。 面接(作文含む)は、提出書類・評価項目に基づいて行う。また、基礎学力や日本語運用能力を確認するための口頭試問を含む。 	
		面接	総評	●	●	●		
編・転・学士	教科・共通教育科目	300	●			<ul style="list-style-type: none"> 短期大学卒業(見込み)の者、専修学校の専門課程修了(見込み)の者、他大学に継続して2年以上在学したことがある(見込み)の者、学士の学位を有する(見込み)の者を対象とする。 編・転入試は、個別試験(3科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。 学士入試は、面接のほかに筆記試験を課すことがある。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。 		
	面接	総評		●	●		●	

評価項目 A: 知識・理解 / B: 技能 / C: 態度・志向性 / D: その他の能力・資質
 ●: 重点を置いて評価している / 総評: 点数化はしないが、段階評価し、総合的に評価している



養成する人材像・教育課程の特色

自然環境と調和した生活環境の創造に貢献する人材を養成することを目標としています。この目標に基づき、地球及び地域の環境問題を直視して自然と調和しながら地震や洪水などの災害に強い社会資本整備を行うための建設技術を習得し、強い責任感と倫理感を持って次世代に豊かな生活や文化を継承し続けられる社会のデザインに取り組み、社会で活躍できる人材養成を行います。これを実現するために、建設工学各分野（構造系、水理系、地盤系、計画系、材料・施工系、環境系）を学ぶプロセスでは、基礎的な知識を学ぶ導入科目から、より高度な専門知識まで体系的に学べるようになっていきます。また、多くの実践的な実験・実習科目も組み込まれており、専門的な知識の習得のみならず実社会で通用する土木技術者を養成するための教育課程となっています。

A 知識・理解

高等学校の教育内容を幅広く学修し、工学を学ぶに十分な基礎学力を有している人

社会デザイン工学科で学ぶ際に必要となる知識として、高等学校までに学習する教科・科目に関する基本的な知識が挙げられます。特に、工学全般を学ぶうえで、その言語的役割を担うとも言える数学や安全な構造物を設計するための基礎となる物理（特に力学）で学ぶ内容は入学するまでに理解しておいてください。また、社会基盤整備と社会の発展と環境への影響に関係する現象を正しく認識するためには「観察力・俯瞰力（幅広い視野で物事を捉える力）・洞察力」も必要です。バランスの取れた専門家となるために、入学試験に課されない科目であっても幅広く学んでいることを望んでいます。

B 技能

社会の問題を自ら調べ倫理的思考に基づいて、自分の意見を論理的に説明することができる人

社会デザインは、計画、設計、建設、維持管理などさまざまな分野の技術者との協働によって実現されています。その際、確かな根拠に基づいて自分の考えをわかりやすく論理的に説明することや多様な意見を取りまとめる力が求められます。それゆえ、日本語の読解力と表現力を高めることや専門用語を適切に扱えることが必要です。高等学校での国語を中心とする学習はもちろん、日頃から、新聞の社説や論説など身近なところにある論理的な文章を読み、自身の意見を倫理的思考の上で整理し、それを論理的に主張できるよう、心がけてください。

求める人材像 (求める能力)

C 態度・志向性

高度な専門知識と倫理観を身に付けた技術者になることへの夢を持ち、専門知識を社会のために積極的に活用したいと考えている人

科学技術の飛躍的な発展に伴い、私たちの生活は驚くほど便利で、豊かなものになっていますが、その反面、科学技術の使い方を誤ると人々の生命や環境さえ破壊してしまう危険性を持っています。このことは社会デザイン技術者にも強くいえることです。それゆえ、社会デザイン工学科では、専門知識にとどまらず、倫理観や社会へ貢献しようという強い使命感を持った人を歓迎します。このような倫理観や使命感は、専門家として働いていくうえで欠かせない自己研鑽を積む上での基盤ともなります。

D その他の能力・資質

自己研鑽により英語の資格を取得した人や課外活動等で顕著な成績をおさめた人

建設技術者を取り巻く環境はグローバル化が進展しています。それゆえ、他者と英語によるコミュニケーションをとることも当たり前となっています。さらに、入学後は英語を活用して文献を読解することなども要求されます。それゆえ、読む・聞く・話す・書くといった英語の4技能を総合的に活用できることを、高く評価しています。他方で、社会デザインは人々の文化や生活に根付いた存在です。それゆえ、学級や学年を離れて様々な人々と活動を共にする課外活動に積極的に参加し、活躍した人についても、評価しています。

入学者選抜のねらい

社会デザイン工学科では、建設工学に対する興味を持ち、『人々が、安全かつ快適に暮らせるための社会基盤整備を実現したい』との思いを持った入学者を求めています。

そこで、建設工学を学ぶために必要となる基礎学力はもちろんのこと、建設工学を学ぶ意欲や資質などからも受験者を評価し、多面的・総合的に入学者を選抜する多様な試験を実施します。

入学試験での評価

入試制度	選考方法	配点	評価項目				合否判定の方法	
			A	B	C	D		
総合型選抜	総合型	提出書類	総評	●	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(全体または教科の学習成績の状況・科目の評定・自己研鑽や資格取得、各種課外活動等の成果に関する出願要件などあり・専願制・自己推薦) [一次選考] 提出書類(志望理由書・自己推薦書・調査書)により総合的に選考する。 [二次選考] 小論文・面接(小論文に関する口頭試問含む)により総合的に選考する。
		小論文	総評	●	●			
		面接	総評	●	●	●	●	
	アスリート特別	提出書類	総評	●	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(競技成績に関する基準あり・全体の学習成績の状況3.0以上・数学、理科の履修要件あり・専願制・自己推薦・クラブ部長等推薦) [一次選考] 提出書類(調査書・自己推薦書・推薦状・競技歴証明資料)により総合的に選考する。 [二次選考] 小論文・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・小論文・評価項目に基づいて行う。
		小論文	総評		●			
		面接	総評		●	●	●	
学校推薦型選抜	A方式	教科・科目	100	●				<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(専願制・学校長推薦) 個別試験(2科目)の得点・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行い、段階評価したうえで点数化する。
		面接	20		●	●	●	
一般選抜	系統別日程	教科・科目	400	●				<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(3科目)の得点により、選考する。 英語・数学の得点を1.5倍する。[傾斜配点]
	前期日程	教科・科目	300	●				<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(3科目)の得点により、選考する。
	前期日程・共通テスト併用型	教科・科目	400	●				<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(前期日程2科目)と大学入学共通テスト(2科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。
		(英語資格)	★	●			●	
	共通テスト利用型Ⅰ期	教科・科目	1000	●				<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト(8科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。
		(英語資格)	★	●			●	
	共通テスト利用型Ⅱ期	教科・科目	500	●				<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト(4科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。
(英語資格)		★	●			●		
後期日程	教科・科目	200	●				<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(2科目)の得点により、選考する。 	
特別選抜	帰国生徒	教科・科目	200	●				<ul style="list-style-type: none"> 日本の国籍を有する者又は日本国の永住許可を得ている者のうち、外国の学校で学んだ者を対象とする。 個別試験(2科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類や評価項目に基づいて行う。
		面接	総評		●	●		
	社会人	教科・科目	100	●				<ul style="list-style-type: none"> 社会人としての活動や経験を有した者を対象とする。 個別試験(2科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類や評価項目に基づいて行う。
		小論文	100		●			
		面接	総評		●	●		
	学部留学生(前期日程)	教科・科目	750	●				<ul style="list-style-type: none"> 外国の国籍のみを有し、日本国内外を問わず12年の課程を修了(見込み)の者またはこれに準ずる者を対象とする。ただし、日本の高校を卒業した者は、学校教育法に基づく小学校・中学校・中等教育学校・高等学校の在籍期間が通算3年以内である者。 教科・科目については日本留学試験(3科目)の得点、提出書類については指定する英語外部試験の結果を含み、総合的に選考する。
		提出書類	総評	●	●	●	●	
	学部留学生(後期日程)	教科・科目	100	●				<ul style="list-style-type: none"> 外国の国籍のみを有し、日本国内外を問わず12年の課程を修了(見込み)の者またはこれに準ずる者を対象とする。ただし、日本の高校を卒業した者は、学校教育法に基づく小学校・中学校・中等教育学校・高等学校の在籍期間が通算3年以内である者。 日本留学試験・個別試験(1科目)の得点・提出書類・面接(作文含む)により総合的に選考する。 面接(作文含む)は、提出書類・評価項目に基づいて行う。また、基礎学力や日本語運用能力を確認するための口頭試問を含む。
		面接	総評	●	●	●		
	編・転・学士	教科・共通教育科目	300	●				<ul style="list-style-type: none"> 短期大学卒業(見込み)の者、専修学校の専門課程修了(見込み)の者、他大学に継続して2年以上在学したことがある(見込み)の者、学士の学位を有する(見込み)の者を対象とする。 編・転入試は、個別試験(3科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。 学士入試は、面接のほかに筆記試験を課すことがある。 面接は、提出書類や評価項目に基づいて行う。
面接		総評		●	●			

評価項目

A: 知識・理解 / B: 技能 / C: 態度・志向性 / D: その他の能力・資質
 ●: 重点を置いて評価している / 総評: 点数化はしないが、段階評価し、総合的に評価している



養成する人材像・教育課程の特色

建築学科は、美しく、快適かつ安全で、豊かな建築空間・都市空間を創造し、社会的・技術的ニーズに適切に応えられる建築技術者を育てることを目標とします。そのために教育課程では、人文社会科学や数学、物理などの基礎的な教養を深めた上で、[構造・材料][環境・設備][歴史・意匠][計画・設計]の四分野において建築技術者に求められる幅広い総合的な知識を習得するとともに、学生の個性と将来目標に合わせて高度で実践的な専門能力を身に付けられるようになっています。4年次の卒業計画を含む高次の専門科目では最新の研究成果を取り入れ、地域と連携しながら、社会の変化や技術の進化に対応する教育を目指しています。

A

知識・理解

高等学校の教育内容を幅広く学修しており、工学を学ぶに十分な基礎学力を有している人

建築学科で学ぶ際に必要となる知識として、高等学校までに学習する教科・科目に関する基本的な知識が挙げられます。特に、工学全般を学ぶうえで、その言語的役割を担うとも言える数学や壊れにくい建物とするための基礎となる物理(特に力学)で学ぶ内容は入学までに理解しておいてください。また、建築物に関係する現象を正しく認識するためには、観察力や洞察力が必要です。そのためには、実験や観察によって事物・現象をとらえる理科や造形活動を通して表現力を養う美術にも積極的に取り組んでください。なお、バランスの取れた専門家となるために、入学試験に課されない科目であっても幅広く学んでいることを望みます。

B

技能

学習や課外活動から得た経験を踏まえて、自らの視点で物事を順序立てて説明することができる人

建築は、建築家と構造や設備など様々な分野の技術者が協働し、各分野の技術や技能を一つの建物に統合することで実現されています。その際、確かな専門的知識に基づいて自分の考えをわかりやすく論理的に説明する力や多様な意見を取りまとめる力が求められます。それゆえ、母語としての日本語の読解力と表現力を高めることが必要です。高等学校での国語を中心とする学習はもちろん、日頃から、新聞の社説や論説など身近なところにある論理的な文章を読み、自身の意見を整理したうえで、それを論理的に主張できるよう心がけてください。また、友人や先生、家族との対話を大切にしてください。

求める人材像
(求める能力)

C

態度・志向性

建築学に関する高度な専門知識と倫理観を身に付けた建築技術者になることへの夢を持ち、専門知識を社会のために積極的に活用したいと考えている人

科学技術の飛躍的な発展に伴い、私たちの生活は驚くほど便利で、豊かなものになっていますが、その反面、科学技術の使い方を誤ると人々の生命や環境さえ破壊してしまう危険性を持っています。このことは建築技術者にも強くいえることです。それゆえ、建築学科では、専門知識にとどまらず、倫理観や社会へ貢献しようという強い使命感を持った人を歓迎します。このような倫理観や使命感は、専門家として働いていくうえで欠かせない自己研鑽を積む上での基盤ともなります。

D

その他の能力・資質

自己研鑽により、英語の資格を取得した人やスポーツ活動・文化活動等で顕著な成績をおさめた人

建築技術者には他者を理解し協力して問題を解決するコミュニケーション能力が求められます。さらに、モノづくりに国境はなく英語による対話も必要となります。学生時代に学内外の様々な人たちと積極的に対話し交流することが大切です。それゆえ、建築学科では英語の資格を取得し、読む・聞く・話す・書くといった4技能を総合的に活用できることを高く評価します。また、学級や学年を離れて様々な人たちと活動を共にする課外活動に積極的に参加し、活躍した人についても評価します。

入学者選抜のねらい

建築学科は、技術者として社会で活躍する目標を抱き、学びや諸活動の中で挑戦し続ける意欲あふれる人材や、多様な学びの背景の中で様々な能力を有する人材を国内外から広く受け入れます。

そのために、これまで培われた基礎学力、活動や経験を通じて身に付けた能力、資質、学ぶ意欲などを、多面的・総合的に評価する多様な入学試験を実施します。

入学試験での評価

入試制度	選考方法	配点	評価項目				合否判定の方法	
			A	B	C	D		
総合型選抜	総合型	提出書類	総評	●	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(全体または教科の学習成績の状況・科目の評定・自己研鑽や資格取得、各種課外活動等の成果に関する出願要件などあり・専願制・自己推薦) [一次選考] 提出書類(志望理由書・自己推薦書・調査書)により総合的に選考する。 [二次選考] 事前にスケッチの課題テーマを告知し、二次選考当日にスケッチの持参を要請する。面接(スケッチに関する口頭試問含む)により総合的に選考する。
		面接	総評		●	●	●	
	アスリート特別	提出書類	総評	●	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(競技成績に関する基準あり・全体の学習成績の状況3.0以上・数学、理科の履修要件あり・専願制・自己推薦・クラブ部長等推薦) [一次選考] 提出書類(調査書・自己推薦書・推薦状・競技歴証明資料)により総合的に選考する。 [二次選考] 小論文・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・小論文・評価項目に基づいて行う。
		小論文	総評		●			
		面接	総評		●	●	●	
	学校推薦型選抜	A方式	教科・科目	100	●			
面接			20		●	●	●	
一般選抜	系統別日程	教科・科目	400	●				<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(3科目)の得点により、選考する。 英語・数学の得点をそれぞれ1.5倍する。[傾斜配点]
	前期日程	教科・科目	300	●				<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(3科目)の得点により、選考する。
	前期日程・共通テスト併用型	教科・科目	400	●				<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(前期日程2科目)と大学入学共通テスト(2科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。
		(英語資格)	★	●			●	
	共通テスト利用型Ⅰ期	教科・科目	1000	●				<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト(8科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。
		(英語資格)	★	●			●	
	共通テスト利用型Ⅱ期	教科・科目	500	●				<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト(4科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。
(英語資格)		★	●			●		
後期日程	教科・科目	200	●				<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(2科目)の得点により、選考する。 	
特別選抜	帰国生徒	教科・科目	200	●				<ul style="list-style-type: none"> 日本の国籍を有する者又は日本国の永住許可を得ている者のうち、外国の学校で学んだ者を対象とする。 個別試験(2科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。
		面接	総評		●	●		
	学部留学生(前期日程)	教科・科目	750	●				<ul style="list-style-type: none"> 外国の国籍のみを有し、日本国内外を問わず12年の課程を修了(見込み)の者またはこれに準ずる者を対象とする。ただし、日本の高校を卒業した者は、学校教育法に基づく小学校・中学校・中等教育学校・高等学校の在籍期間が通算3年以内である者。 教科・科目については日本留学試験(3科目)の得点、提出書類については指定する英語外部試験の結果を含み、総合的に選考する。
		提出書類	総評	●	●	●	●	
	学部留学生(後期日程)	教科・科目	100	●				<ul style="list-style-type: none"> 外国の国籍のみを有し、日本国内外を問わず12年の課程を修了(見込み)の者またはこれに準ずる者を対象とする。ただし、日本の高校を卒業した者は、学校教育法に基づく小学校・中学校・中等教育学校・高等学校の在籍期間が通算3年以内である者。 日本留学試験・個別試験(1科目)の得点・提出書類・面接(作文含む)により総合的に選考する。 面接(作文含む)は、提出書類・評価項目に基づいて行う。また、基礎学力や日本語運用能力を確認するための口頭試問を含む。
		面接	総評	●	●	●		
編・転・学士	教科・共通教育科目	300	●				<ul style="list-style-type: none"> 短期大学卒業(見込み)の者、専修学校の専門課程修了(見込み)の者、他大学に継続して2年以上在学したことがある(見込み)の者、学士の学位を有する(見込み)の者を対象とする。 編・転入試は、個別試験(3科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。 学士入試は、面接のほかに筆記試験を課すことがある。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。なお、面接内容には、専門的素養を含む。 	
	面接	総評		●	●			

評価項目

A: 知識・理解 / B: 技能 / C: 態度・志向性 / D: その他の能力・資質
 ●: 重点を置いて評価している / 総評: 点数化はしないが、段階評価し、総合的に評価している



養成する人材像・教育課程の特色

医療のプロフェッショナルとしての誇りと広い視野を持ち、患者に寄り添い、地域社会に貢献する医師の育成が医学科の目標です。基本的医療専門知識と技術を身に付けるための基礎・臨床医学教育科目を基盤に、低学年からの早期臨床医学体験、共通教育、研究室配属を通し、医療人としての幅広い教養、生命倫理の重要性、科学的探究心、論理的思考力を修得します。高いコミュニケーション能力、グローバルな視野で地域に貢献できるように英語での医療面接も行います。高学年の診療参加型実習で病歴聴取、身体診察・手技など診察技能や診察所見に基づく臨床推論能力の向上をめざし、多職種連携教育、健康行動科学の重要性を追求します。また、医学科では「人が人を治療する」という原点に立ち、高い倫理観と豊かな人間性を併せ持った医師・医学研究者の育成を目指します。

A

知識・理解

高等学校の教育内容を学修し、医師になるための十分な基礎学力を有する人

医学科で学ぶ際に必要となる前提的な知識として、高等学校までに学習する教科・科目に関する基礎的・応用可能な知識があげられます。特に医学科では科学的探求心と論理的思考力が必要となるので、『数学』と『理科』を入学までに十分に理解しておいてください。また、将来はグローバルな視点で医療に貢献できるよう、『英語』に積極的に取り組んでください。なお、バランスの取れた医師になるために、入学試験に課せられない科目であっても幅広く学んでいることを望んでいます。

B

技能

自らの視点で物事を解釈・表現し、他者と良好な関係を築く能力を有する人

医学科の学生は、卒業時に患者とその家族、医療者、関係機関と円滑なコミュニケーションを実践し、患者中心の医療、医療チームの一員としての自覚、多職種連携に取り組む必要があります。そのために日頃から自尊心と高い倫理観をもち、他者と信頼関係を積極的に築くように心がけてください。確かな根拠に基づいて自分の考えをわかりやすく論理的に説明することや、多様な意見を取りまとめる日本語の読解力や表現力を高めること、言葉に対する感覚を磨くことが必要です。

求める人材像 (求める能力)

C

態度・志向性

高い倫理観を有し他者を尊重でき、自律学習能力と自己研鑽を継続できる人

医療における医師と患者関係は、かつての医師による一方的な医師主導型医療から、両者が納得いくまで話し合っ最良の方法を選択し、協力して医療に当たる相互参加型医療、患者中心型医療へ変遷しています。したがって、これからの医師は、医学知識、医療技術だけでなく、多様な背景をもつ患者の自己決定権を尊重して状況に合わせて様々な提案を行うとともに、高い倫理観と豊かな人間性を併せ持たねばなりません。このような使命感を持った人を歓迎します。

D

その他の能力・資質

国際的な医療制度に関心を持ち、公衆衛生的見地から地域社会に貢献する人

医療のグローバル化により治療の対象となる人は国籍・人種も多様化しています。英語によるコミュニケーションをとるための読む・聞く・話す・書くといった英語の4技能を総合的に活用できることは重要です。将来、海外からの患者の診療、医療者との交流が行え、国際保健や医療制度等の社会的問題の情報を積極的に収集できる能力を持った人を歓迎します。卒業後、地域の医療機関、保健、福祉、行政と連携でき、地域医療に貢献する能力が必要です。

入学者選抜のねらい

医学科は、学びや諸活動の中で挑戦し続ける意欲あふれる人材や、多様な背景を持ち、さまざまな能力を有する人材を国内外から広く受け入れます。そのために、これまでに培われた基礎学力、活動や経験を通じて身に付けた能力、資質、学ぶ意欲などを、多面的・総合的に評価する多様な入学試験を実施します。

入学試験での評価

入試制度	選考方法	配点	評価項目				合否判定の方法	
			A	B	C	D		
学校推薦型選抜	A方式	教科・科目	100	●				<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(全体の学習成績の状況3.7以上・専願制・学校長推薦) 個別試験(2科目)の得点・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行い、段階評価したうえ点数化する。 調査書等の提出書類は、面接評価に活用する。 受験生4~6人に対し、面接者3人のグループ面接(40分程度)を行い、医師としての適性(コミュニケーション能力、表現力、倫理観、使命感)を評価する。従って、個別試験(2科目)の得点の如何に関わらず不合格となることがある。 個人を特定し、質問や確認を行いたい場合に、個人面接を実施することがある。なお、個人面接では、グループ面接の評価を考慮したうえ、最終的な評価を行う。
		面接	20		●	●	●	
	地域枠	教科・科目	100	●				
		面接	20		●	●	●	
一般選抜	系統別日程	教科・科目	400	●				<ul style="list-style-type: none"> [一次選考]個別試験(4科目)の得点により、選考する。 [二次選考]一次選考(個別試験4科目)の得点と面接の評価点により総合的に選考する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行い、段階評価したうえ点数化する。 調査書等の提出書類・小論文は、面接評価に活用する。なお、小論文は一次選考日に課す。 受験生4~6人に対し、面接者3人のグループ面接(40分程度)を行い、医師としての適性(コミュニケーション能力、表現力、倫理観、使命感)を評価する。従って、一次選考の得点の如何に関わらず不合格となることがある。 個人を特定し、質問や確認を行いたい場合に、個人面接を実施することがある。なお、個人面接では、グループ面接の評価を考慮したうえ、最終的な評価を行う。
		面接	50		●	●	●	
	共通テスト利用型Ⅰ期	教科・科目	700	●				
		(英語資格)	★	●			●	
	面接	50		●	●	●		
特別選抜	学部留学生(後期日程)	教科・科目	100	●	●			<ul style="list-style-type: none"> 外国の国籍のみを有し、日本国内外を問わず12年の課程を修了(見込み)の者またはこれに準ずる者を対象とする。ただし、日本の高校を卒業した者は、学校教育法に基づく小学校・中学校・中等教育学校・高等学校の在籍期間が通算3年以内である者。 日本留学試験・個別試験(1科目)の得点・提出書類・小論文・面接により総合的に選考する。 小論文は、日本語能力を評価する。 面接は、個人面接で医師としての適性(コミュニケーション能力、表現力、倫理観、使命感)を評価する。
		小論文	総評		●			
		面接	総評		●	●	●	

評価項目

A: 知識・理解 / B: 技能 / C: 態度・志向性 / D: その他の能力・資質

●: 重点を置いて評価している / 総評: 点数化はしないが、段階評価し、総合的に評価している



養成する人材像・教育課程の特色

人々の健康を保持増進し、病気を持ちながら生活する人々に寄り添い、その人らしく生きることを支え、さらに地域・国際社会に貢献できる看護専門職者を育てることが私達の目標です。そのために、総合大学としての特徴を生かし、幅広い教養と知識を修得するための科目や、看護の基盤となる人間・健康・環境について多角的に理解する科目を配置しています。また、多様な場で看護を実践する能力を身につけるために、大学病院等で臨地実習を行っています。さらに、看護専門職者として幅広い活躍の場が得られるように、選択制で保健師履修コースと養護教諭一種・高等学校教諭一種(看護)の教職課程を設置しています。

A 知識・理解

高等学校の教育内容を幅広く学習しており、看護学を学ぶために十分な基礎学力を有している人

看護学科で学ぶ際に必要となる前提的な知識として、高等学校までに学習する教科・科目に関する基本的な知識が挙げられます。特に看護学全般を学ぶ上で、実社会で活用できる「国語」の学習を踏まえて、文章や資料等を的確に理解する能力や人間の生命現象や物質について理解するための基本となる「生物」や「化学」、「数学」は入学までに理解しておいてください。なお、看護専門職者を目指すためには、入学試験に課されない科目であっても幅広く学んでいることを望みます。

B 技能

自らの視点で物事を順序立てて説明し、他者と良好な人間関係を築くことができる人

看護は、人と人のかかわりの中で実践されます。日ごろから良好な人間関係を築くことのできるコミュニケーション能力が求められます。また、看護実践では、様々な分野の医療専門職者との協働が不可欠であり、その際、確かな根拠に基づいて自分の考えをわかりやすく論理的に説明することや多様な意見を取りまとめる力が求められます。特に日本語の読解力や表現力を高めること、言葉に対する感覚を磨くことが必要です。自分を大切にするとともに家族、友人などの他者を理解し、日頃から周囲の人や場に応じて積極的な交流を心がけてください。

求める人材像 (求める能力)

C 態度・志向性

人々の健康と生活を支える看護専門職を目指す高い志と倫理観をもち、自ら学び、自己の成長を目指し、挑戦しようとする人

医療技術の進歩・少子高齢社会を迎え、病院や地域・家庭で病気や障がいをもちながらも、その人らしく生活する人々が増加しています。このような社会の状況に対応するために、生命や人間の権利を尊重できる高い倫理観をもち、社会に貢献しようという強い使命感をもった人を歓迎します。倫理観や使命感は、看護専門職者として働いていくうえで欠かせない信頼関係形成の基盤となります。

D その他の能力・資質

英語の資格を取得した人や課外活動・ボランティア活動に積極的・継続的に参加し活躍した人

社会のグローバル化に伴い、看護の対象となる人は国籍・人種も多様化しています。英語によるコミュニケーションをとるための読む・聞く・話す・書くといった4技能を総合的に活用できることは重要です。また、看護の対象は胎児から高齢者まであらゆる発達の段階にある人です。さらに、災害時などあらゆる場面で、看護専門職者の果たす役割は大きくなってきています。それゆえ、さまざまな人たちと活動を共にする課外活動や地域のボランティアに積極的・継続的に参加し、活動している人について高く評価します。

入学者選抜のねらい

看護学科は、学びや諸活動の中で挑戦し続ける意欲あふれる人材や、人のかかわりを大切にできるさまざまな能力を有する人材を広く受け入れます。そのために、これまでに培われた基礎学力、活動や経験を通じて身に付けた能力、資質、学ぶ意欲などを、多面的・総合的に評価する多様な入学試験を実施します。

入学試験での評価

入試制度	選考方法	配点	評価項目				合否判定の方法	
			A	B	C	D		
学校推薦型選抜	A方式 教科・科目	100	●				<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(全体の学習成績の状況3.5以上・専願制・学校長推薦) 個別試験(2科目)の得点・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行い、段階評価したうえ点数化する。 	
	面接	20		●	●	●		
一般選抜	系統別日程 教科・科目	400	●				<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(3科目)の得点により、選考する。 理科の得点を2倍する。[傾斜配点] 	
	前期日程 教科・科目	300	●				<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(3科目)の得点により、選考する。 	
	前期日程・共通テスト併用型	教科・科目	400	●				<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(前期日程2科目)と大学入学共通テスト(2科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。
		(英語資格)	★	●			●	
	共通テスト利用型Ⅰ期	教科・科目	420	●				<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト(5科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。
		(英語資格)	★	●			●	
	共通テスト利用型Ⅱ期	教科・科目	600	●				<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト(3科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。
(英語資格)		★	●			●		
後期日程 教科・科目	200	●				<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(2科目)の得点により、選考する。 		
特別選抜	帰国生徒	教科・科目	100	●			<ul style="list-style-type: none"> 日本の国籍を有する者又は日本国の永住許可を得ている者のうち、外国の学校で学んだ者を対象とする。 個別試験(2科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。 小論文では、文章を読む力や書く力といった基礎学力と論理的思考力を評価する。 面接は、提出書類や評価項目に基づいて行う。 	
		小論文	100		●			
		面接	総評		●	●		●
	学部留学生(後期日程)	教科・科目	100	●	●		<ul style="list-style-type: none"> 外国の国籍のみを有し、日本国内外を問わず12年の課程を修了(見込み)の者またはこれに準ずる者を対象とする。ただし、日本の高校を卒業した者は、学校教育法に基づく小学校・中学校・中等教育学校・高等学校の在籍期間が通算3年以内である者。 日本留学試験・個別試験(1科目)の得点・提出書類・小論文・面接により総合的に選考する。 小論文は、日本語能力を評価する。 面接は、個人面接で看護師としての適性(コミュニケーション能力、表現力、倫理観、使命感)を評価する。 	
		小論文	総評		●			
		面接	総評		●	●		●

評価項目

A: 知識・理解 / B: 技能 / C: 態度・志向性 / D: その他の能力・資質

●: 重点を置いて評価している / 総評: 点数化はしないが、段階評価し、総合的に評価している



養成する人材像・教育課程の特色

薬学部薬学科は、『医薬品の開発や安全使用に関する基礎的、臨床の先端研究の推進をもって国民の健康と福祉に貢献すること』を教育研究の理念としています。この理念に基づき、『基礎科学の総合を基盤としながら、医療人としての倫理観、使命感そして責任感を十分に理解し、高度な薬学の知識・技能を身につけ、生涯にわたり自己成長できる薬剤師、並びに教育・研究者の養成』を目指しています。このための教育課程は、少人数教育を基本とし、低学年時に基礎的な薬学科目を、高学年時により薬剤師として必要とされる臨床的技能を含めた専門性の高い薬学科目を配置することで、確かな学力・技能の向上に配慮しています。

A 知識・理解

高等学校の教育内容を幅広く学修しており、探究心旺盛で科学に関する素養を有する人

薬学科の講義を理解するためには、高等学校までに学習する教科の基本的な知識は重要です。特に、生物・化学・物理の知識は薬学において必要不可欠なので、入学までに十分習得しておくことが望まれます。物事の現象に対して、『なぜ?』と疑問に思うことが学問の前提です。高校生の中に、身の回りの様々な疑問・問題点を自分自身で積極的に調査し、その答えを導き出す姿勢、つまり探究心を育てておくことが重要です。なお、薬学科では将来優れた医療人となるために、入学試験に課されていない科目であっても幅広くしっかりと学んでおくことを望んでいます。

B 技能

患者ならびに医師をはじめとする医療関係者と適切に連携できるコミュニケーション能力を備えている人

医療は、医師をはじめとする多くの医療関係者との密接な連携により実現されています。その際、確かな根拠に基づいた自分の考えを、相手にわかりやすく簡潔に説明することが重要です。また、患者やその家族に対して薬や症状の情報を説明する際においても同様です。それゆえ、日本語の読解力や表現力を高めることが必要であり、高等学校での国語を中心とした教科により習得する能力は薬学科でも不可欠になります。日頃から、友人や先生、家族と積極的にコミュニケーションをとり、他人の考えを的確に理解し、自分の考えを論理的に主張できるよう心がけておくことを望んでいます。

求める人材像 (求める能力)

C 態度・志向性

思いやり、倫理観、使命感そして強い責任感を備えている人

将来の医療人として、他人の考えや気持ちに思いを寄せることができるようになって下さい。また薬学科を卒業すると、将来的に人の命に携わる職業に就く可能性が高いでしょう。薬剤師や薬学研究者は、少しでも使い方を誤ると人の生死も左右してしまうような薬物を扱う仕事です。それゆえ、常に相手のことを考え行動する高い倫理観、自らが患者の治療に携わっているとの使命感や責任感を持つことが重要です。これらの多くは高等学校の授業で直接的に習うものではないので、部活動などの学校生活や日常生活を通して身につけておくことを望んでいます。

D その他の能力・資質

医療業界のグローバル化に対応するため英語の資格を取得した人やスポーツや生活習慣を通じて、心身の健康維持・増進を目指す姿勢を持っている人

医療業界を取り巻く環境は、グローバル化が進んでいます。患者も日本人のみとは限らず外国人も増えています。また、医療関係の最新論文の多くは英語で書かれています。それゆえ、薬学科では英語の4技能(読む、聞く、書く、話す)を総合的に活用できる人を望んでいます。加えて将来医療人になる者が自身の健康に無関心では、患者に対して説得力のある医療を遂行できるとは思えません。よって、薬学科では普段から自身の健康維持・向上に心がけている人を望んでいます。

入学者選抜のねらい

薬学部薬学科は、基礎科学の総合を基盤としながら、将来医療人になるべく倫理観、使命感そして責任感を十分に理解できる人材を国内外から広く受け入れます。そのために、これまでに培われた基礎学力、活動や経験を通じて身につけた能力、技能、学ぶ意欲を、多面的・総合的に評価する多様な入学試験を実施します。

入学試験での評価

入試制度	選考方法	配点	評価項目				合否判定の方法	
			A	B	C	D		
学校推薦型選抜	A方式	教科・科目	100	●				<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(全体の学習成績の状況3.5以上、専願制・学校長推薦) 個別試験(2科目)の得点・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類や評価項目に基づいて行い、段階評価したうえ点数化する。
		面接	20		●	●	●	
一般選抜	系統別日程	教科・科目	400	●				<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(3科目)の得点により、選考する。 理科の得点を2倍する。[傾斜配点]
	前期日程	教科・科目	300	●				<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(3科目)の得点により、選考する。 2/5は理科の得点を2倍、英語と数学の得点を0.5倍する。[傾斜配点] 2/3及び2/11は、3科目各100点満点で選考する。
	前期日程・共通テスト併用型	教科・科目	600	●				<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(前期日程2科目)と大学入学共通テスト(3科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。
		(英語資格)	★	●			●	
	共通テスト利用型Ⅰ期	教科・科目	650	●				<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト(7科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。
		(英語資格)	★	●			●	
	共通テスト利用型Ⅱ期	教科・科目	500	●				<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト(4科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。
(英語資格)		★	●			●		
共通テスト利用型Ⅲ期	教科・科目	400	●				<ul style="list-style-type: none"> [一次選考]大学入学共通テスト(3科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。 [二次選考]一次選考(大学入学共通テスト3科目)の得点と面接の評価点により総合的に選考する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行い、段階評価したうえ点数化する。 調査書等の提出書類は、面接評価に活用する。 受験生1人に対し、面接者3人の個人面接(10分程度)を行い、医療人である薬剤師としての適性(コミュニケーション能力、倫理観、使命感)を評価する。従って、一次選考の得点の如何に関わらず不合格となることがある。 	
	(英語資格)	★	●			●		
	面接	50		●	●	●		
後期日程	教科・科目	200	●				<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(2科目)の得点により、選考する。 	
特別選抜	帰国生徒	教科・科目	200	●				<ul style="list-style-type: none"> 日本の国籍を有する者又は日本国の永住許可を得ている者のうち、外国の学校で学んだ者を対象とする。 個別試験(2科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類や評価項目に基づいて行い、また、理科に関する知識や基礎学力を確認するための口頭試問を含む。
		面接	総評	●	●	●	●	
	社会人	教科・科目	100	●				<ul style="list-style-type: none"> 社会人としての活動や経験を有した者を対象とする。 個別試験(2科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。 小論文は、自己の意見を明確に文章にて表現できているかを評価する。 面接は、提出書類や評価項目に基づいて行い、また、理科に関する知識や基礎学力を確認するための口頭試問を含む。
小論文		100		●				
面接		100	●	●	●	●		
学部留学生(後期日程)	教科・科目	100	●				<ul style="list-style-type: none"> 外国の国籍のみを有し、日本国内外を問わず12年の課程を修了(見込み)の者またはこれに準ずる者を対象とする。ただし、日本の高校を卒業した者は、学校教育法に基づく小学校・中学校・中等教育学校・高等学校の在籍期間が通算3年以内である者。 日本留学試験と個別試験(1科目)の得点・提出書類・小論文・面接により総合的に選考する。 小論文は、自己の意見を明確に日本語の文章にて表現できているかを評価する。 面接は、提出書類や評価項目に基づいて行い、また、理科に関する知識や基礎学力を確認するための口頭試問を含む。 	
	小論文	総評		●				
	面接	総評	●	●	●			

評価項目

A: 知識・理解 / B: 技能 / C: 態度・志向性 / D: その他の能力・資質

●: 重点を置いて評価している / 総評: 点数化はしないが、段階評価し、総合的に評価している



養成する人材像・教育課程の特色

スポーツ科学科は、競技力や運動能力の向上を目指したスポーツ科学分野の知識を有し、適切なスポーツの実践と論理的指導ができる人材を養成することを目的としています。そのために、スポーツに関する理論と実践を統合した教育科目を体系的に配し、3年次より学生の興味・関心及び卒業後の進路に対応した4つのコースを用意しています。自身の競技力向上とアスリートやコーチを目指すための「アスリート・コーチコース」、アスリートのサポートを担うためのトレーナーを養成する「S&C (ストレングス&コンディショニング) トレーナーコース」、現役で中学校・高等学校の保健体育科教員採用試験合格を目指すための「保健体育科教員コース」、幅広い分野でスポーツ科学の知識を活かせるキャリアパスを形成する「スポーツキャリアデザインコース」があり、多様な社会のニーズに対応したスポーツ科学の在り方を探求しています。

A

知識・理解

競技スポーツを科学的に捉えるための基礎学力を有している人

競技力や運動能力を向上させるためには、ただ一生懸命頑張っただけでは限界があり、スポーツを科学的に捉える必要があります。例えば、解剖学、生理学、コーチング学関連科目などの知識をベースに、どうすればより理想的な動作に近づけるか、けがを予防しながら高いパフォーマンスを発揮できるか科学的検証を行います。また、国内外の科学的研究からヒントを得て、スポーツの文化・社会文化的側面を学ぶことも必要でしょう。このように、競技スポーツの実践は、高等学校までに学んだ幅広い知識と競技力を向上させるための身体運動の融合が必要不可欠なのです。よって、競技スポーツや運動への興味・関心はもちろん、受験科目の枠を超えて幅広く学び、スポーツや身体運動を科学的に探究しようとする人を歓迎します。

B

技能

競技スポーツの経験を有し、競技力向上のために科学的に課題を分析できる人

今までは指導者の助言に従い、競技スポーツを実践してきた人が多いかもしれません。しかし、大学では、学生自身が、競技に関する知識と分析に基づいて、主体的に競技力向上を目指していきます。よって、スポーツ科学科に配した多くの教育科目を通じて、主体的に知識を獲得し分析できる素養を持った人を求めます。また、指導者に助言を求めるにしても、自身の今の状態や課題について分析(解釈)したことを、的確に伝える表現力が必要です。このように、競技スポーツを、単なる運動や技能の発揮としてではなく、自分自身の身体と向き合いながら、感覚と思考を伴って取り組む実践的な活動として理解する人を歓迎します。

求める人材像
(求める能力)

C

態度・志向性

スポーツの場面以外でも、スポーツの精神を体現化し、スポーツの素晴らしさを伝えたいと考える人

アスリートには、競技の場面に限らず、日常生活においても他者の模範となるような態度が期待されます。競技の枠を超えて、スポーツが持つ公平性、公正さ、誠実さといった価値を日常の中でも体現し、実践する姿勢が強く求められます。教育としてのスポーツは、このような態度や倫理観を育む力を持つと考えられており、大学卒業後もスポーツ科学を通じて培った倫理観や指導力を活かし、スポーツの素晴らしさを広く社会に伝えようとする人を歓迎します。

D

その他の能力・資質

学校生活全般でリーダーシップ・コミュニケーション能力を発揮した人や英語資格の取得等に努めた人

競技スポーツの場面では、集団を支え導くようなリーダーシップ能力や、様々な意見や考えを人に伝えるコミュニケーション能力が必要です。また、これらの能力は、代表選手やプロ選手、トレーナーや保健体育科教員、スポーツ指導者や公務員や企業人、いかなる立場においても役立ちます。よって、保健体育の授業や部活動、スポーツの場面に限らず、生徒会活動や学校行事、日常の学校生活においてリーダーシップ・コミュニケーション能力を発揮した人を高く評価します。また、国際的な視点が求められるようになっているスポーツ界の動向を受けて、英語の4技能(読む・聞く・話す・書く)を総合的に活用できる人も評価します。

入学者選抜のねらい

スポーツ科学科では、競技スポーツの実践経験と高等学校までの学びを融合させ、競技力向上を目的とするスポーツ科学の発展に寄与しようとする人材を広く受け入れます。

そのため、これまでに培われた学力、活動や経験を通じて身につけた能力、資質、学ぶ意欲などを、多面的・総合的に評価する多様な入学試験を実施します。

入学試験での評価

入試制度	選考方法	配点	評価項目				合否判定の方法		
			A	B	C	D			
総合型選抜	総合型	提出書類	総評	●	●			<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(専願制・自己推薦) [一次選考]提出書類(志望理由書・自己推薦書・調査書・スポーツ実績証明書)により総合的に選考する。 [二次選考]体育実技(専門実技試験または体力・運動能力試験)及び面接(自己PRを含む)により総合的に選考する。 体力・運動能力試験では専門競技における競技歴についても考慮する。 面接は提出書類・評価項目に基づいて行う。 	
		体育実技	100		●	●			
		面接	総評		●	●	●		
	アスリート特別	提出書類	総評	●	●	●	●		<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(競技成績に関する基準あり・全体の学習成績の状況3.0以上・専願制・自己推薦・クラブ部長等推薦) [一次選考]提出書類(調査書・自己推薦書・推薦状・競技歴証明資料)により選考する。 [二次選考]小論文・面接により総合的に選考する。 小論文は、論理的思考力・表現力を評価する。 面接は、提出書類・小論文・評価項目に基づいて行う。
		小論文	総評	●	●				
面接	総評		●	●	●				
学校推薦型選抜	A方式 [科目型]	教科・科目	100	●			<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(全体の学習成績の状況3.5以上・専願制・学校長推薦) 個別試験(2科目)の得点・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行い、段階評価したうえで点数化する。 		
		面接	20		●	●		●	
	A方式 [実技型]	体育実技	100		●	●			
		面接	20	●	●	●		●	
一般選抜	系統別日程	教科・科目	400	●			<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(3科目)の得点により、選考する。 3科目のうち、最高得点の1科目を2倍する。【傾斜配点】 		
	前期日程 [実技型]	教科・科目	200	●			<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(2科目)と体育実技(専門実技試験または体力・運動能力試験)の得点により、選考する。 専門実技試験では専門競技における競技歴も考慮したうえ、専門競技の基礎力を評価する。 体力・運動能力試験では専門競技における競技歴についても考慮する。 		
		体育実技	100		●	●			
	前期日程 [小論文型]	教科・科目	200	●			<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(3科目)の得点により、選考する。 小論文は、論理的思考力・表現力を評価する。また、調査書の評価も含む。 		
		小論文	100	●	●				
	前期日程・共通テスト併用型	教科・科目	400	●			<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(前期日程2科目)と大学入学共通テスト(2科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。 		
		(英語資格)	★	●		●			
	共通テスト利用型 I期	教科・科目	400	●			<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト(4科目)の得点と調査書により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点を点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。 		
		(英語資格)	★	●		●			
	提出書類	100		●					
	共通テスト利用型 II期	教科・科目	600	●			<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト(3科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点を点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。 		
		(英語資格)	★	●		●			
後期日程	教科・科目	200	●			<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(2科目)の得点と調査書により、選考する。 			
	提出書類	50		●					
特別選抜	帰国生徒	体育実技	100		●	●	<ul style="list-style-type: none"> 日本の国籍を有する者又は日本国の永住許可を得ている者のうち、外国の学校で学んだ者を対象とする。 体育実技(専門実技試験または体力・運動能力試験)・提出書類・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。 		
		面接	総評		●	●		●	
	社会人	体育実技	100		●	●		<ul style="list-style-type: none"> 社会人としての活動や経験を有した者を対象とする。 体育実技(専門実技試験または体力・運動能力試験)・提出書類・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。 	
		面接	総評		●	●			●
学部留学生 (後期日程)	体育実技	100		●	●	<ul style="list-style-type: none"> 外国の国籍のみを有し、日本国内外を問わず12年の課程を修了(見込み)の者またはこれに準ずる者を対象とする。ただし、日本の高校を卒業した者は、学校教育法に基づく小学校・中学校・中等教育学校・高等学校の在籍期間が通算3年以内である者。 日本留学試験・体育実技(専門実技試験または体力・運動能力試験)・提出書類・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。また、基礎学力、日本語運用能力、活動や経験を通じて身に付けた能力、資質、学ぶ意欲を確認するための口頭試問および短い作文を含む。 			
	面接	総評	●	●	●		●		
スポーツ特別募集	体育実技	100		●	●	<ul style="list-style-type: none"> 全国規模の大会等で優秀な実績を示した者または日本代表として選抜された者を対象とする。(全体の学習成績の状況3.0以上) 調査書・面接(50分程度の作文含む)・体育実技(専門実技試験)により総合的に選考する。 面接(作文含む)は、提出書類・評価項目に基づいて行う。 			
	面接	総評	●	●	●		●		
編・転・学士	教科・科目	100	●			<ul style="list-style-type: none"> 短期大学卒業(見込み)の者、専修学校の専門課程修了(見込み)の者、他大学に継続して2年以上在学したことがある(見込み)の者、学士の学位を有する(見込み)の者を対象とする。 個別試験(1科目)の得点・体育実技(専門実技試験または体力・運動能力試験)・面接・提出書類により総合的に選考する。 			
	体育実技	100		●	●		●		
	面接	総評		●	●		●		

評価項目

A: 知識・理解 / B: 技能 / C: 態度・志向性 / D: その他の能力・資質

●: 重点を置いて評価している / 総評: 点数化はしないが、段階評価し、総合的に評価している



養成する人材像・教育課程の特色

健康運動科学科は、心身の健康の回復や保持増進を目指したスポーツ医・科学分野の知識を有し、創造的・実践的な指導ができる人材を養成することを目的としています。そのために、健康運動、レクリエーション、健康を目的としたストレングス&コンディショニング(S&C)トレーニングに関する理論と実践を統合した教育科目を体系的に配し、3年次より学生の興味・関心及び卒業後の進路に対応した4つのコースを用意しています。健康運動関連資格取得を目指す「健康運動指導者コース」、健康維持増進を目的とした全年齢層に対応する「S&Cトレーナーコース」、現役で中学校・高等学校の保健体育科教員採用試験合格を目指すための「保健体育科教員コース」、幅広い分野で健康運動科学の知識を活かせるキャリアパスを形成する「健康キャリアデザインコース」があり、多様な社会ニーズに対応した健康運動科学の在り方を探求しています。

A

知識・理解

健康運動やスポーツを科学的に捉えるための基礎学力を有している人

心身の健康の回復や保持増進を目的とする健康運動やスポーツ、レクリエーションなどにおいては、有効性に関する科学的検証が重視されます。例えば、解剖学、生理学、スポーツ医学関連科目などの知識をベースに、対象者(体力レベル)にあわせた安全で効果的な運動や指導法を検証し実践します。また、国内外の科学的研究からヒントを得て、スポーツの文化・社会科学的な知見を学ぶことも必要でしょう。このように、健康運動やスポーツの実践は、高等学校までに学んだ幅広い知識と身体運動の融合が必要不可欠なのです。よって、健康運動やスポーツへの興味・関心はもちろん、受験科目の枠を超えて幅広く学び、健康運動やスポーツを科学的に探究しようとする人を歓迎します。

B

技能

健康運動やスポーツの経験を有し、健康の回復や保持増進について科学的に分析できる人

健康運動科学科では、学生自身が、スポーツ医・科学分野に関する知識と分析に基づいて、主体的に健康の回復や保持増進のための運動の在り方を研究します。よって、健康運動科学科に配した多くの教育科目を通じて、主体的に知識を獲得し分析できる素養を持った人を求めます。また、教員に助言を求めるにしても、自身の具体的な疑問や分析(解釈)したことを、的確に伝える表現力が必要です。このように、心身の健康と、運動・スポーツ・レクリエーションなどの関わりについて、「自ら学び」、「深く分析し」、「明確に伝えられる人」、そして、コツコツと日頃の取組みを大切にしている人を歓迎します。

求める人材像
(求める能力)

C

態度・志向性

安全に配慮でき、高い倫理観を持ち、健康運動やスポーツの素晴らしさを伝えたいと考える人

健康運動やスポーツ、レクリエーションの場面では、それに関わる人々の安全性が最優先です。さらに、健康運動の指導者においては、道徳的な価値観、模範的な行動や態度が期待されます。健康運動科学科では、安全と倫理を最優先に、科学的根拠にもとづいて計画・実践・検証を行い、相手の生活背景に寄り添って行動変容を支援できる人材を求めます。周りに耳を傾け、明確な対話で信頼を築き、多様性を尊重しつつ、自らも健康行動の模範となり、周囲と連携して健康運動やスポーツの素晴らしさを広く社会に伝えたいと考える人を歓迎します。

D

その他の能力・資質

学校生活全般でリーダーシップ・コミュニケーション能力を発揮した人や英語資格の取得等に努めた人

健康運動やスポーツを展開する場面では、集団を支え導くようなリーダーシップ能力や、様々な意見や考えを人に伝えるコミュニケーション能力が必要です。また、これらの能力は、健康運動指導士やS&Cトレーナーや保健体育科教員、スポーツ指導者や公務員や企業人、いかなる立場においても役立ちます。よって、保健体育の授業やスポーツの場面に限らず、生徒会活動や学校行事、日常の学校生活においてリーダーシップ・コミュニケーション能力を発揮した人を高く評価します。また、健康運動やスポーツの国際化がますます広がっていることから、英語の4技能(読む・聞く・話す・書く)を総合的に活用できる人も評価します。

入学選抜のねらい

健康運動科学科では、健康運動・スポーツの実践経験と高等学校までの学びを融合させ、健康の回復や保持増進を目的とするスポーツ科学の発展に寄与しようとする人材を広く受け入れます。

そのため、これまでに培われた学力、活動や経験を通じて身につけた能力、資質、学ぶ意欲などを、多面的・総合的に評価する多様な入学試験を実施します。

入学試験での評価

入試制度	選考方法	配点	評価項目				合否判定の方法	
			A	B	C	D		
総合型選抜	総合型	提出書類	総評	●	●			<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(専願制・自己推薦) [一次選考]提出書類(志望理由書・自己推薦書・調査書)により総合的に選考する。 [二次選考]グループディスカッション及び面接(自己PRを含む)により総合的に選考する。 面接は提出書類・評価項目に基づいて行う。
		グループディスカッション	総評		●	●	●	
		面接	総評		●	●	●	
	アスリート特別	提出書類	総評	●	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(競技成績に関する基準あり・学習成績の状況3.0以上・専願制・自己推薦・クラブ部長等推薦) [一次選考]提出書類(調査書・自己推薦書・推薦状・競技歴証明資料)により選考する。 [二次選考]小論文・面接により総合的に選考する。 小論文は、論理的思考力・表現力を評価する。 面接は、提出書類・小論文・評価項目に基づいて行う。
		小論文	総評	●	●			
		面接	総評		●	●	●	
学校推薦型選抜	A方式 [科目型]	教科・科目	100	●				<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(全体の学習成績の状況3.5以上・専願制・学校長推薦) 個別試験(2科目)の得点・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行い、段階評価したうえ点数化する。
		面接	20		●	●	●	
	A方式 [実技型]	体育実技	100		●	●		<ul style="list-style-type: none"> 入学を強く希望する者を対象とする。(全体の学習成績の状況3.0以上・専願制・学校長推薦) 面接・体育実技(体力・運動能力試験)により総合的に選考する。 体力・運動能力試験では専門競技における競技歴についても考慮する。 面接は提出書類・評価項目に基づいて行い、段階評価したうえ点数化する。
		面接	20	●	●	●	●	
一般選抜	系統別日程	教科・科目	400	●				<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(3科目)の得点により、選考する。 3科目のうち、最高得点の1科目を2倍する。[傾斜配点]
		面接	20		●	●	●	
	前期日程	教科・科目	200	●				<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(3科目)の得点により、選考する。 小論文は、論理的思考力・表現力を評価する。また、調査書の評価も含む。
		小論文	100	●	●			
	前期日程・共通テスト併用型	教科・科目	400	●				<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(前期日程2科目)と大学入学共通テスト(2科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。
		(英語資格)	★	●			●	
	共通テスト利用型Ⅰ期	教科・科目	400	●				<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト(4科目)の得点と調査書により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。
		提出書類	100		●			
		(英語資格)	★	●			●	
	共通テスト利用型Ⅱ期	教科・科目	600	●				<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト(3科目)の得点により、選考する。 ★指定する英語の資格・検定試験の資格・得点は点数化し、大学入学共通テストの英語(リーディング・リスニング)の得点に加点する。
(英語資格)		★	●			●		
後期日程	教科・科目	200	●				<ul style="list-style-type: none"> 個別試験(2科目)の得点と調査書により、選考する。 	
	提出書類	50		●				
特別選抜	帰国生徒	小論文	100	●	●			<ul style="list-style-type: none"> 日本の国籍を有する者又は日本国の永住許可を得ている者のうち、外国の学校で学んだ者を対象とする。 個別試験(1科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。 小論文は、簡単な英文和訳を含み、論理的思考力・表現力を評価する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。
		面接	総評		●	●	●	
	社会人	小論文	100	●	●			<ul style="list-style-type: none"> 社会人としての活動や経験を有した者を対象とする。 個別試験(1科目)の得点・提出書類・面接により総合的に選考する。 小論文は、簡単な英文和訳を含み、論理的思考力・表現力を評価する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。
		面接	総評		●	●	●	
	学部留学生(後期日程)	体育実技	100		●	●		<ul style="list-style-type: none"> 外国の国籍のみを有し、日本国内外を問わず12年の課程を修了(見込み)の者またはこれに準ずる者を対象とする。ただし、日本の高校を卒業した者は、学校教育法に基づく小学校・中学校・中等教育学校・高等学校の在籍期間が通算3年以内である者。 日本留学試験・体育実技(体力・運動能力試験)・提出書類・面接により総合的に選考する。 面接は、提出書類・評価項目に基づいて行う。また、基礎学力、日本語運用能力、活動や経験を通じて身に付けた能力、資質、学ぶ意欲を確認するための口頭試問および短い作文を含む。
		面接	総評	●	●	●	●	
編・転・学士	教科・科目	100	●				<ul style="list-style-type: none"> 短期大学卒業(見込み)の者、専修学校の専門課程修了(見込み)の者、他大学に継続して2年以上在学したことがある(見込み)の者、学士の学位を有する(見込み)の者を対象とする。 個別試験(2科目)の得点・面接・提出書類により総合的に選考する。 	
	体育理論	100	●					
	面接	総評		●	●	●		

評価項目

A: 知識・理解 / B: 技能 / C: 態度・志向性 / D: その他の能力・資質

●: 重点を置いて評価している / 総評: 点数化はしないが、段階評価し、総合的に評価している

